

北竜町地域公共交通計画（案）への意見募集について

北竜町では、交通事業者と連携した持続可能な公共交通のあり方を規定した「北竜町地域公共交通計画」（案）についてとりまとめました。

次のとおり資料を公表するとともに、町民の皆様のご意見を募集いたします。

1 資料の供覧場所

北竜町役場企画振興課

（土・日・祝日を除く午前8時30分～午後5時15分まで）

※ 町ホームページにも掲載しています。

2 意見募集期間 令和3年3月1日（月）～令和3年3月15日（月）

3 意見提出方法

意見提出様式（町ホームページに掲載）または任意様式に住所、氏名、電話番号、ご意見等を記入し、持参または郵送、FAX、電子メールのいずれかの方法により提出（※電話や口頭でのご意見はお受けできかねます。）

4 提出・問い合わせ先

〒078-2512

雨竜郡北竜町字和11-1

北竜町役場企画振興課企画係

電話 0164-34-2111 FAX 0164-34-2117

Mail info@town.hokuryu.hokkaido.jp

5 意見の取り扱い

・お寄せいただいたご意見やご意見に対する町の考え方は、住所・氏名等の個人情報を除いて、後日概要を公表いたします。

・ご意見に対し個別の回答は行いません。

・住所・氏名等が記載されていない場合は、ご意見として受け付けできません。

・ご記入いただいた住所・氏名・電話番号等は、ご意見の内容に不明な点があった場合等の連絡に使用いたします。

北竜町地域公共交通計画 (素案)

北 竜 町

令和3年3月

目次

第1章 計画策定の目的と構成	1
1-1. 計画策定の目的.....	1
1-2. 計画の構成.....	2
第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要	3
2-1. 地域及び公共交通の概要.....	3
(1) 気象.....	3
(2) 人口.....	4
(3) 産業.....	8
(4) 主要な道路網.....	9
(5) 公共・公益施設.....	10
(6) 公共交通等の状況.....	11
2-2. 上位関連計画等による公共交通の位置づけ.....	17
(1) 北竜町総合計画.....	17
(2) 北竜町まち・ひと・しごと創生総合戦略.....	18
第3章 地域公共交通実態調査	19
3-1. 住民アンケート調査の概要.....	19
(1) 目的.....	19
(2) アンケート調査の概要.....	19
(3) アンケートの配付・回収方法.....	19
(4) 配付・回収のスケジュール.....	20
(5) アンケート調査の配付・回収数.....	20
(6) アンケート結果の概要.....	20
(7) 一般アンケート調査.....	23
(8) 高校生アンケート調査.....	61
3-2. バス乗降調査.....	68
(1) 滝川北竜線.....	68
(2) (深川) 北竜線.....	74
3-3. 関係町ヒアリング結果.....	78
第4章 地域公共交通の課題整理	79
4-1. 主要な課題の整理.....	79
(1) 中央バス滝川北竜線の代替公共交通の確保.....	79
(2) スクールバス路線の統合等によるコスト縮減.....	79
(3) 乗合タクシーの収益性改善が必要.....	79
(4) 将来的な空知中央バス(深川)北竜線の検討.....	80
4-2. 計画策定の方向性.....	81
(1) 中央バス滝川北竜線の代替公共交通の確保.....	81
(2) スクールバス路線の統合等によるコスト縮減.....	81
(3) 乗合タクシーの収益性改善が必要.....	81

(4) 将来的な空知中央バス（深川）北竜線の検討	81
第5章 地域公共交通計画計画の策定	82
5-1. 計画の基本的な方針	82
(1) コンセプト	82
(2) 基本目標	82
(3) 計画の区域	82
(4) 計画の期間	82
5-2. 計画に位置づける取組み及び実施主体	83
(1) 北竜町運営自家用有償運行	83
(2) 乗合タクシー運行	91
(3) 連絡施設間運行便	93
(4) スクールバス一般利用（北竜町運営自家用有償運行）	94
(5) 空知中央バス(株)（深川）北竜線	95
(6) モビリティ・マネジメント	96
(7) デマンド交通支援プログラム	99
5-3. 計画の進行管理	100
(1) 計画の目標	100
(2) 取組みの期間	101
(3) 計画の達成状況の評価	102
(4) その他計画の実施に関し余市町が必要と認める事項	103

第1章 計画策定の目的と構成

1-1. 計画策定の目的

北竜町は北海道空知総合振興局管内の北部に位置し、人口1,868人（平成31年1月1日現在）、総面積158.82km²で、西部は暑寒別岳を主峰とする増毛山脈がそびえ、東部は農耕に適した平坦地が広がっている。町内の交通状況は国道275号が南北に、国道233号と主要道道増毛稲田線が東西に貫き、地域中心都市である滝川市と深川市にはそれぞれ国道275号と国道233号によりアクセスしている。

本町の人口推移と高齢化の状況は、国勢調査ベースで人口推移が10年間で17%、20年間では29%減少、高齢化率は10年間で10.5ポイント、20年間で18.6ポイント増加し、平成27年では43.4%と人口減少及び高齢化が進行する地域である。

公共交通は北海道中央バス(株)の滝川北竜線、空知中央バス(株)の北竜線（深川市にアクセス）、沿岸バス(株)の留萌旭川線、平成26年度から地域内フィーダー系統として本格運行している乗合タクシーが2区域、スクールバスによる市町村運営有償運送が3路線、北竜町福祉有償運送により輸送を行っている。しかし滝川北竜線と北竜線については人口減少の影響を大きく受け、滝川北竜線が令和元年10月、北竜線が令和3年10月から市町村単独補助となるため、年間約1,300万円の負担が必要となり地域中心都市にアクセスする効率的な公共交通手段の確保が急務である。

このため高齢化が特に著しい地域や既存の公共交通の輸送状況や、まちづくりに関する上位計画及び関連計画等を把握して本町の公共交通の課題を整理するとともに、公共交通課題への対応と広域的な公共交通ネットワークとの接続に配慮することにより、他市町村との連携による交通圏全体を見据えた（仮称）北竜町地域公共交通計画を策定するものである。

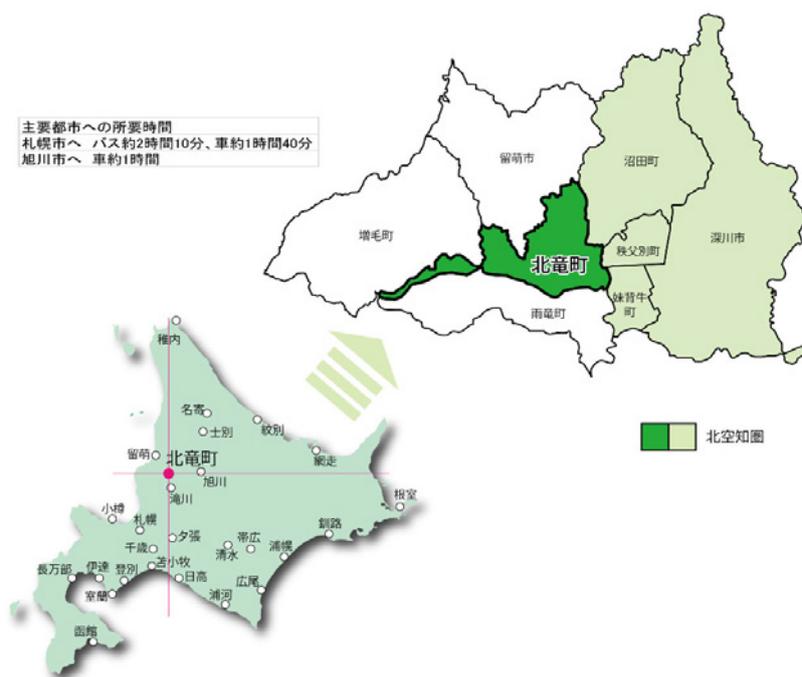


図 位置図

1-2. 計画の構成

本計画の構成は、以下のとおりである。

第1章 計画策定の目的と構成

1-1. 計画策定の目的

1-2. 計画の構成



第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要

2-1. 地域及び公共交通の概要

2-2. 上位関連計画等による公共交通の位置づけ



第3章 地域公共交通実態調査

3-1. アンケート調査

3-2. バス乗降調査※

3-3. 関係市町ヒアリング



第4章 地域公共交通の課題整理

4-1. 課題の整理

4-2. 計画策定の方向性



第5章 地域公共交通計画素案の策定

5-1. 基本方針と計画区域

5-2. 計画に位置づける取組み及び実施主体

5-3. 計画の進行管理

※北海道中央バス(株)による乗降調査結果を使用

第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要

2-1. 地域及び公共交通の概要

(1) 気象

気候は内陸性気候であり、冬季は南西風が多く寒冷で、積雪が1.9 mにもなりますが、夏季は比較的温暖な地域となっています。

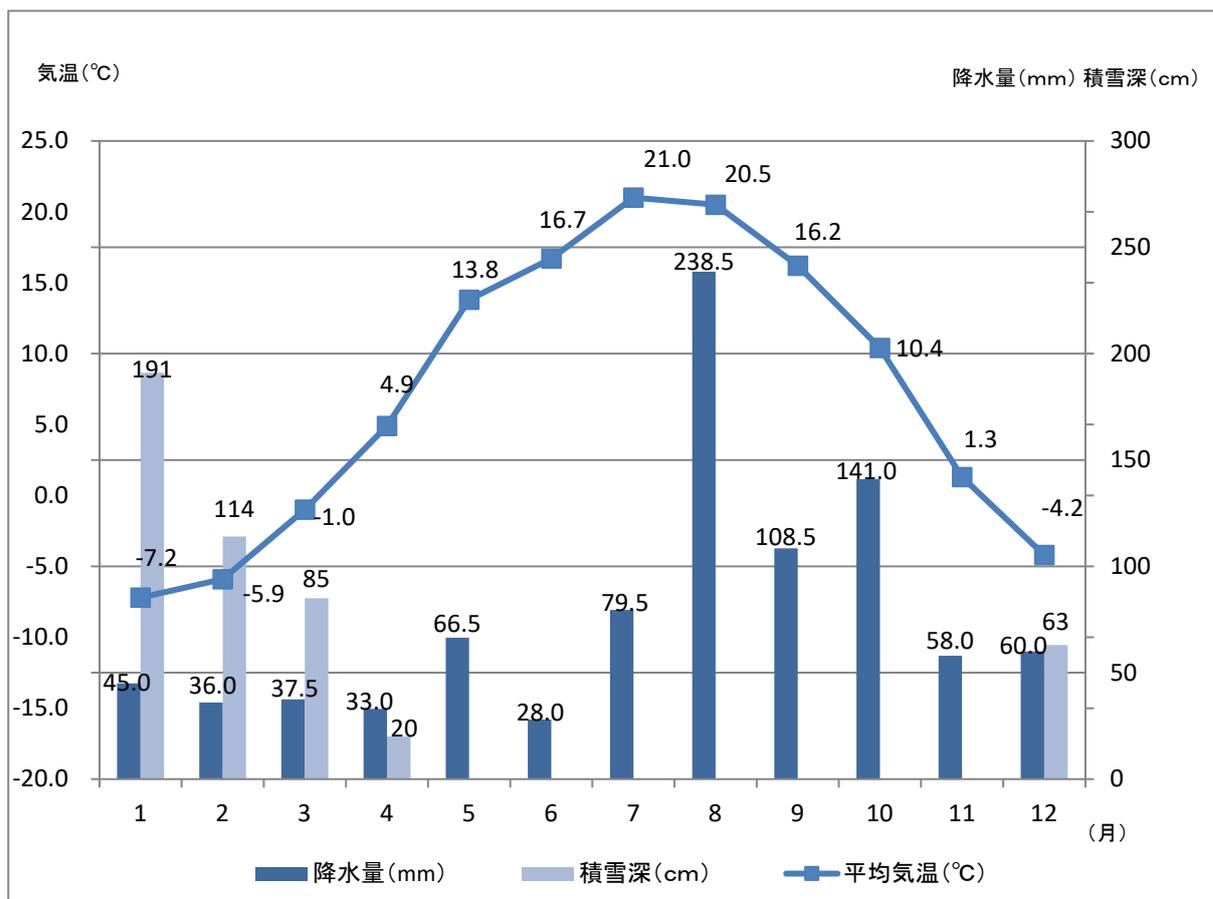


図 気象

資料：気象庁気象観測統計 2019年

(2) 人口

①人口・世帯数の推移

人口は平成27年が1,981人となっており、昭和60年の3,266人と比較すると30年間で4割が減少している。また世帯数は平成27年が782世帯となっており、昭和60年の873世帯と比較すると30年間で1割が減少している。

世代別比率は65歳以上の高齢者比率が平成27年で43.4%となっており、昭和60年の15.9%と比較すると30年間で27.5ポイントが増加している。一方15歳未満の若年者比率は平成27年が9.0%となっており、昭和60年の19.4%と比較すると30年間で10.4ポイントが減少している。

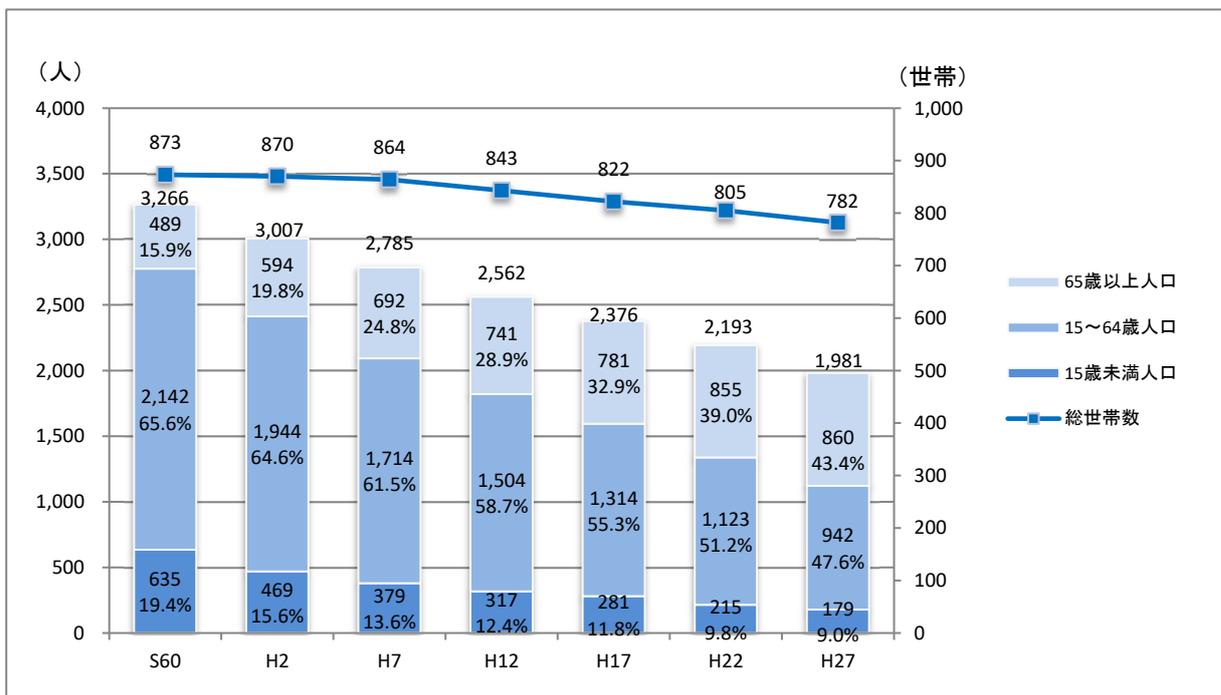


図 年齢別人口・世帯数の推移

資料：国勢調査

②行政区別高齢者比率

行政区別の高齢者比率は「三谷」がランク6（50%～）と最も高く、続いて「美葉牛」「岩村」「碧水」「西川」及び「和」がランク4（40～50%）となっている。

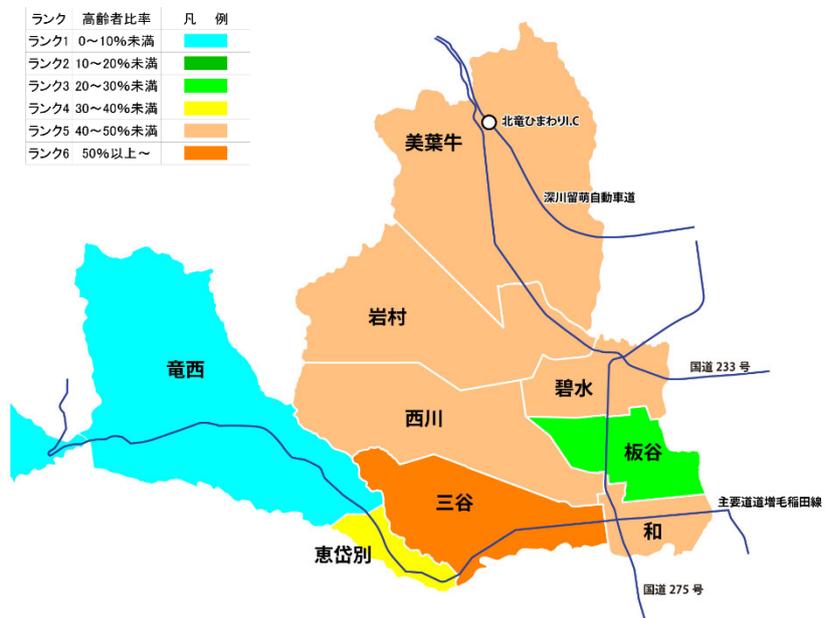


図 行政区別高齢者比率

③行政区別若年者比率

行政区別の若年者比率は「板谷」がランク4（15～20%）と最も高く、続いて「和」がランク3（10～15%）となっている。

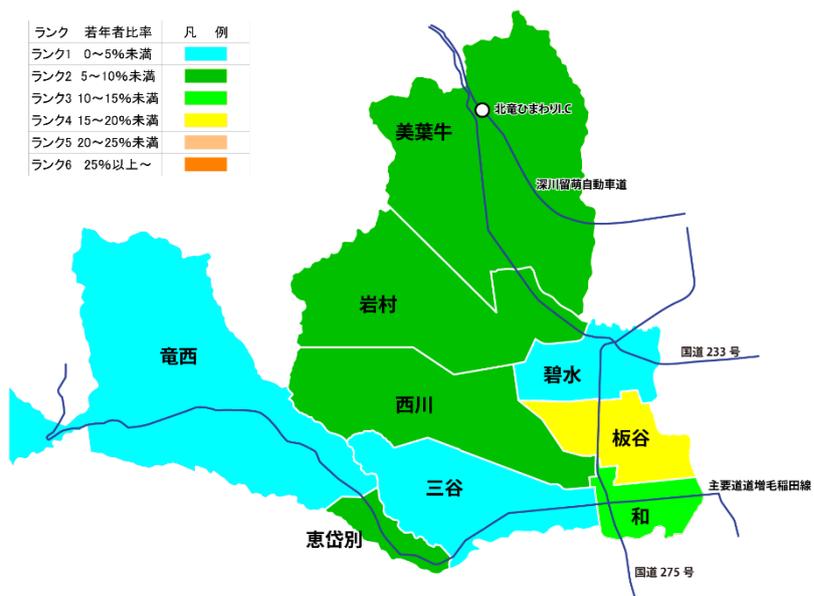


図 行政区別若年者比率

④ 従業地・通学地の状況

1) 従業地

北竜町在住者は深川市への通勤が多く、深川市在住者についても同数程度が通勤している。その他滝川市在住者からの通勤が多い状況となっている。

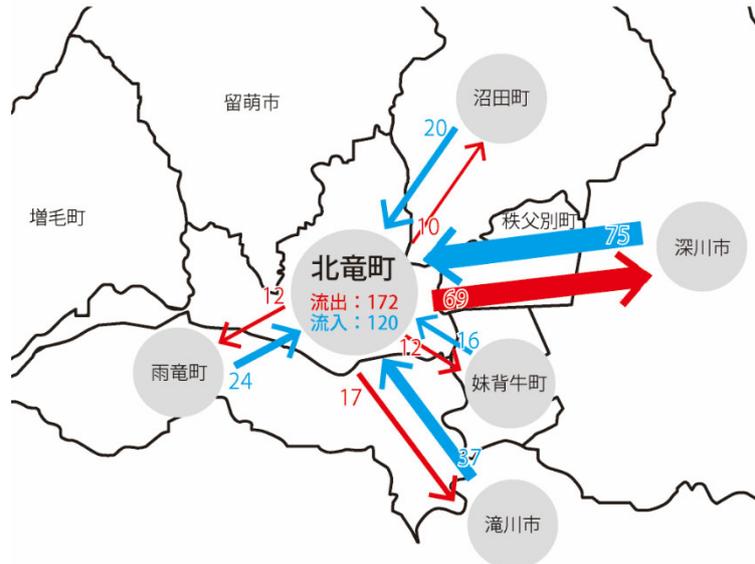


図 従業地

資料：平成 27 年国勢調査

2) 通学地

北竜町の 15 歳以上の通学者は、深川市が 39 人と最も多く、他は滝川市への通学が 17 人となっている。



図 通学地

資料：平成 27 年国勢調査

⑤ 高校別学生数と今後の高校生徒数の見込み

高校別の生徒数は滝川高等学校が 14 人と最も多く、続いて深川西高等学校が 10 人、滝川西高等学校が 4 人の順となっている。

令和 2 年 10 月の住民基本台帳における今後の高校生徒数の見込みは、令和 2 年生徒数に対して 3～21 ポイントの減少で推移することと思われる。

表 高校別生徒数

市町名	学校名	生徒数(人)
滝川	滝川高等学校	14
	滝川西高等学校	4
小計		18
深川	深川西高等学校	10
小計		10
砂川	砂川高等学校	1
旭川	旭川西高等学校	1
	旭川東高等学校	1
	旭川工業高等専門学校	1
小計		4
幌加内	幌加内高等学校	2
合計		34

資料：北竜町（令和 2 年度）

表 今後の高校生徒数の見込み

年齢	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
10	13	13	13	13	13	13	13
11	15	15	15	15	15	15	15
12	2	2	2	2	2	2	2
13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14
15	6	6	6	6	6	6	6
16	7	7	7	7	7	7	7
17	15	15	15	15	15	15	15
18	12	12	12	12	12	12	12
19	17	17	17	17	17	17	17
20	14	14	14	14	14	14	14

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
高校生	34	28	27	33	29	30	30
伸び率 (R2年比)	1.00	0.82	0.79	0.97	0.85	0.88	0.88

資料：住民基本台帳（令和 2 年 10 月 1 日）

(3) 産業

① 農業

農業産出額は概ね2,500百万円から2,900百万円で推移している。

北竜町の主要な農産品は「米」となっており、農業産出額の8割を占める。

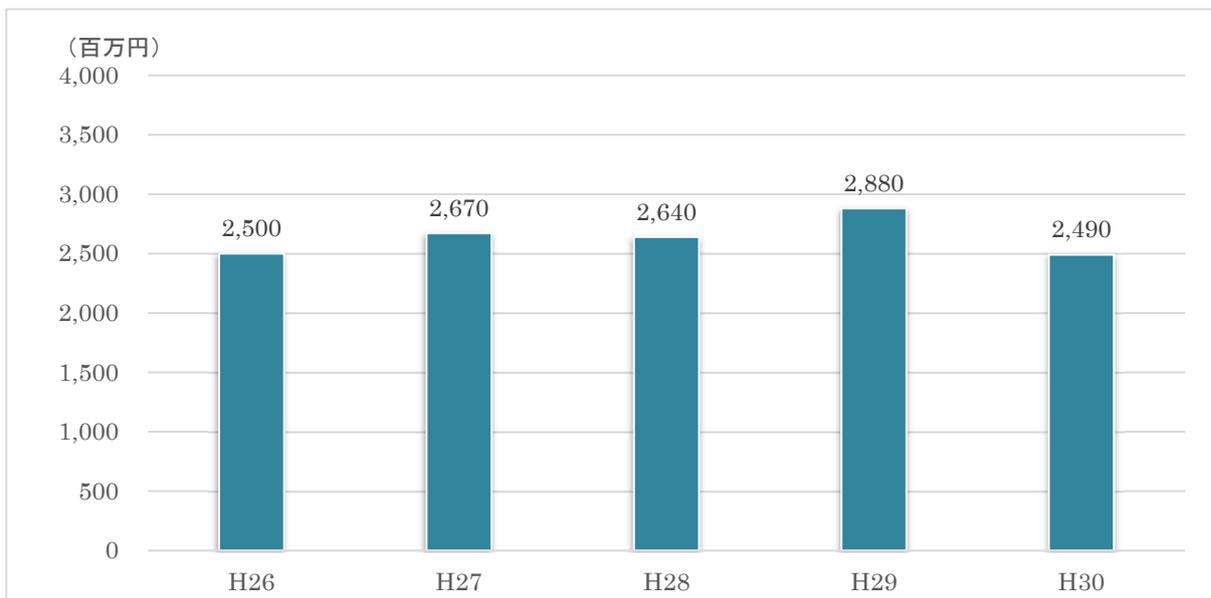


図 農業産出額（推計）の推移

資料：農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果（農林水産省）

② 商業

商店数、従業者数及び商品販売額とも減少傾向を示している。

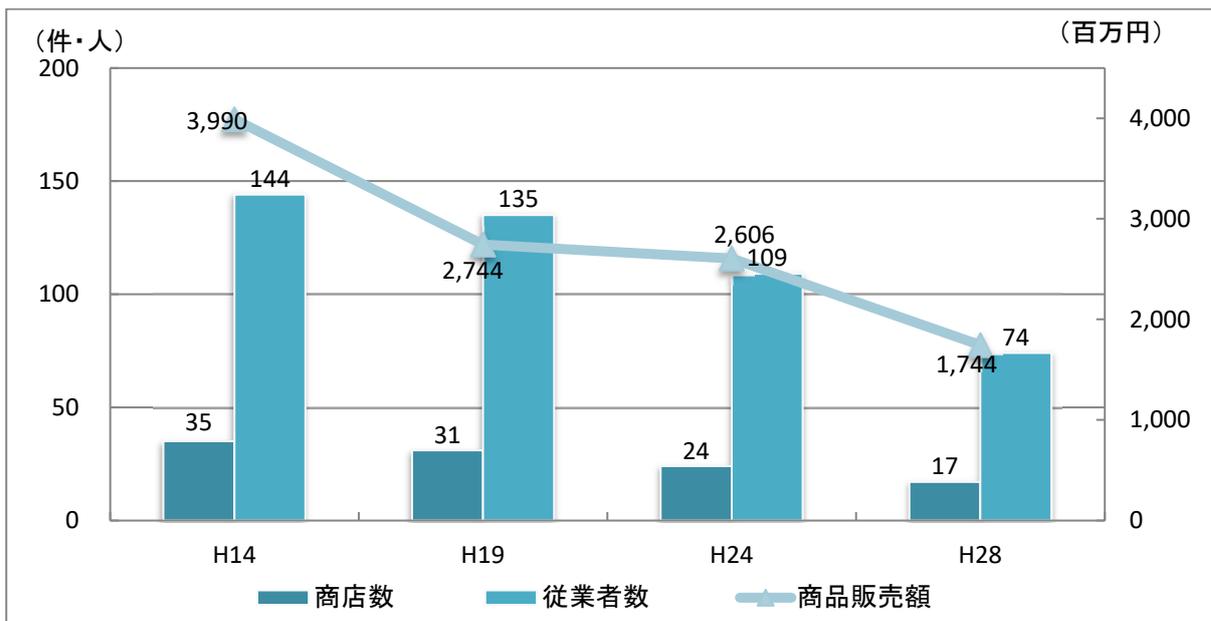


図 商品販売額等の推移

資料：商業統計、商業センサス

(4) 主要な道路網

町域の北部には深川留萌自動車道が東西に貫き、北端には北竜ひまわり I C が設置されている。

北竜町の主要な道路は国道 275 号が南北に貫いているとともに、国道 233 号と主要道増毛稲田線は東西に貫いている。その他一般道主要町道により道路網が形成されている。

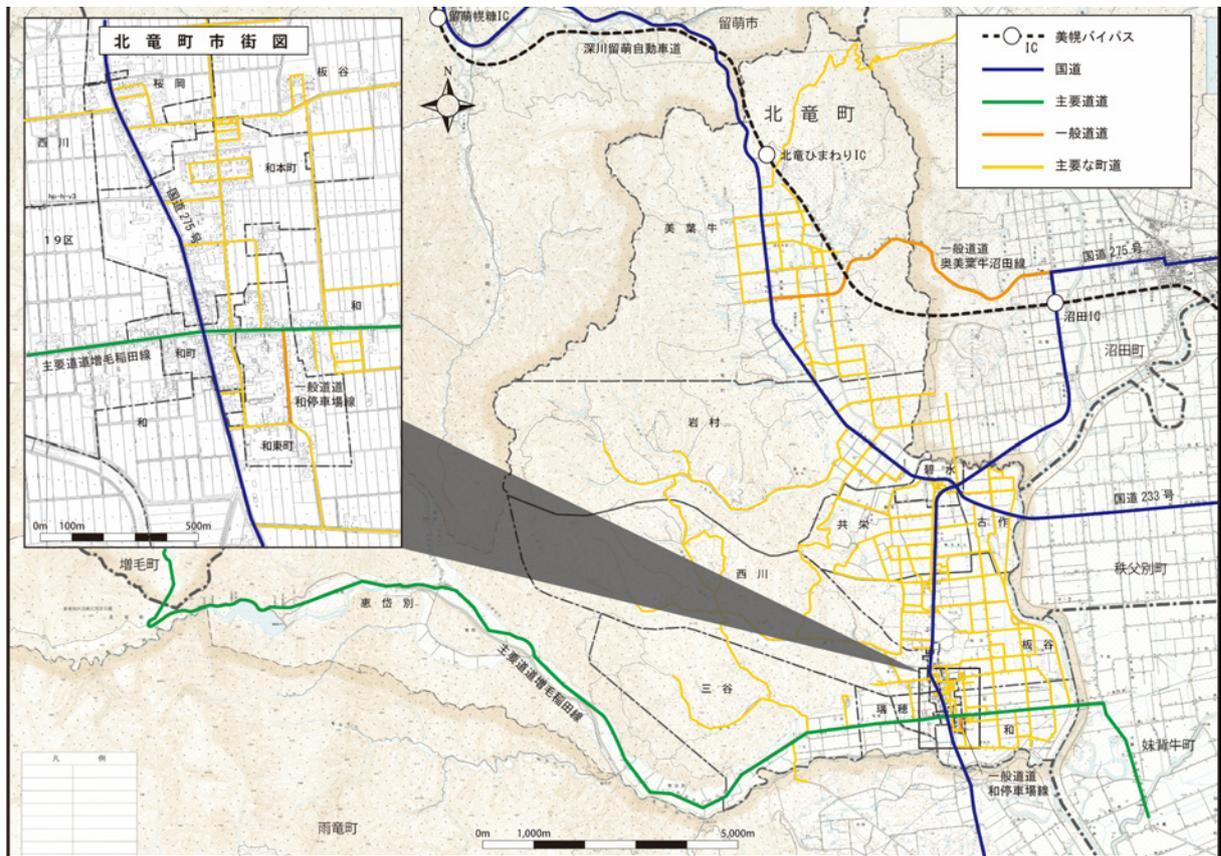


図 主要道路網図

(5) 公共・公益施設

公共・公益施設は、和市街地周辺、サンフラワーパーク北竜温泉及び碧水市街地周辺に集積している。

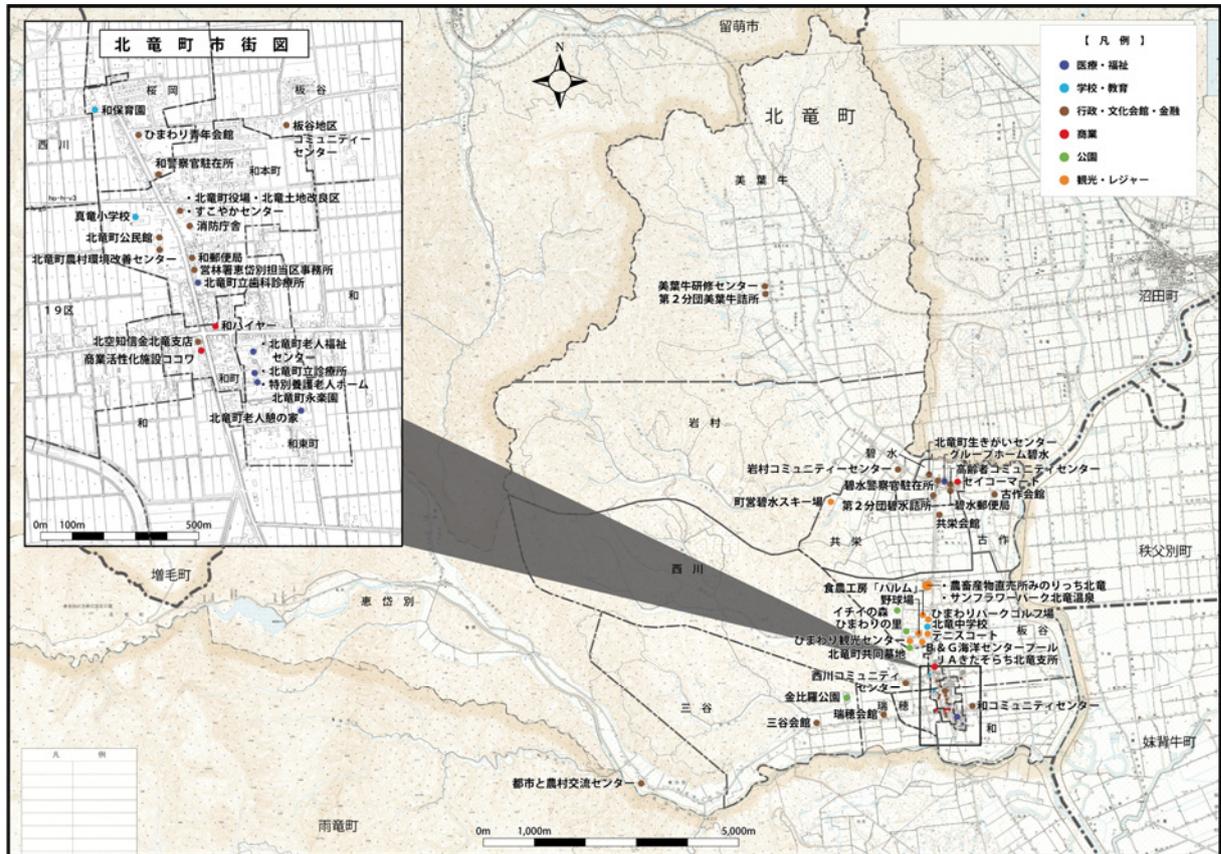


図 公共・公益施設分布図

資料：北竜町

(6) 公共交通等の状況

①民間路線バスの路線

民間路線バスは、北竜町を南北に貫く国道 275 号を滝川北竜線が運行し、滝川市にアクセスするが、令和 4 年 3 月に運転手不足と輸送人数の減少により、廃止となる予定である。

(深川) 北竜線は主要道道増毛稲田線等を運行し、深川市にアクセスするバス路線となっている。また、国道 233 号には留萌旭川線が運行し、深川市と旭川市にアクセスする。

その他広域的には雨竜町に深川滝川線が運行し、滝川市と深川市にアクセスすることが可能である。

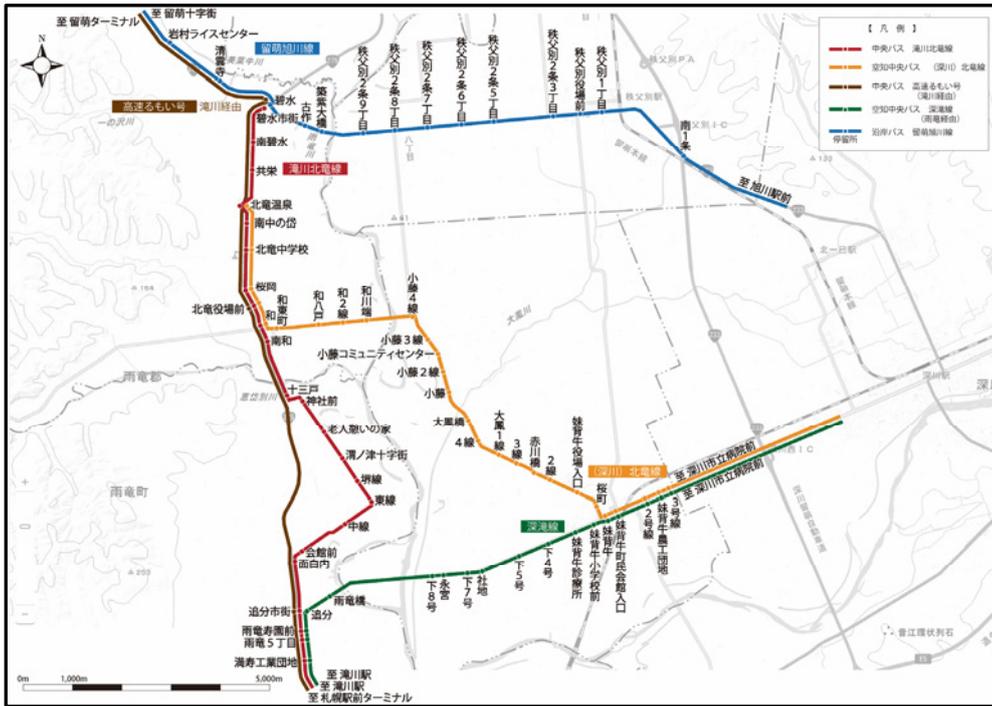


図 民間路線バス網図 (広域)

資料：北海道中央バスホームページ

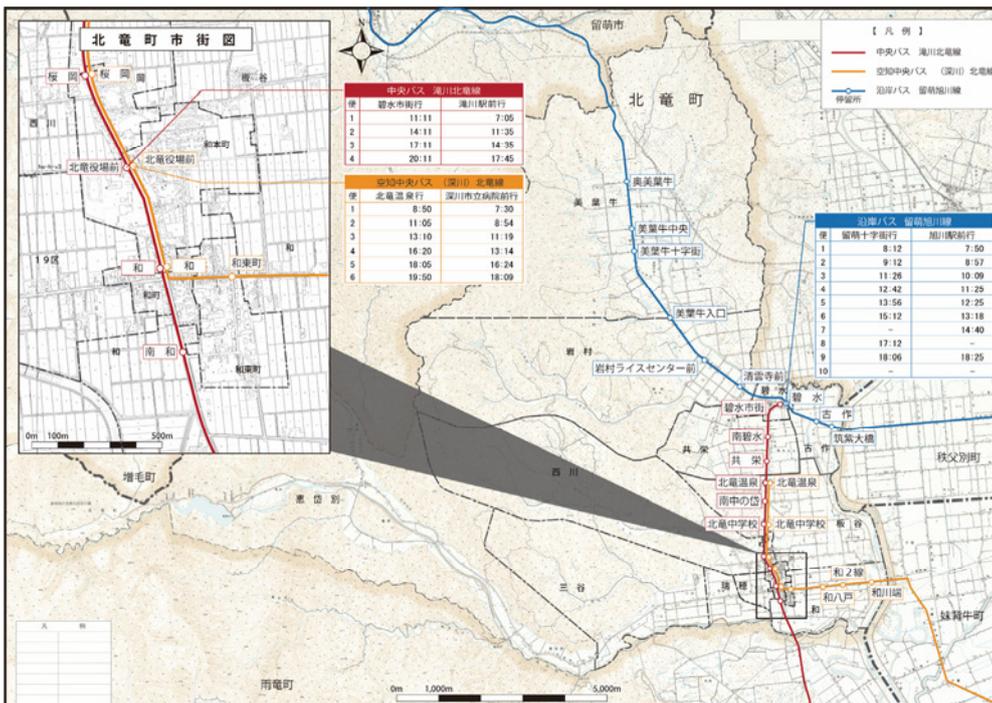


図 民間路線バス網図

資料：北海道中央バスホームページ

②民間バス路線の輸送人数

滝川北竜線と（深川）北竜線の輸送人数は、令和元年度が 24,751 人と 27,239 人となっており、平成 22 年度と比較するとそれぞれ 46 ポイント、57 ポイントが減少している。留萌旭川線は平成 28 年度に持ち返したが再び減少傾向を示し、令和元年度は 99,742 人となっており、平成 22 年度と比較すると 19 ポイントが減少している。

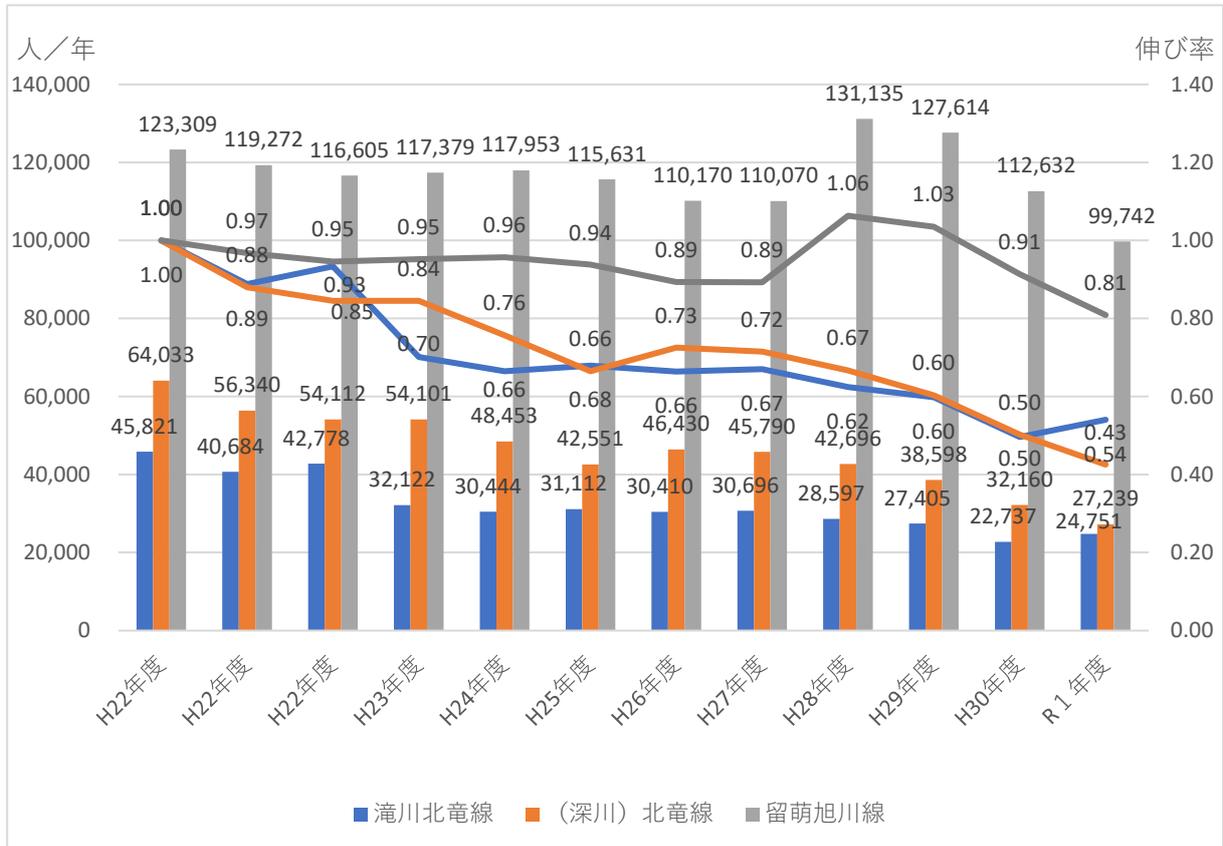


図 民間路線バス輸送人数等の推移

資料：北海道中央バス(株)、空知中央バス(株)、沿岸バス(株)

③乗合タクシー

乗合タクシーは利用登録者の自宅前と市街地中心部等で設定された連絡施設施設 19 箇所との間を輸送するもので、美葉牛碧水方面、竜西西方面の2方面で運行している。平日の運行便数は5、6便、土日祝日は3便となっている。

輸送人数は平成 27 年度に運行を開始して平成 30 年度まで増加したが、頭打ちとなり令和元年度は減少し、1,884 人となっている。

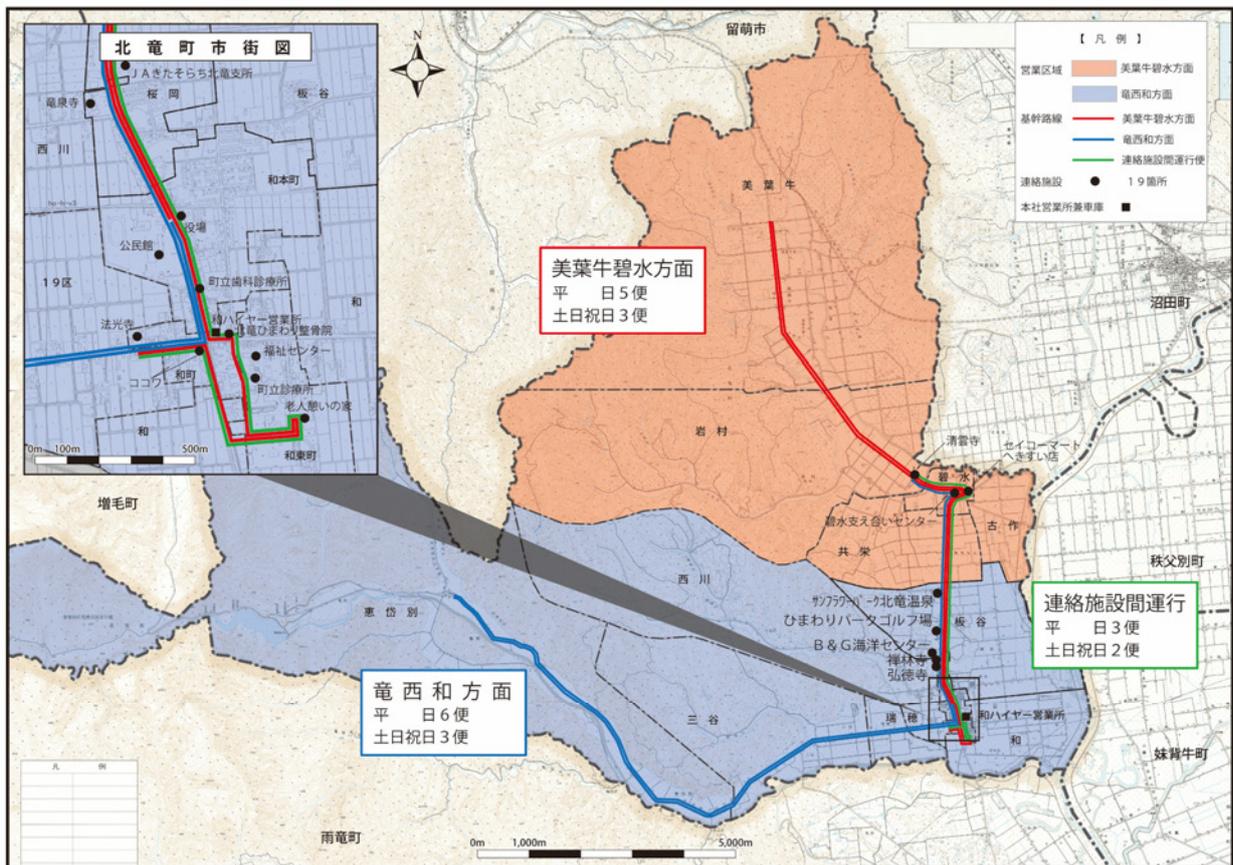


図 乗合タクシー運行区域図

資料：北竜町

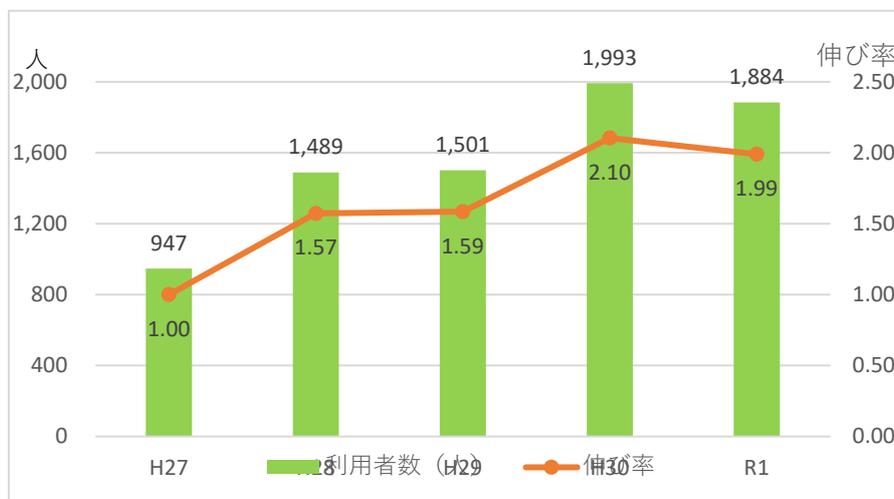


図 乗合タクシー輸送人数の推移

資料：北竜町、和ハイヤー(有)

④スクールバス路線・輸送人数

スクールバスは小学生と中学生の児童生徒の登下校だけではなく、北竜町運営有償運送により住民の輸送を行っている。バス路線は美葉牛線、碧水線及び竜西線の3路線となっているが、少子化の影響によりバスに空席が目立つようになってきている。

一般の輸送人数は減少しつつも令和元年度で2,674人となっており、乗合タクシーの輸送人数の1.4倍となっている。

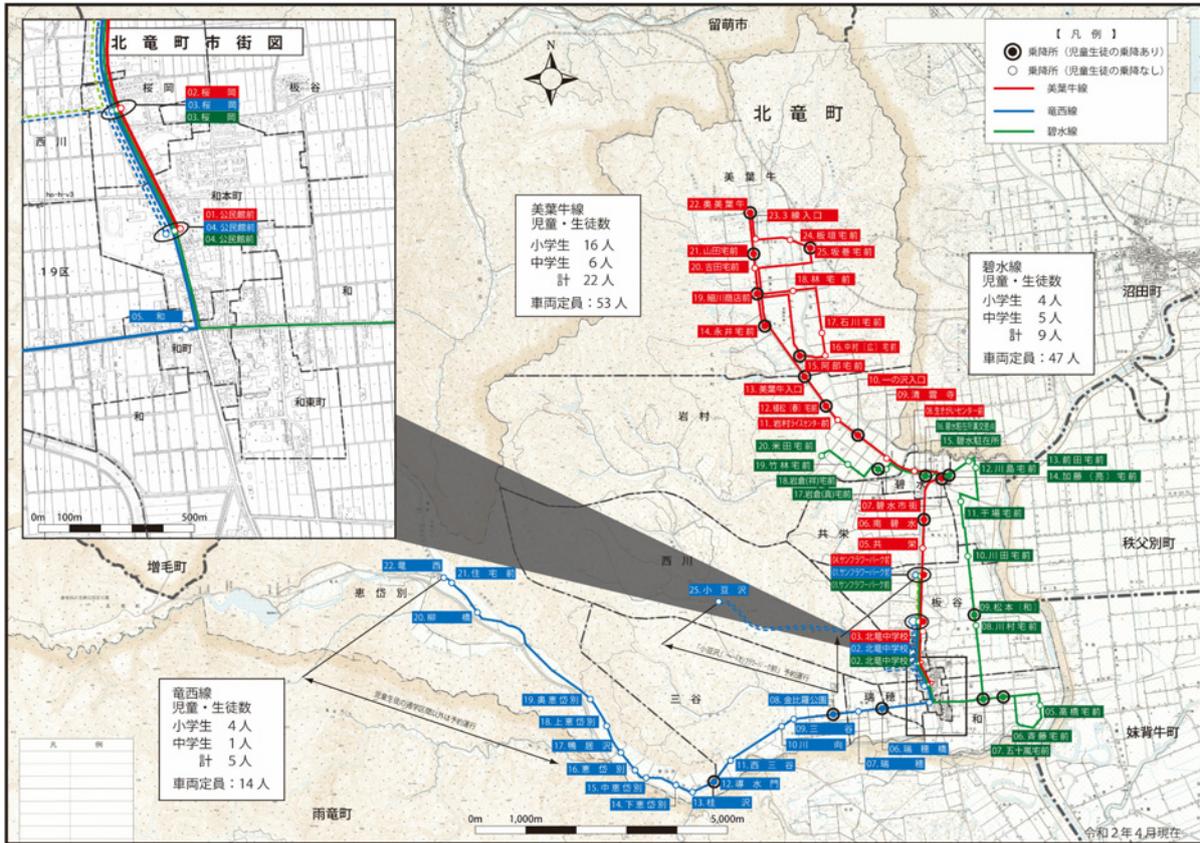


図 スクールバス路線網図

資料：北竜町（令和2年4月現在）

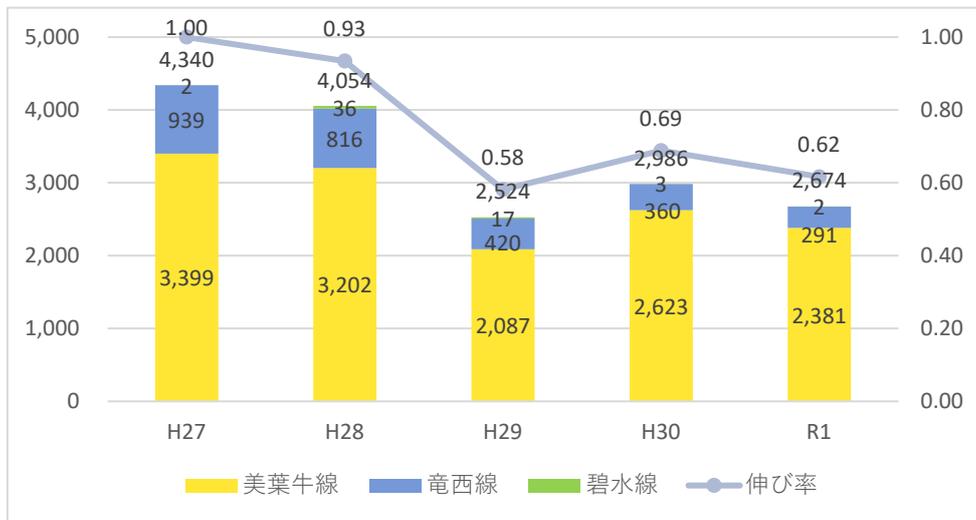


図 スクールバス一般利用輸送人数の推移

資料：北竜町

⑤スクールバス 1 便当たり輸送人数（一般）

1 便当たりの輸送人数は、3 路線とも 1 人が最も多い状況である。なおタクシー車両でも輸送できる人数として 4 人以下の便数は、全体の 95%となっている。

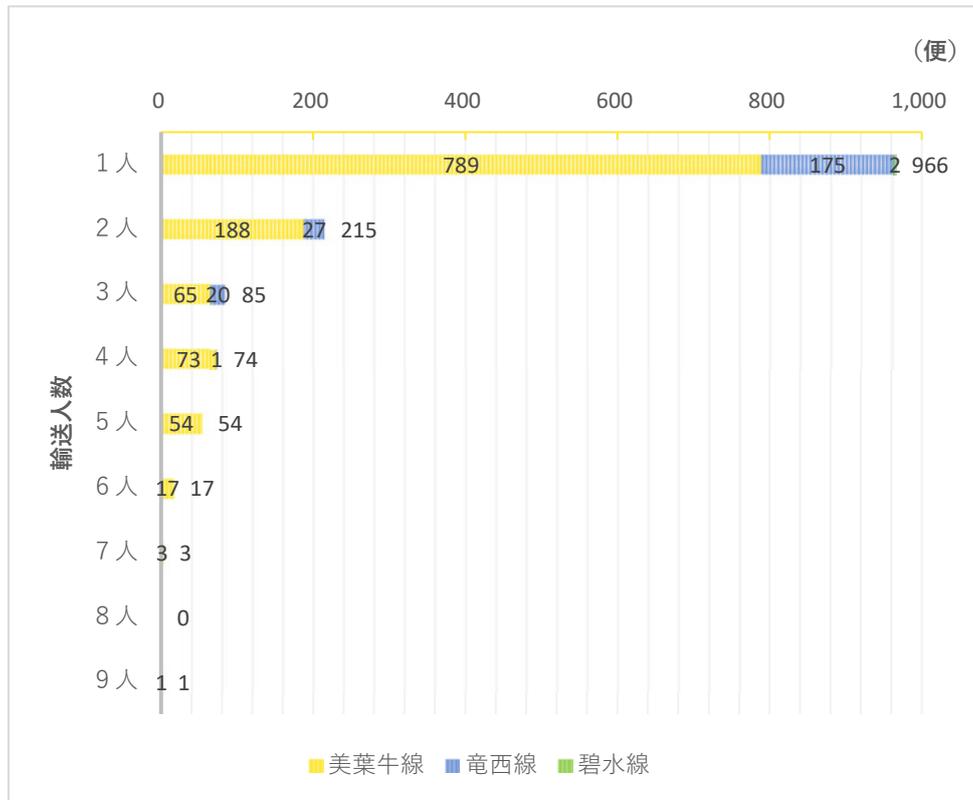


図 スクールバス 1 便当たり輸送人数（一般利用）

資料：北竜町

⑥公共交通の収支状況

(深川)北竜線の経常収益率0.52に対し、滝川北竜線の経常収益率は0.27、乗合タクシーが0.08となっている。

また、北竜町単独費の内訳は滝川北竜線が75%と最も多く、続いて乗合タクシーが18%となっている。

表 公共交通の収支状況

区分	路線名	支出		収入				
		経常費用	経常収益	国・道補助金等	市町村補助金等	内、北竜町	事業者負担	収入計
地域間幹線系等	北海道中央バス(株)	26,619	7,149		19,470	8,983		26,619
	滝川北竜線	1.00	0.27		0.73	0.34		1.00
	空知中央バス(株) (深川)北竜線	20,263	10,461	3,711	3,388	874	2,703	20,263
		1.00	0.52	0.18	0.17	0.04	0.13	1.00
	計	46,882	17,610	3,711	22,858	9,857	2,703	46,882
		1.00	0.38	0.08	0.49	0.21	0.06	1.00
地域内フィーダー系統等	和ハイヤー(有)	4,802	363	2,290	2,149	2,149		4,802
	乗合タクシー	1.00	0.08	0.48	0.45	0.45		1.00
	スクールバス 一般利用	12,262	267	17,529	-5,534	-5,534		12,262
		1.00	0.02	1.43	-0.45	-0.45		1.00
	計	17,064	630	19,819	-3,385	-3,385		17,064
		1.00	0.04	1.16	-0.20	-0.20		1.00
合計		63,946	18,240	23,530	19,473	6,472	2,703	63,946
		1.00	0.29	0.37	0.30	0.10	0.04	1.00

令和元年値・各バス会社、ハイター会社からの提供データ
上段は金額、下段は経常費用に対する比率

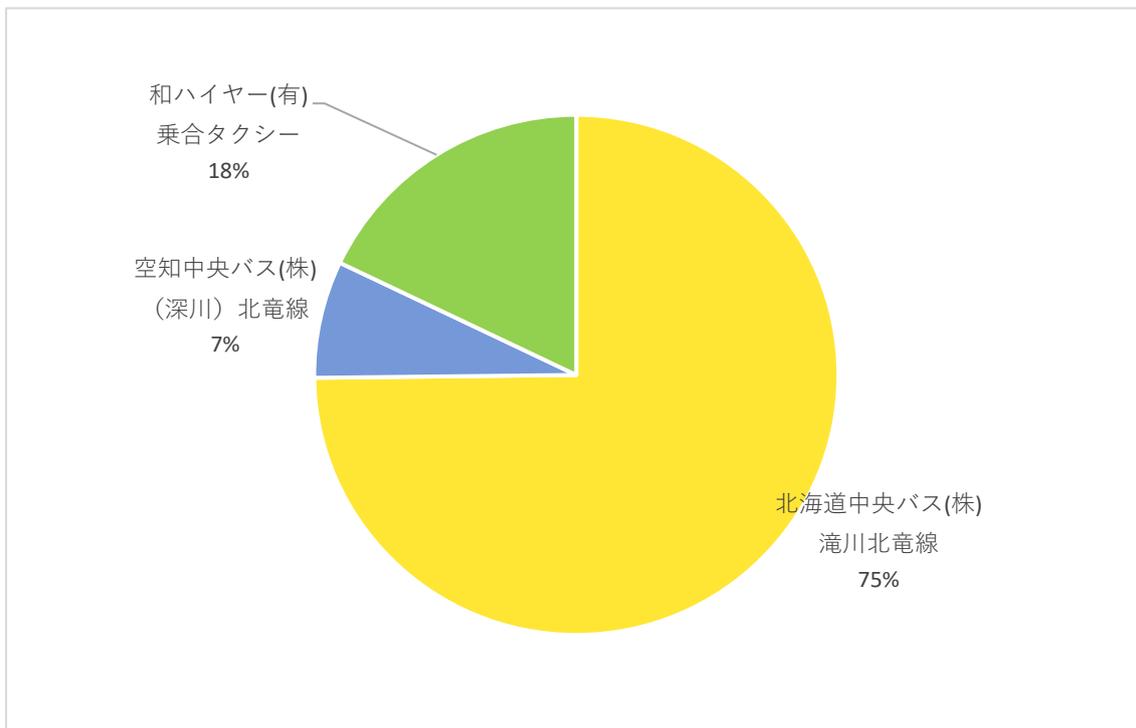


図 北竜町単独費に占める各種公共交通の割合

2-2. 上位関連計画等による公共交通の位置づけ

(1) 北竜町総合計画

2019年度から2028年度における10か年の北竜町のテーマを

「あかるい農法 ひまわりの北竜町」

と掲げ、6つの基本目標を定めている。

地域公共交通に関係する基本目標は「安心して生活できる晴れやかなまち」としており、町民生活の基本となる生活インフラを持続的・安定的に提供できるまちづくりを進めるとともに、防災・防犯等の安全面における生活機能の向上を図り、町民がいつまでも安心して安全に暮らせるまちづくりを進めるとしている。

地域公共交通についての現状と課題は以下の2点が挙げられている。

- ・広域公共交通については、町民の交通手段の一つであるバス路線の確保のため、バス事業者に対し支援を行っているが、便数が減少している状況にあり、今後も現行路線の維持・確保が求められている。
- ・本町では、地域公共交通として住民混乗のスクールバスを運行しているほか、乗合タクシーの運行も行っている。乗合タクシーの利用者は年々増加傾向にあるが、連絡施設の追加要望があることから今後の対応が課題となっている。

現状と課題に対して次のとおり基本方針を設定している。

- ・町民の交通手段の一つであるバス路線の確保のため、バス事業者への支援を継続する。
- ・交通弱者への支援として、地域公共交通の充実に努める。

基本方針を実現するために以下の主要施策を設定している。

○広域バス路線の維持

- ・町民の生活交通を確保するため、関係機関やバス事業者と連携し運行に努める。
- ・広報誌やホームページを活用し、地球温暖化の防止や交通事故の減少をはじめとするバス利用のメリットについてのPRや、町ぐるみで地域の生活交通を守り育てていく意識の啓発を行い、バスの利用促進に努める。

○地域公共交通対策

- ・今後も交通弱者対策として地域公共交通対策を継続するとともに、乗合タクシーは連絡施設の追加について運行事業者を含めた協議を進める。

地域公共交通の成果目標を以下のとおり設定している。

- ・地域公共交通登録者数 229人（2018年度末） → 240人（2023年度末）

(2) 北竜町まち・ひと・しごと創生総合戦略

北竜町の人口ビジョンとの関係を整理する中で、北竜町人口ビジョン（将来目標人口）が以下のとおり示されている。

令和2年人口 1,798 人に対し、令和7年における目標人口は 1,650 人となっている。



図 北竜町人口ビジョン

総合戦略において地域公共交通関連する基本目標、基本的方向、事業内容としては以下が示されている。

- 基本目標：ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる。
- 基本的方向：安全で安心な暮らしの推進にあたっては、近隣市町や北海道との連携を図る。
- 事業内容：時代に合った地域の形成を支援するものとして、地域公共交通運行事業を継続する。

第3章 地域公共交通実態調査

3-1. 住民アンケート調査の概要

(1) 目的

住民アンケート調査は、滝川北竜線や（深川）北竜線等の利用者ニーズを把握するとともに、住民の生活交通を効率的に確保する地域公共交通計画立案のための基礎データを収集することを目的とする。

(2) アンケート調査の概要

アンケート調査は、一般アンケート調査と高校生アンケート調査を実施する。

質問の概要は以下のとおりである。

表 アンケート調査の質問の概要

種別	質問の概要
一般アンケート調査	<ul style="list-style-type: none">・個人属性（お住まい、世帯人数、性別、年齢、学生と社会人の区分）・自家用車の状況（利用状況、運転状況など）・公共交通の利用状況（滝川北竜線、（深川）北竜線、最寄りのバス停）・交通実態（時間帯、目的、交通手段、行先）・代替交通手段、新たな輸送方法・自由記述
高校生アンケート調査	<ul style="list-style-type: none">・個人属性（お住まい、高校生の人数、性別、学年、学校名、交通手段）・利用している運行便（登下校、部活時）・最寄りのバス停・滝川北竜線、（深川）北竜線が運休した場合の利用交通手段・自由記述

(3) アンケートの配付・回収方法

アンケートの配付・回収方法は、以下のとおりです。

表 配付・回収方法

種別	配付方法	回収方法
一般アンケート調査	日本郵便(株)の配達地域指定郵便物（タウンメール）による発送（事業所を含め全戸配布）	郵送による回収
高校生アンケート調査	郵送による回収（高校生がいる世帯すべてに配付）	

(4) 配付・回収のスケジュール

アンケートの配付・回収スケジュールは、以下のとおりです。

表 配付・回収スケジュール

種別	配付日	回収期日
一般アンケート調査	25日(火)～29日(日)	令和2年3月15日(日)
高校生アンケート調査	29日(日)	

(5) アンケート調査の配付・回収数

各アンケートの配付・回収の状況は、以下のとおりです。

表 配付・回収数

種別	配付数	回収数(回収率)
一般アンケート調査	747件	360件(48.2%)
高校生アンケート調査	35件	24件(68.6%)

※回収期日までの回収数

※高校生アンケート24件回収の内、3件は町外在住者のため、この3件を差し引いた21件を有効回答として取り扱います。

(6) アンケート結果の概要

①一般アンケート調査

問1 お住まいの地域、ご家族の構成、年齢等
・お住まいは、「和本町」が2割で最も多い
・世帯人数は、「2人」が4割で最も多い
・性別は、男女とも概ね5割
・就学の状況は、「学生以外」が9割強
・年齢区分は、「70～79歳」が2割強と最も多い
・学生の区分は、「高校」が6割弱、「大学等」が2割強
問2 自家用車の運転や利用状況
・運転免許証の保有状況は、「未保有」が2割強
・自家用車の使用状況は、「家族等が運転する車に同乗」が1割強
・事故を回避できる運転への自信は、「80歳以上」でも「自信がある」が半数以上
・運転免許証の返納年齢は、「60～69歳」が8割以上

問3 公共交通の利用状況

- ・公共交通の利用状況は、「ほとんど利用していない」が5割強
- ・利用している公共交通は、「中央バス高速るもい号（滝川経由）」が最も多い
- ・最も利用している公共交通は、「JR函館本線」が最も多い

【中央バス滝川北竜線】

- ・利用目的は、「通院」が最も多く、続いて「買物」、「趣味・娯楽」の順
- ・利用頻度は、「年に数回」が7割強と最も多い
- ・滝川北竜線の廃止（予定）に対しては、「まったく困らない」と「ほとんど困らない」が2割と最も多い

【空知中央バスの（深川）北竜線】

- ・利用目的は「通院」が最も多く、続いて「買物」、「趣味・娯楽」の順
- ・利用頻度は、「年に数回」が7割と最も多い
- ・（深川）北竜線の廃止（想定）に対しては、「まったく困らない」が2割弱と最も多い

【中央バス滝川北竜線・空知中央バス（深川）北竜線】

- ・最寄りの停留所は「北竜役場前」が最も多く、続いて、「碧水市街地」、「和」の順

【沿岸バス旭川留萌線】

- ・最寄りのバス停留所は、「碧水」が最も多く、続いて「美葉牛十字街」

【停留所までの歩行時間】

- ・「16～30分」、「31分以上」を回答した方が1割弱

問4 交通実態（一週間の外出状況）

【外出時間帯】

- ・外出は、平日で「8時台」が最も多く、続いて「9時台」件、「7時台」の順
- ・土日は、「10時台」が最も多く、続いて「9時台」、「8時台」及び「13時台」の順
- ・帰宅は、平日で「18時台」が最も多く、続いて「17時台」、「16時台」の順
- ・土日は、「12時台」が最も多く、続いて「18時台」、「16時台」の順

【外出目的】

- ・平日は、「通勤」が最も多く、続いて「その他の私用」、「趣味・娯楽」の順
- ・土日は、「その他の私用」が最も多く、続いて「買物」、「趣味・娯楽」及び「通勤」の順

【交通手段】

- ・「自家用車（自ら運転）」が最も多く、続いて「公共交通・送迎バス」、「自家用車（同乗）」の順
- ・「公共交通・送迎バス」の内訳は、「中央バス滝川北竜線」が最も多く、続いて「空知中央バス（深川）北竜線」、「中央バス高速るもい号（滝川経由）」の順

【外出先】

- ・「北竜町内」が5割弱と最も多く、続いて「深川市」、「滝川市」、「旭川市」の順

【交通分布】

- ・平日は町内で「碧水」、「和本町」、「和」、「西川」への移動が多い
- ・町外では「碧水」から「深川市」の移動が多い
- ・土日は町内で「碧水」、「西川」、「和本町」への移動が多い

- ・町外では「碧水」から「深川市」、「和本町」から「滝川市」、「板谷」から「深川市」の移動が多い

問5 代替交通手段の検討

- ・コストを削減した輸送方法の検討へは、「賛同できる」が8割弱
- ・新たな輸送方法の検討にあたっては、「直接、滝川や深川に行ける輸送手段を確保」が最も多い
- ・自宅から町内の目的施設までの輸送手段は、「乗合タクシーなどのデマンド交通による輸送」及び「コミュニティバスによる輸送」とも4割程度

②高校生アンケート調査

1. 個人属性

- ・お住まいの地域は、「和」が3割弱と最も多い
- ・高校生の人数は、全世帯とも「1人」
- ・性別は「女性」が7割弱
- ・学年は「1年生」が5割弱、「2年生」が4割弱
- ・高校は「深川西高校」が4割強と最も多く、続いて「滝川高校」、「滝川西高校」の順
- ・回答数24件の内「町外からの通学」が3件となっているため、この3件の回答は除外

2. 通学の状況

- ・通学の交通手段は「中央バス滝川北竜線」が5割弱、「空知中央バス（深川）北竜線」が4割強
- ・通学は7時台の運行便、部活なしは16時台・17時台、部活後は20時前後、土日の部活後の下校は14時台と17時台
- ・自宅から最寄りのバス停留所までの交通手段は、「徒歩」が7割強、「3. 家族の車」が1割強

3. 中央バス滝川北竜線と空知中央バス（深川）北竜線が長期間運休する場合の交通手段

- ・「中央バス深滝線の停留所（追分）にアクセス」が3割弱と最も多い

(7) 一般アンケート調査

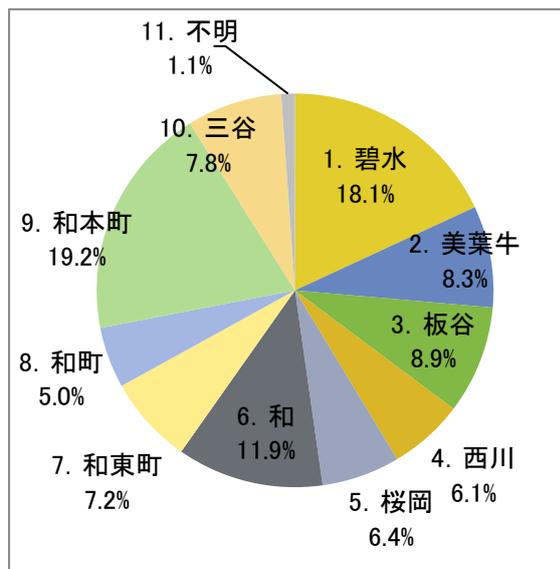
問1 お住まいの地域、ご家族の構成、年齢等をお答えください。

Q1 お住まいの「地域」をお答えください。(一つに○)

回答世帯の居住地は、「9. 和本町」が2割、「1. 碧水」が2割弱及び「6. 和」が1割強となっています。

図表 回答世帯の居住地

回答項目	件数
1. 碧水	65
2. 美葉牛	30
3. 板谷	32
4. 西川	22
5. 桜岡	23
6. 和	43
7. 和東町	26
8. 和町	18
9. 和本町	69
10. 三谷	28
11. 不明	4
合計	360

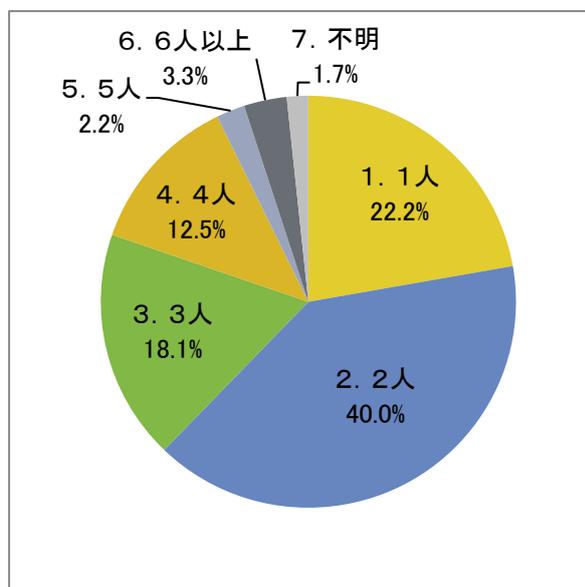


Q2 世帯の「人数」をお答えください。(一つに○、必要な内容を記載)

回答世帯の人数は、「2. 2人」が4割と最も多く、続いて「1. 1人」が2割強、「3. 3人」が2割弱となっています。

図表 回答世帯の人数

回答項目	件数
1. 1人	80
2. 2人	144
3. 3人	65
4. 4人	45
5. 5人	8
6. 6人以上	12
7. 不明	6
合計	360

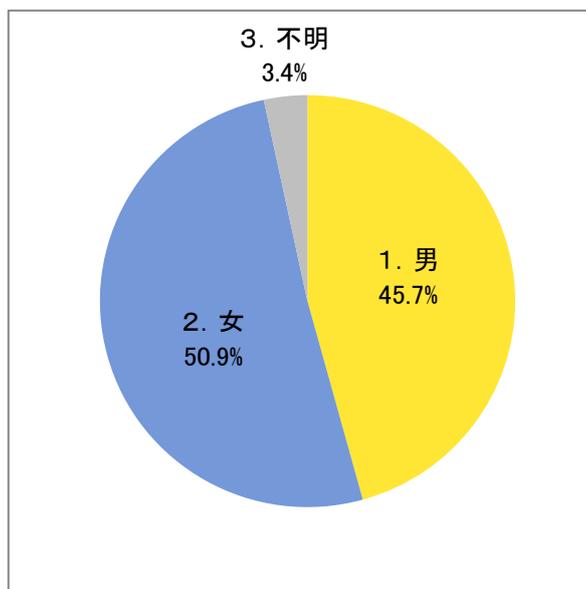


Q 3 性別をお答えください。(それぞれ一つに○)

回答者（以降は「回答者」にて集計）の性別は、「2. 女性」が5割、「1. 男性」が5割弱となっています。

図表 回答者の性別

回答項目	回答者数
1. 男	351
2. 女	391
3. 不明	26
合計	768

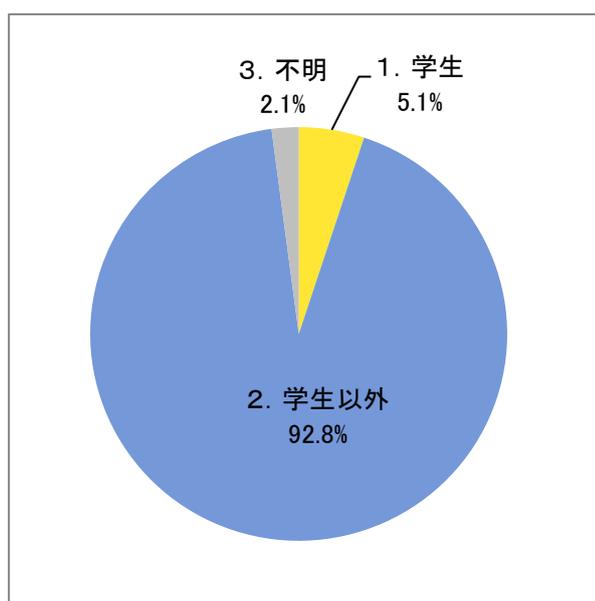


Q 4 学生・学生以外のいずれかをお答えください。(それぞれ一つに○)

就学の有無は、「2. 学生以外」が9割強となっています。

図表 回答者の就学の有無

回答項目	回答者数
1. 学生	39
2. 学生以外	713
3. 不明	16
合計	768

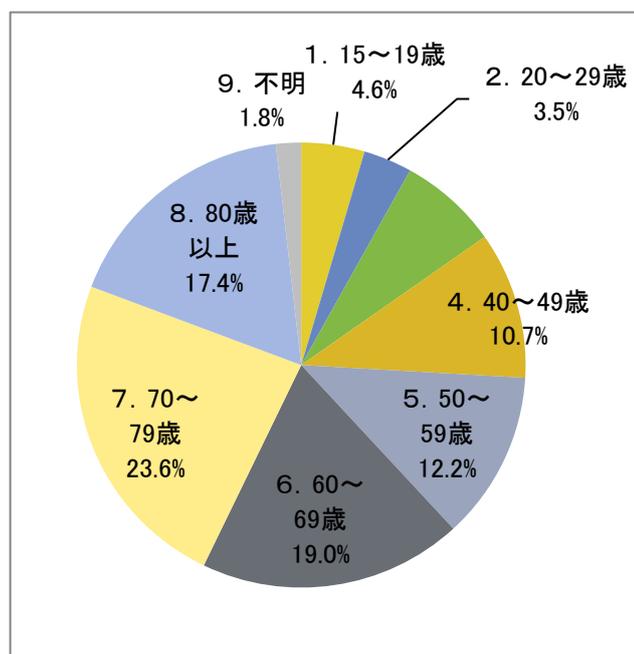


Q 5 年齢区分をお答えください。(それぞれ一つに○)

年齢区分は、「7. 70～79歳」が2割強と最も多く、続いて「6. 60～69歳」と「8. 80歳以上」が2割弱となっています。

図表 回答者の年齢区分

回答項目	回答者数
1. 15～19歳	35
2. 20～29歳	27
3. 30～39歳	55
4. 40～49歳	82
5. 50～59歳	94
6. 60～69歳	146
7. 70～79歳	181
8. 80歳以上	134
9. 不明	14
合計	768

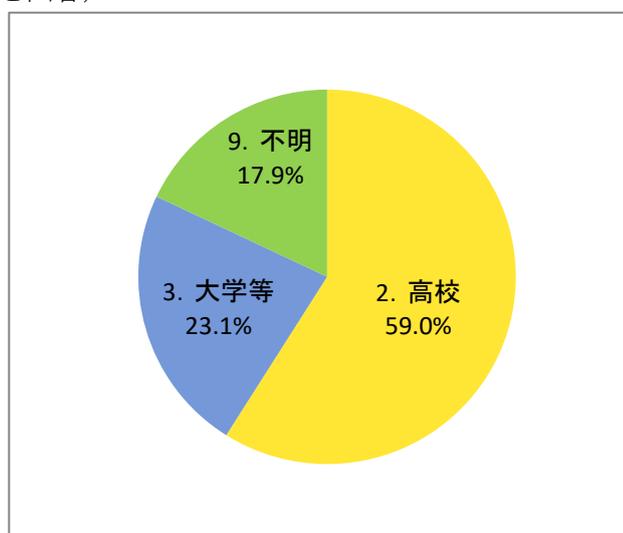


Q 6 学生の区分をお答えください(社会人等の方は「1. 該当なし」に○)。

Q 4で「学生」と回答した人の学生区分は、「2. 高校」が6割弱、「3. 大学等」が2割強となっています。

図表 回答者の学生区分 (Q 4で「学生」と回答)

回答項目	回答者数
1. 該当なし	729
2. 高校	23
3. 大学等	9
9. 不明	7
合計	768



※「1. 該当なし」を除く

問2 自家用車の運転や利用状況についてお聞きします。

Q7 運転免許証をお持ちですか。(それぞれ一つに○)

運転免許証の保有状況は、「1. 保有」が7割強となっており、これを年齢階層別に見ると、「3. 30～39歳」から「6. 60～69歳」までが9割以上、「7. 70～79歳」は8割弱、「8. 80歳以上」では3割強となっています。

図表 回答者の運転免許証の保有状況

回答項目	回答者数
1. 保有	573
2. 非保有	174
3. 不明	21
合計	768

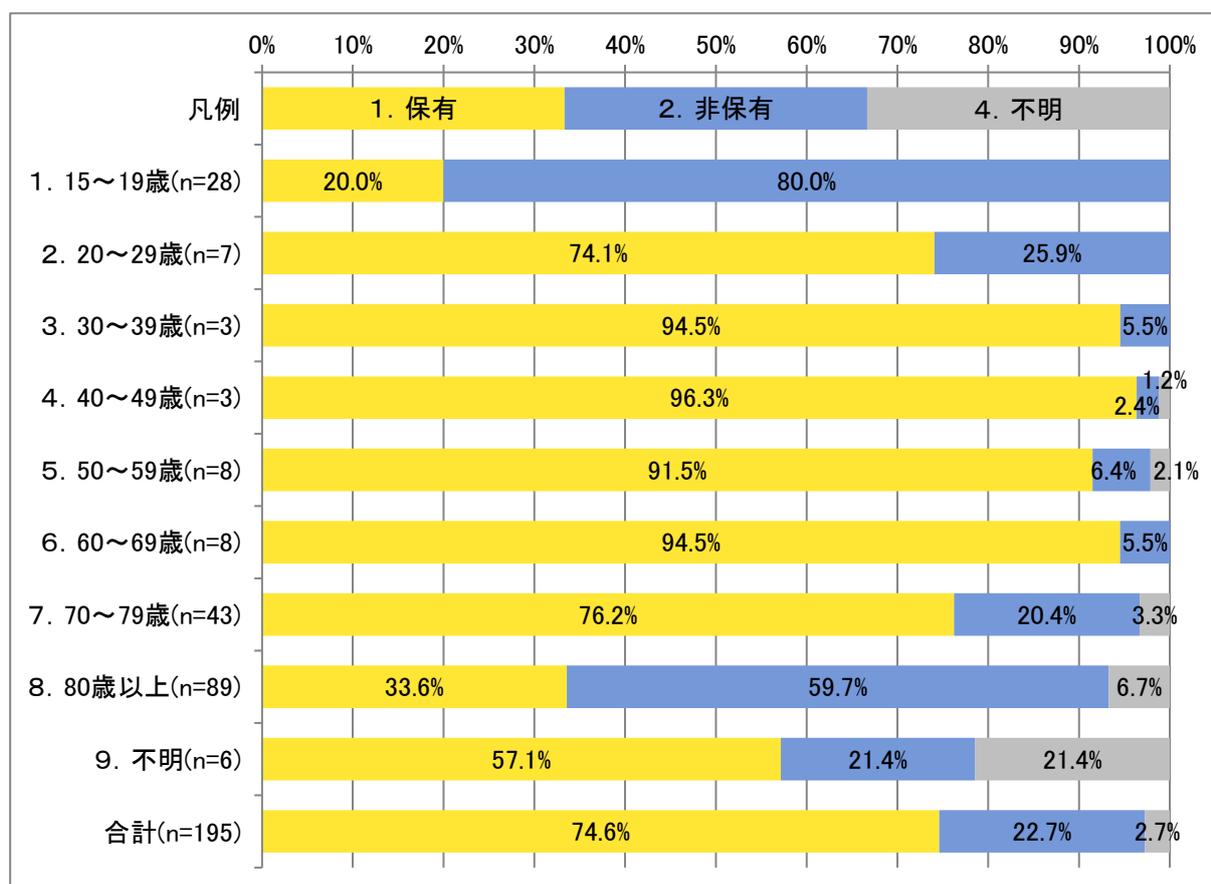
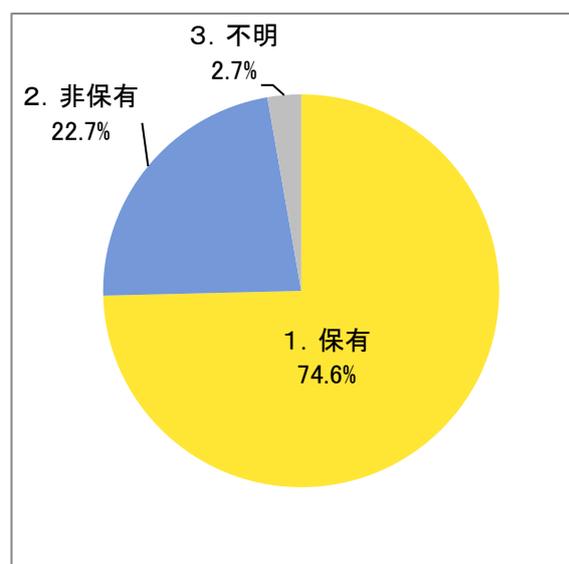


図 運転免許証の保有状況 (年齢階層別)

Q 8 自家用車の使用状況をお答えください。(選択肢から番号を一つ選んで記載)

自家用車の使用状況は、「1. 自ら所有の車を運転」が6割弱と最も多く、続いて「2. 家族所有の車を運転」が2割弱、「3. 家族等が運転する車に乗車」が1割強となっています。

これを年齢階層別に見ると「1. 自ら所有の車を運転」は、「3. 30～39歳」から「6. 60～69歳」が7割前後に対し、「7. 70～79歳」は5割強、「8. 80歳以上」では3割弱となっています。「8. 80歳以上」では「3. 家族等が運転する車に乗車」と「4. 車は使用しない」が「1. 自ら所有の車を運転」と同率程度（3割弱）となっています。

図表 回答者の自家用車使用の状況

回答項目	回答者数
1. 自ら所有の車を運転	423
2. 家族所有の車を運転	134
3. 家族等が運転する車に乗車	96
4. 車は使用しない	57
5. 不明	58
合計	768

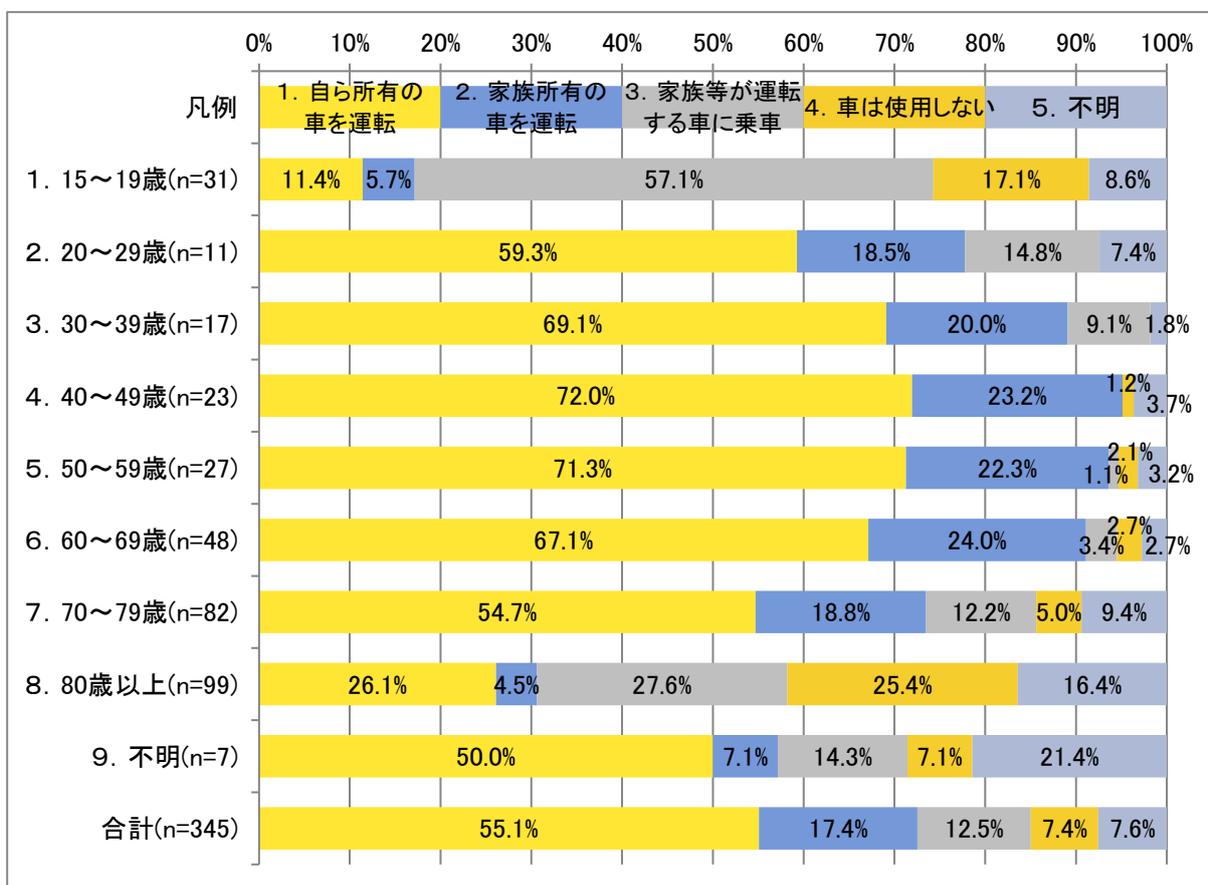
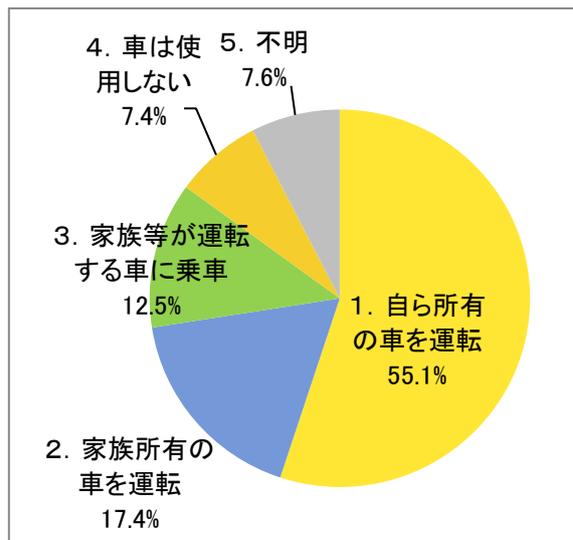


図 自家用車使用の状況（年齢階層別）

Q9 あなたは自分の運転テクニックで事故を回避する自信がありますか。

事故を回避できる自信については「2. 自信がある」を回答した方は6割強となっています。これを年齢階層別に見ると「2. 20～29歳」から「7. 70～79歳」まで6割前後が「2. 自信がある」としています。また「8. 80歳以上」でも半数以上が「2. 自信がある」としています。

図表 回答者の事故を回避できる自信の状況

回答項目	回答者数
1. 運転免許を持っていない・運転しない	170
2. 自信がある	372
3. 自信がない	175
4. 不明	51
合計	768

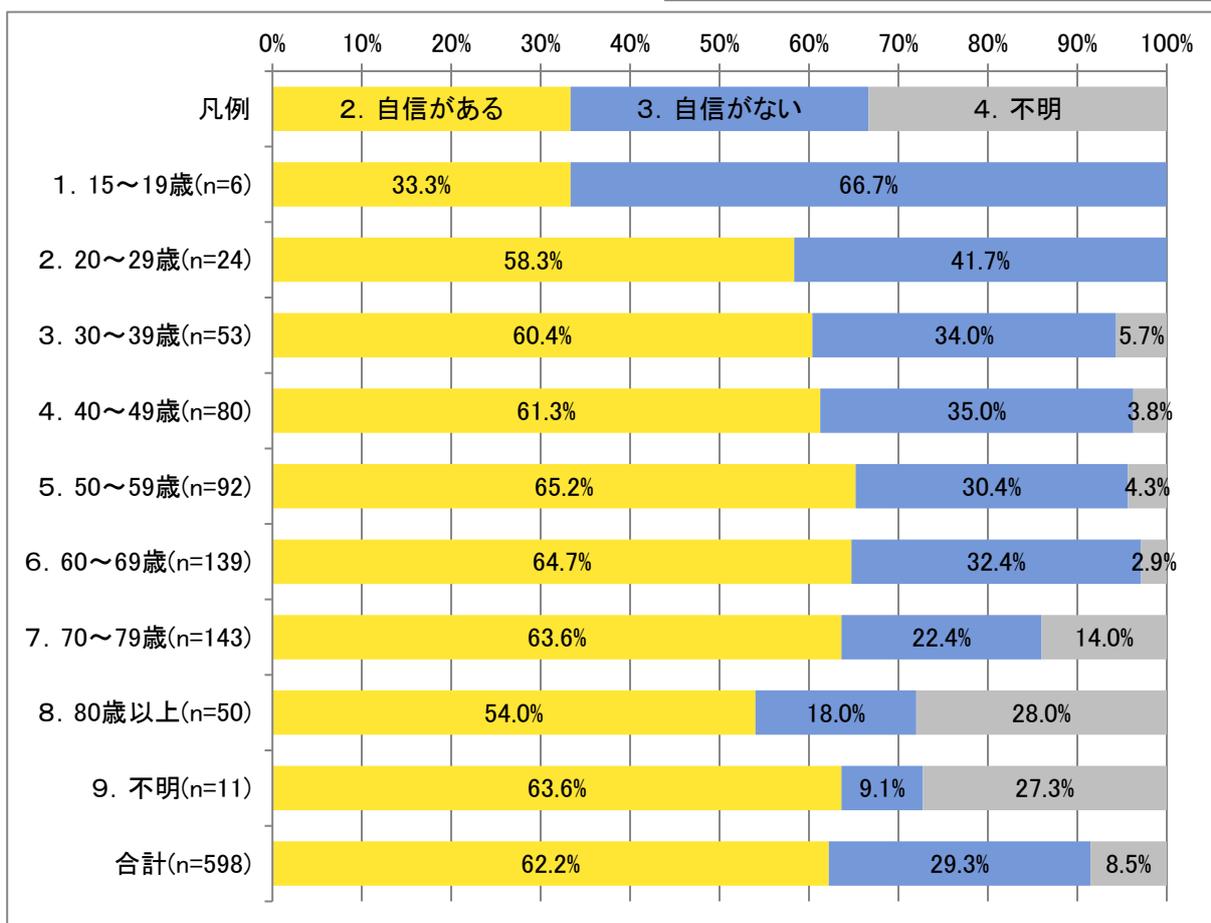
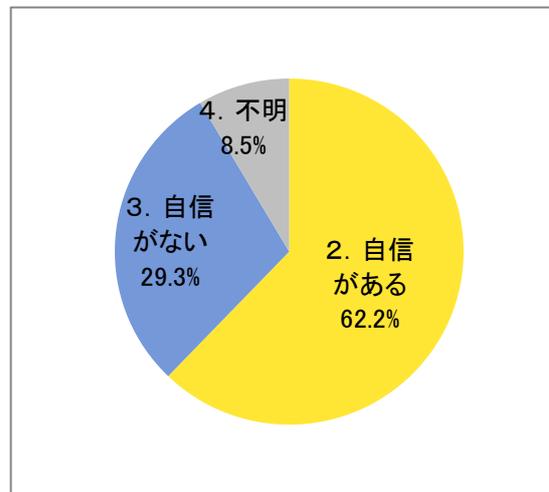


図 事故を回避できる自信の状況 (年齢階層別)

※「1. 運転免許を持っていない・運転しない」を除く

Q10 運転免許証の返納についてお答えください。

運転免許証の返納については、「2. 返納が必要な年齢ではない」が6割強と最も多く、続いて「3. 検討中」と「5. 返納は考えられない」が1割強となっています。

これを年齢階層別に見ると「2. 返納が必要な年齢ではない」は、「2. 20～29歳」から「6. 60～69歳」までが8割以上となっています。これに対し「7. 70～79歳」と「8. 80歳以上」ではそれぞれ3割強、0割強となっており、「3. 検討中」と「4. 既に返納した」が増加している状況です。

図表 回答者の運転免許証返納の意向

回答項目	回答者数
1. 運転免許を持っていない・運転しない	115
2. 返納が必要な年齢ではない	410
3. 検討中	84
4. すでに返納済み	28
5. 返納は考えられない	74
6. 運転はしないが、証明書として保有しておきたい	5
7. 不明	52
合計	768

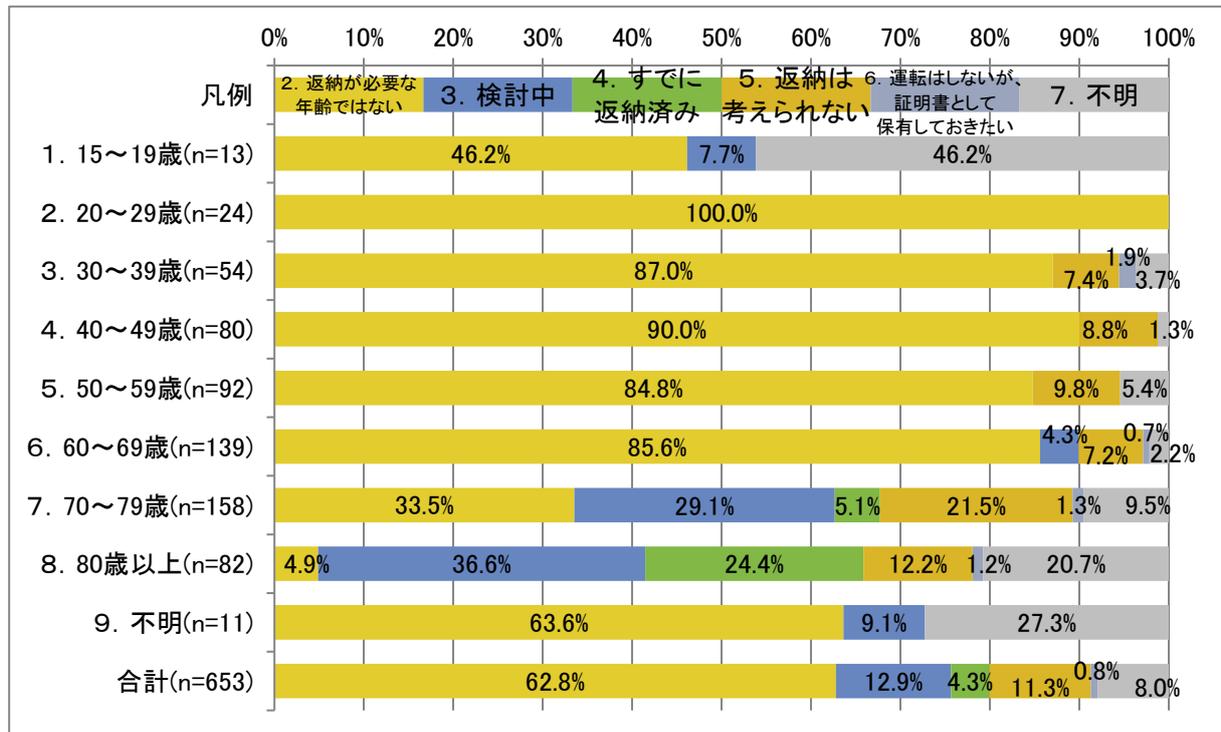
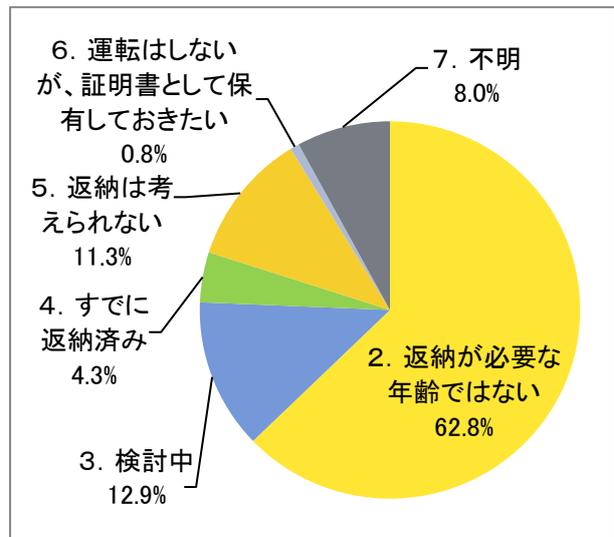


図 事故を回避できる自信の状況（年齢階層別）

※「1. 運転免許を持っていない・運転しない」を除く

問3 公共交通の利用状況をお聞きします。

Q11 利用している公共交通をお答えください。

公共交通の利用状況は、「ほとんど利用していない」が5割強と「利用している」の4割弱を上回っています。

利用している公共交通の内訳（複数回答可）は、「3. 中央バス高速るもい号（滝川経由）」が136件と最も多く、続いて「6. 空知中央バス（深川）北竜線」が109件、「1. JR函館本線」が101件の順となっています。

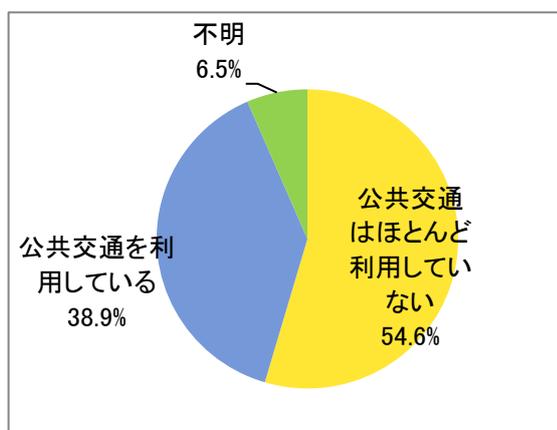


図 公共交通の利用の有無

表 利用している公共交通内訳

回答項目	回答者数
0. 公共交通はほとんど利用していない	419
1. JR函館本線	101
2. JR留萌線	1
3. 中央バス高速るもい号（滝川経由）	136
4. 中央バス高速るもい号（深川経由）	22
5. 中央バス滝川北竜線	70
6. 空知中央バス（深川）北竜線	109
7. 沿岸バス留萌旭川線	57
8. タクシー・ハイヤー	53
9. 乗合タクシー	22
10. スクールバス美葉牛線	14
11. スクールバス竜西線	6
12. スクールバス碧水線	2
13. 生きがいディサービス送迎バス	16
14. 社会福祉協議会による移送サービス	3
15. その他（記述）	0
16. 不明	50
合計	1,081

Q12 最も利用している公共交通をお答えください。

最も利用している公共交通の内訳は、「1. JR函館本線」が81件と最も多く、続いて「3. 中央バス高速るもい号（滝川経由）」が68件、「6. 空知中央バス（深川）北竜線」が58件の順となっています。

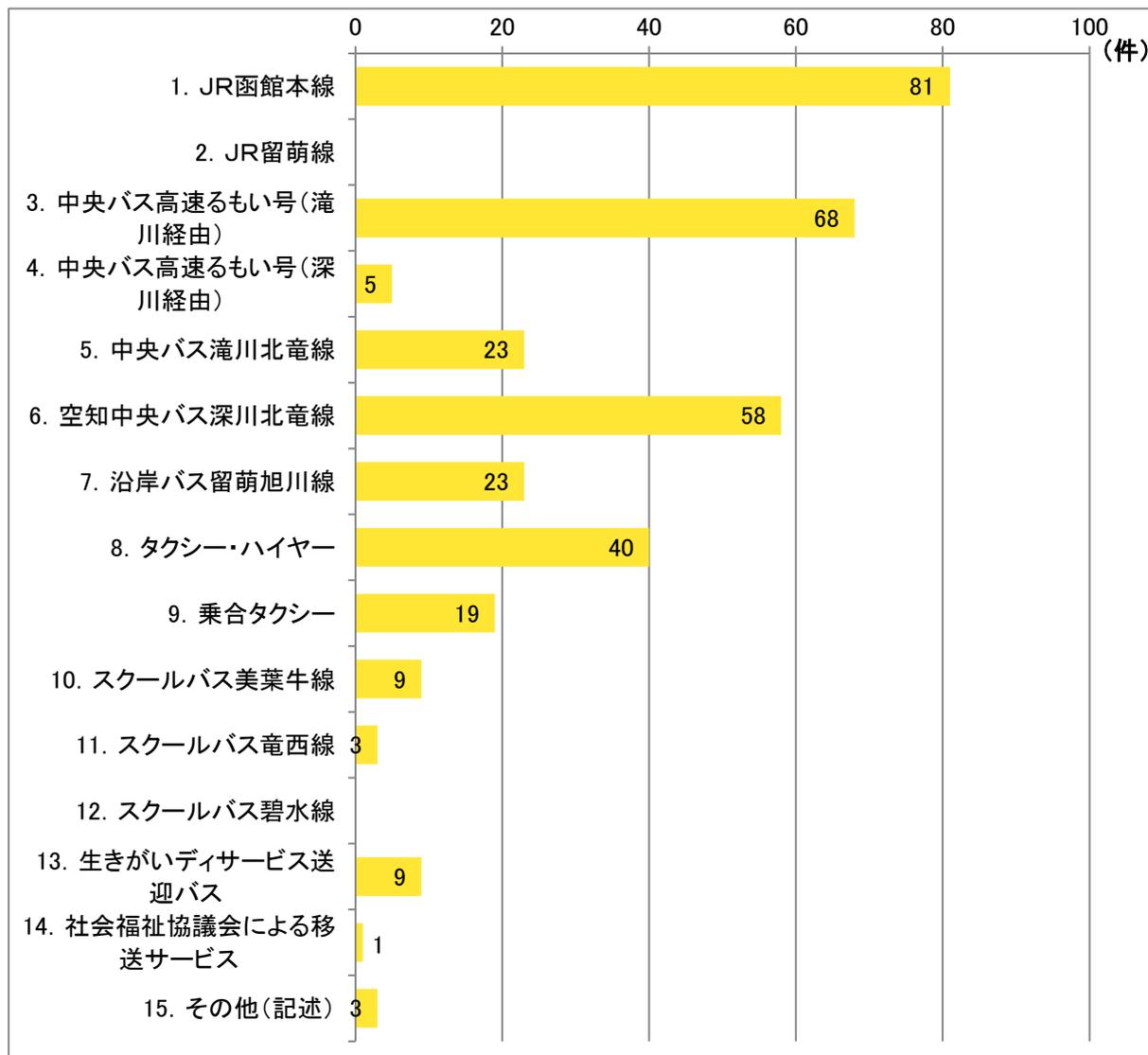


図 最も利用している公共交通内訳

Q13 中央バスの滝川北竜線についてお答えください。

○どのような目的で利用していますか。(選択肢から番号を全て選んで記載)

滝川北竜線の利用目的は、「3. 通院」が64件と最も多く、続いて「4. 買物」が51件、「5. 趣味・娯楽」が38件の順となっています。

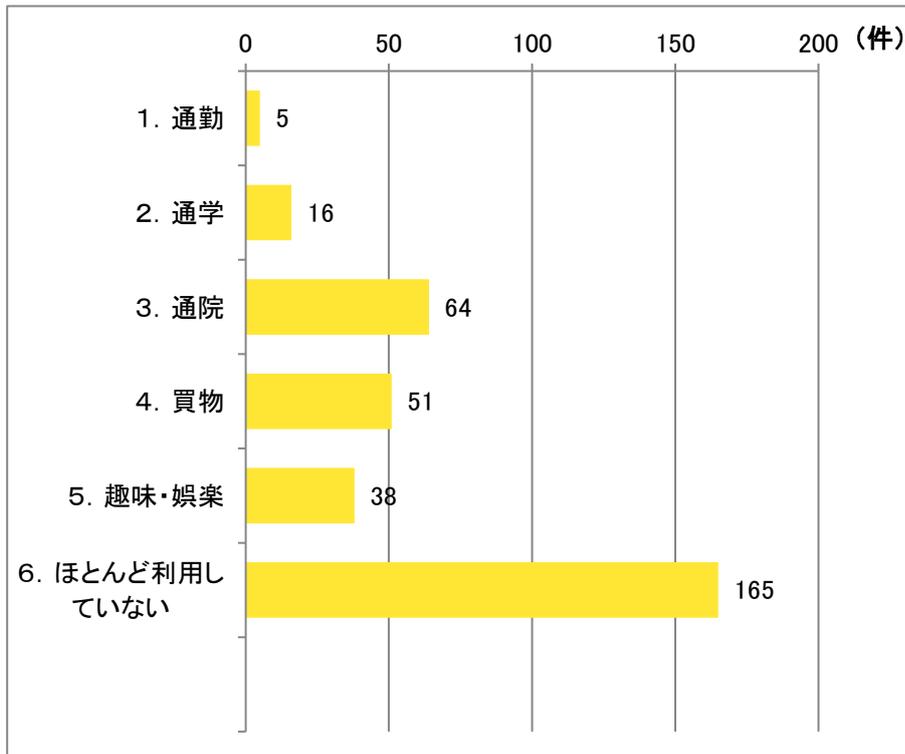


図 滝川北竜線の利用目的

○どのぐらいの頻度で利用していますか。(選択肢から番号を一つ選んで記載)

滝川北竜線の利用頻度は、「6. 年に数回」が7割強と最も多く、続いて「5. 月に数回」が1割強となっています。これを利用目的別に見ると「1. 通勤」は「2. 週に4, 5回」、「2. 通学」は「1. ほとんど毎日」が多いことに対し、「3. 通院」、「4. 買物」、「5. 趣味・娯楽」及び「6. その他の私用」が「6. 年に数回」が多い状況となっています。

図表 滝川北竜線の利用頻度

回答項目	回答数
1. ほとんど毎日	11
2. 週に4, 5回	7
3. 週に2, 3回	17
4. 週に1回	4
5. 月に数回	36
6. 年に数回	230
7. 不明	12
合計	317

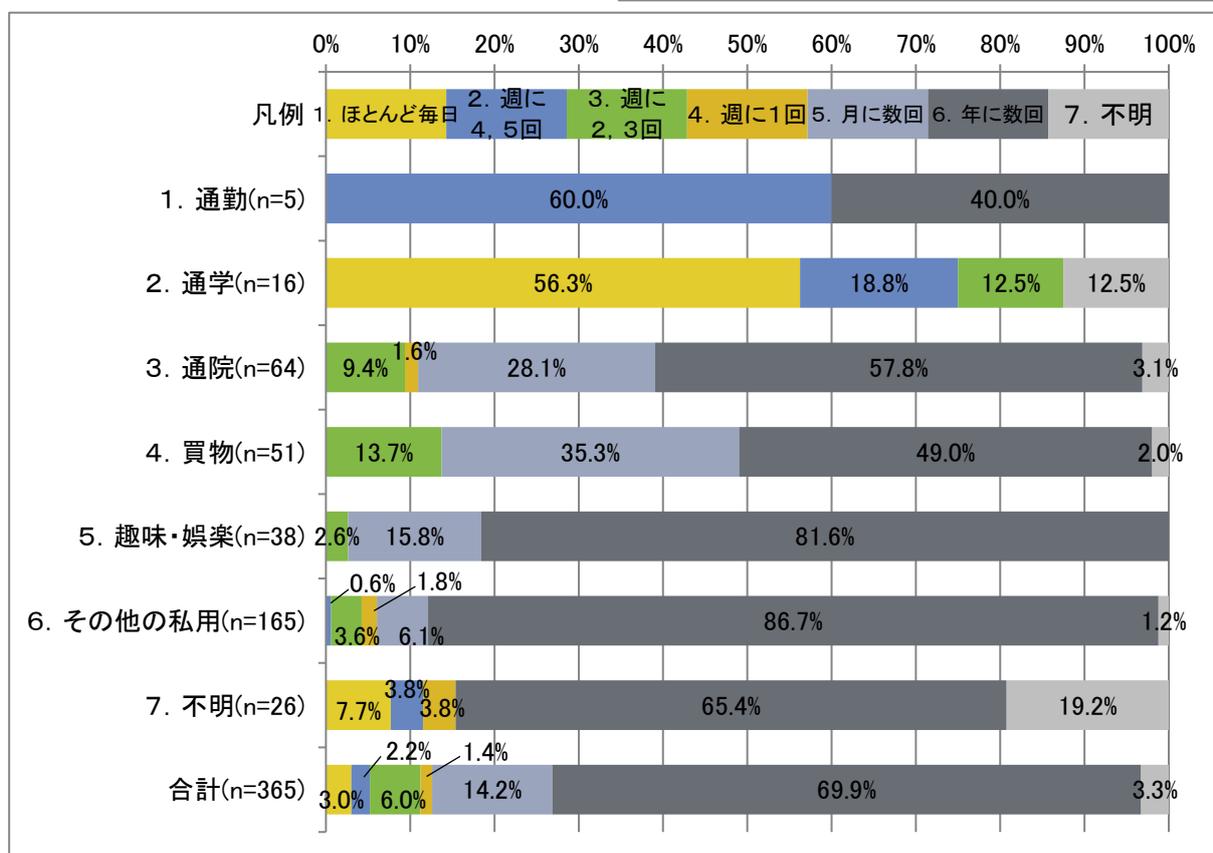
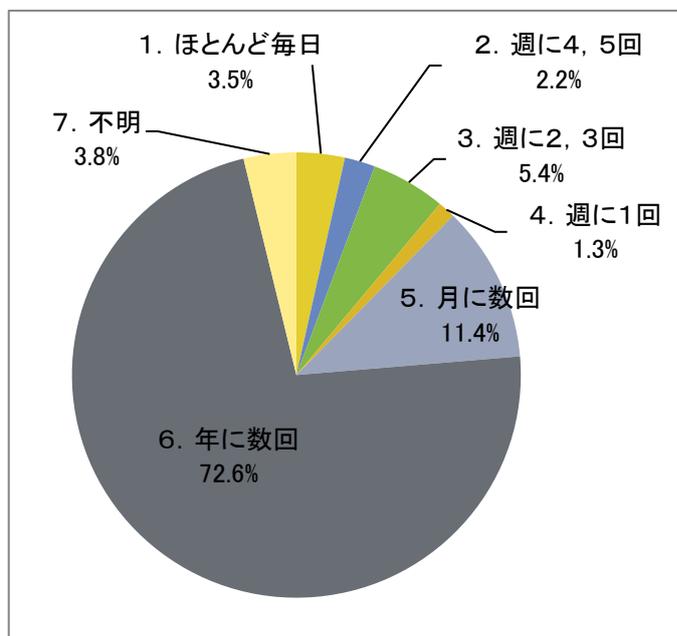


図 滝川北竜線の利用頻度（利用目的別）

○滝川北竜線が廃止（予定）になると困りますか。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

仮に滝川北竜線が廃止になると困りますかとの問いに対しては、「1. まったく困らない」と「2. ほとんど困らない」が2割と最も多く、続いて「3. 少し困る」が2割弱となっています。「4. 困る」と「5. 大変困る」は1割強となっています。

これを年齢階層別に見ると「1. 15～19歳」では「5. 大変困る」が最も多いものの、他の年齢階層では全体の傾向と同様の結果となっています。

図表 滝川北竜線が廃止（予定）

回答項目	回答数
1. まったく困らない	160
2. ほとんど困らない	150
3. 少し困る	134
4. 困る	99
5. 大変困る	95
6. 不明	130
合計	768

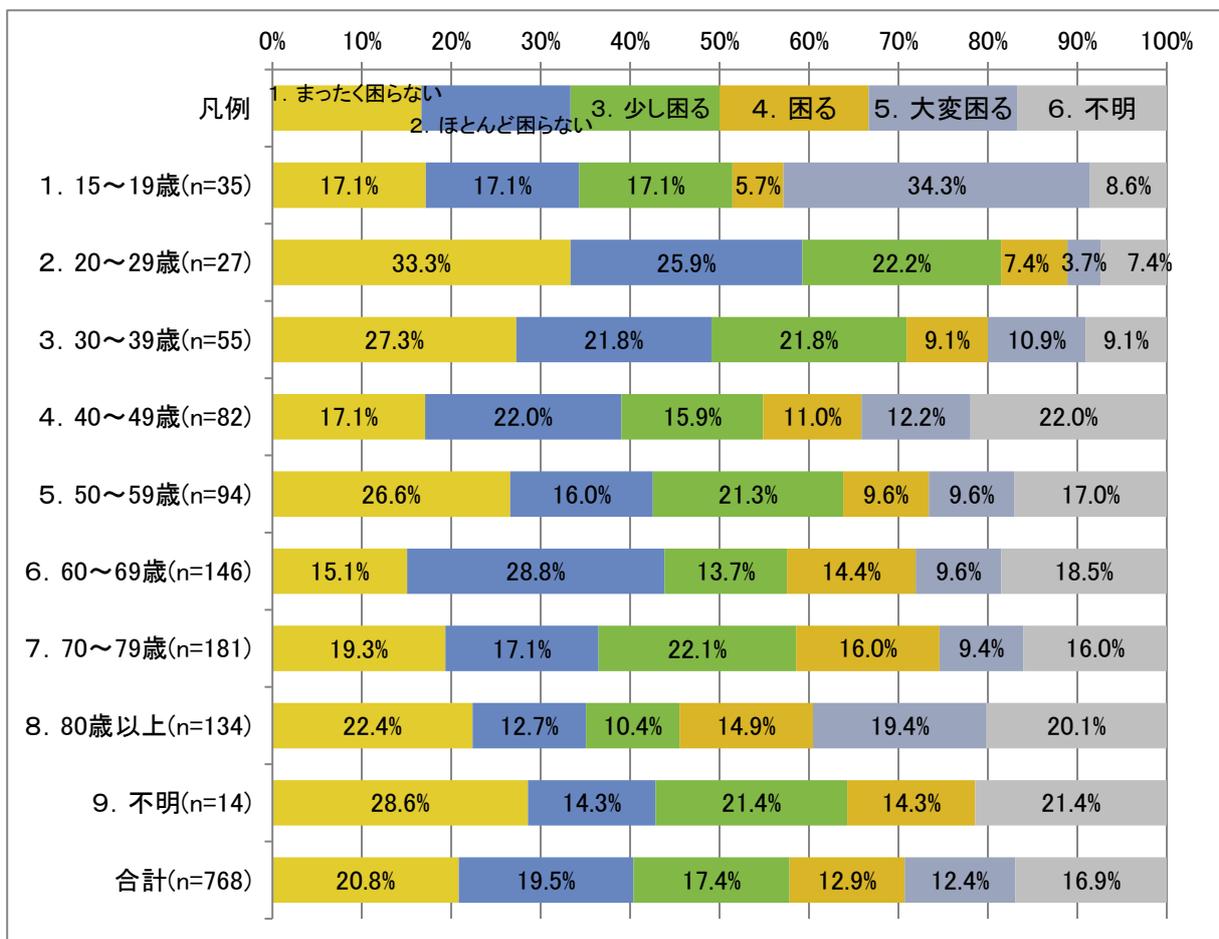
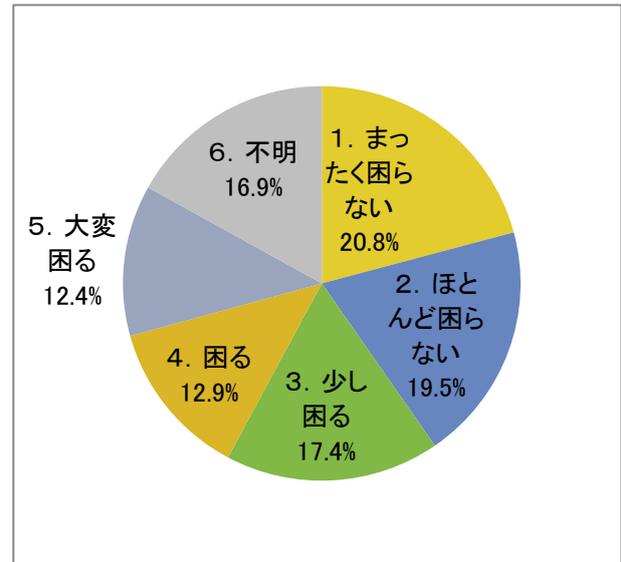


図 滝川北竜線が廃止（予定）（年齢階層別）

Q 1 4 空知中央バスの（深川）北竜線についてお答えください。

○どのような目的で利用していますか。（選択肢から番号を全て選んで記載）

（深川）北竜線の利用目的は「3. 通院」が108件と最も多く、続いて「4. 買物」が71件、「5. 趣味・娯楽」が26件の順となっています。

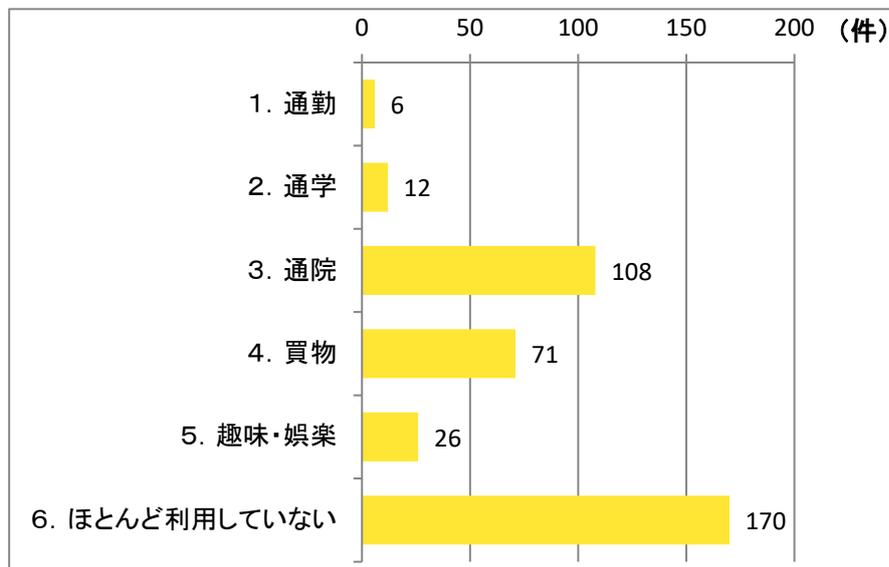


図 （深川）北竜線の利用目的

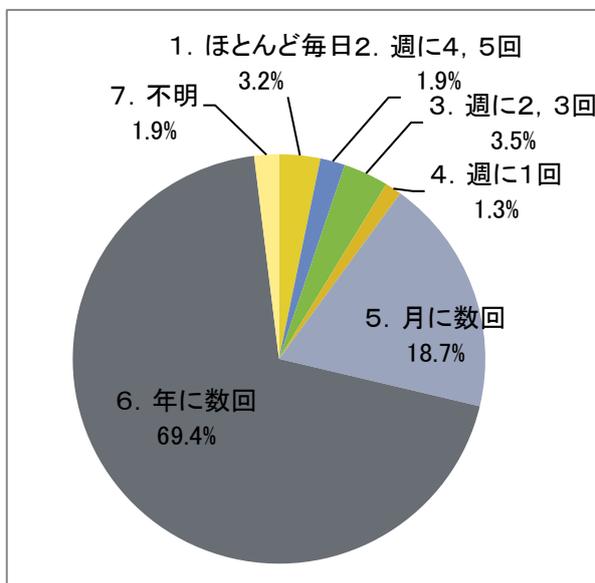
○どのぐらいの頻度で利用していますか。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

（深川）北竜線の利用頻度は、「6. 年に数回」が7割と最も多く、続いて「5. 月に数回」が2割弱となっています。

これを利用目的に見ると「1. 通勤」、「2. 通学」では「1. ほとんど毎日」がそれぞれ3割強、4割強となっているものの、「3. 通院」、「4. 買物」、「5. 趣味・娯楽」及び「6. その他使用」では「6. 年に数回」が最も多い状況となっています。

図表 （深川）北竜線の利用頻度

回答項目	回答数
1. ほとんど毎日	10
2. 週に4, 5回	6
3. 週に2, 3回	11
4. 週に1回	4
5. 月に数回	58
6. 年に数回	215
7. 不明	6
合計	310



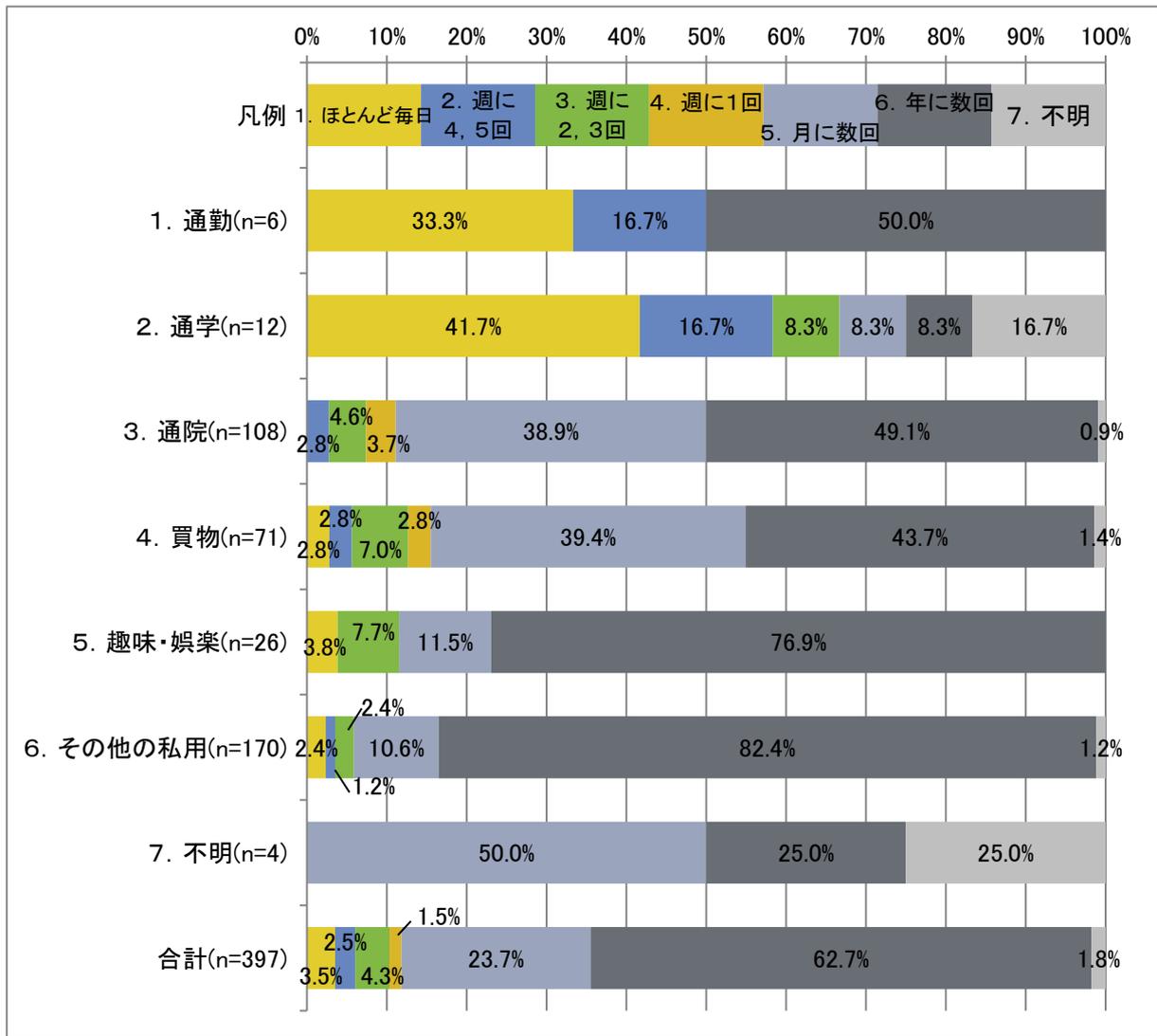


図 (深川) 北竜線の利用頻度 (利用目的別)

○（深川）北竜線が廃止（想定）になると困りますか。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

仮に（深川）北竜線が廃止になると困りますかとの問いに対しては、「1. まったく困らない」が2割弱と最も多く、他の選択肢は14%前後となっています。

これを年齢階層別に見ると「1. 15～19歳」では「4. 困る」、「8. 80歳以上」では「5. 大変困る」が最も多い状況となっているものの、他の年齢階層は全体と同様の傾向となっています。

図表 （深川）北竜線が廃止（想定）

回答項目	回答数
1. まったく困らない	146
2. ほとんど困らない	105
3. 少し困る	121
4. 困る	114
5. 大変困る	112
6. 不明	170
合計	768

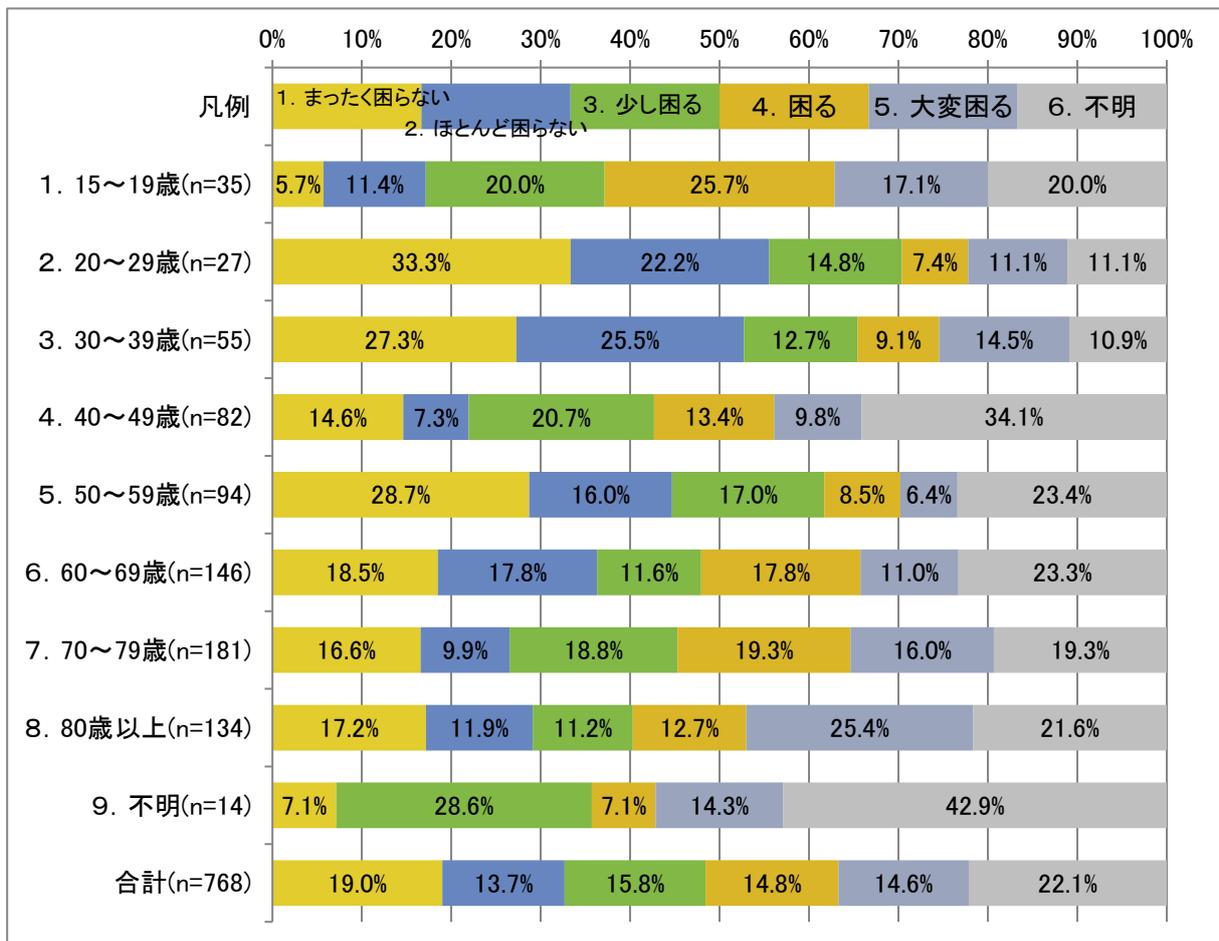
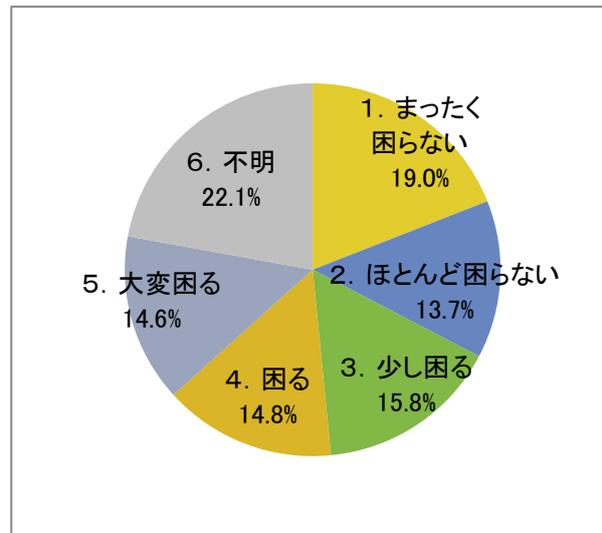


図 （深川）北竜線が廃止（想定）（年齢階層別）

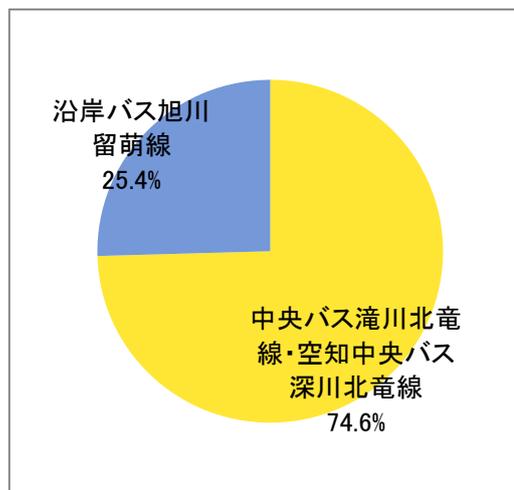
Q15 路線バスを利用する場合についてお聞きします。

○ご自宅の最寄りの停留所名をお答えください。(一つに○)

最寄りの停留所を運行経路である「中央バス滝川北竜線・空知中央バス(深川)北竜線」と「沿岸バス旭川留萌線」の区分で見ると、「中央バス滝川北竜線・空知中央バス(深川)北竜線」が7割強を占めています。

図表 運行経路別の最寄りの停留所

項目	計
中央バス滝川北竜線・空知中央バス(深川)北竜線	296
沿岸バス旭川留萌線	101
合計	397



中央バス滝川北竜線・空知中央バス(深川)北竜線の最寄りのバス停留所は、「8. 北竜役場前」が112件と最も多く、続いて、「1. 碧水市街地」が49件、「9. 和」が45件の順となっています。

沿岸バス旭川留萌線の最寄りのバス停留所は、「20. 碧水」が64件と最も多く、続いて「16. 美葉牛十字街」が15件となっています。



図 最寄りの停留所

(滝川北竜線・(深川)北竜線)

(旭川留萌線)

○最寄りの停留所までの歩行時間をお答えください。(それぞれ一つに○)

最寄りの停留所までの歩行時間は、「中央バス滝川北竜線・空知中央バス（深川）北竜線」が「沿岸バス旭川留萌線」よりも「1. ～5分」の回答率が高いため、「中央バス滝川北竜線・空知中央バス（深川）北竜線」の停留所までの徒歩アクセス性が高い状況です。

一方で、両バス路線とも「3. 16～30分」、「4. 31分以上」を回答した方が1割弱となっています。

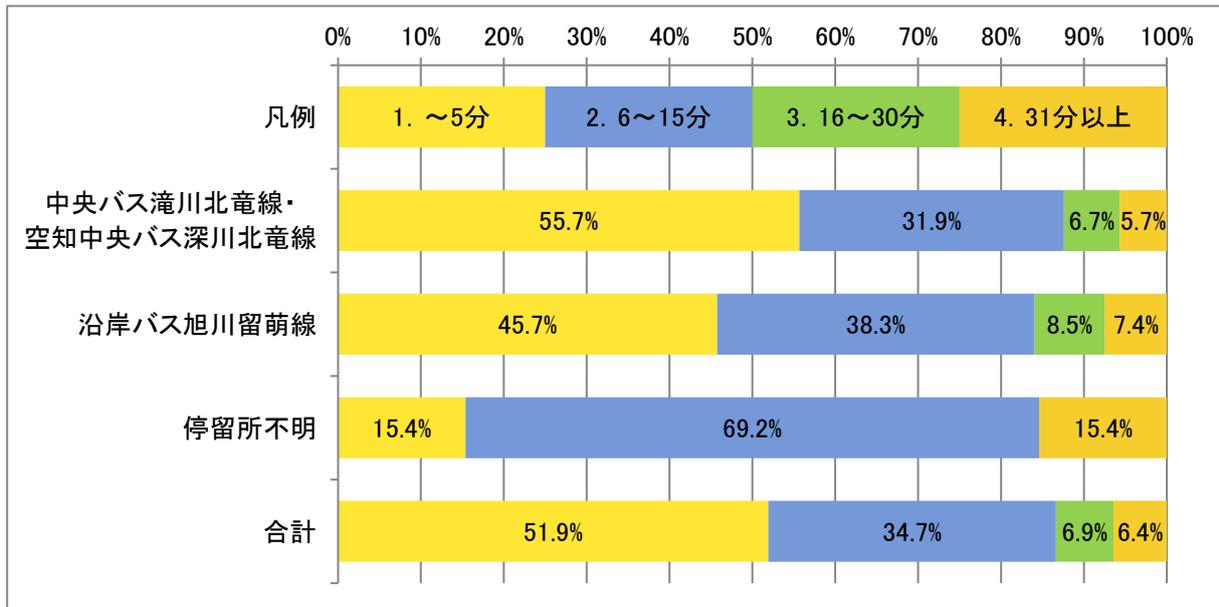


図 最寄りの停留所までの歩行時間

問4 交通実態

Q16 先週の一週間の外出状況についてお答えください。

○外出時間帯をお答えください。

・外出時間帯

平日の外出時間帯は、「8時台」が494件と最も多く、続いて「9時台」が260件、「7時台」が232件の順となっています。

土日の外出時間帯は、「10時台」が86件と最も多く、続いて「9時台」が78件、「8時台」と「13時台」が61件の順となっています。

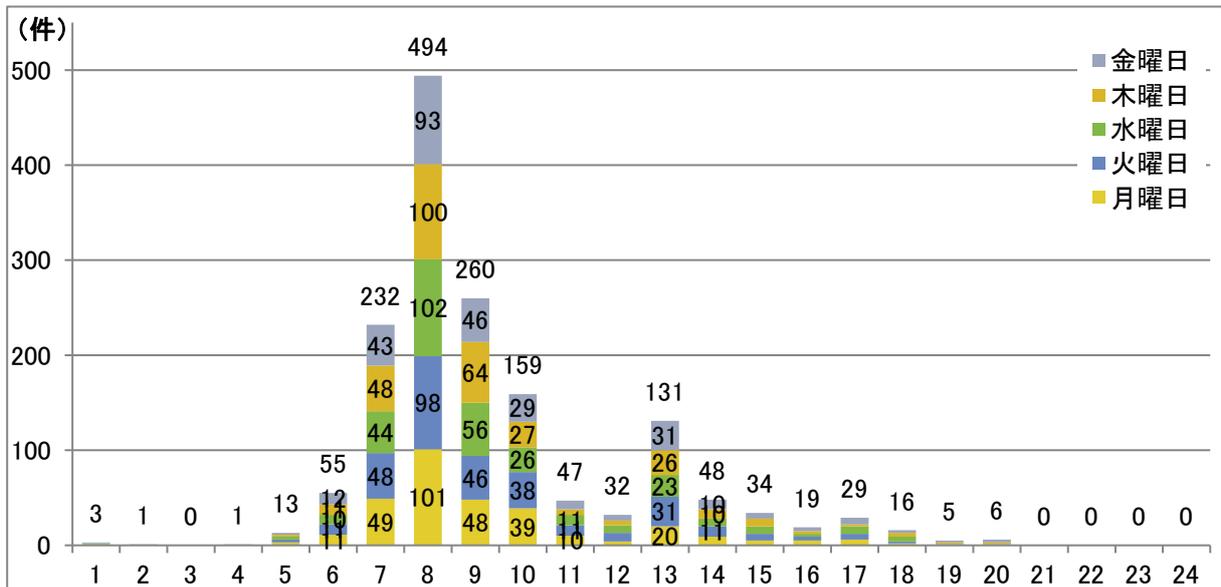


図 外出時間帯 (平日)

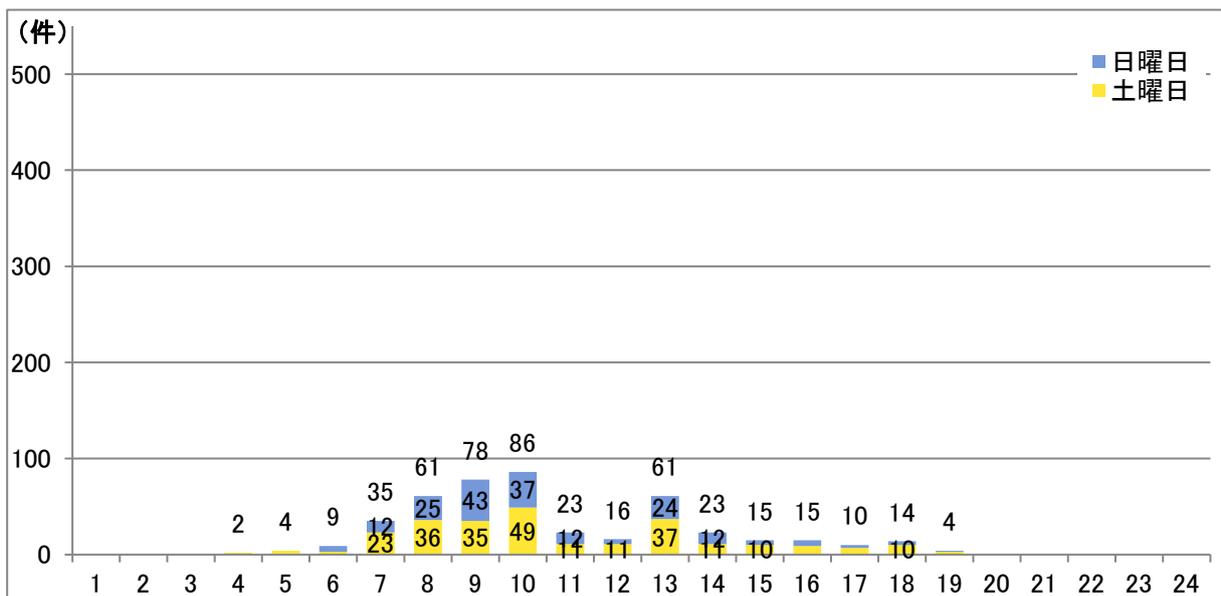


図 外出時間帯 (土日)

・帰宅時間帯

平日の帰宅時間帯は、「18時台」が381件と最も多く、続いて「17時台」が217件、「16時台」が177件の順となっています。

土日の帰宅時間帯は、「12時台」が69件と最も多く、続いて「18時台」が63件、「16時台」が56件の順となっています。なお平日と比較して帰宅時間帯が分散する状況となっています。

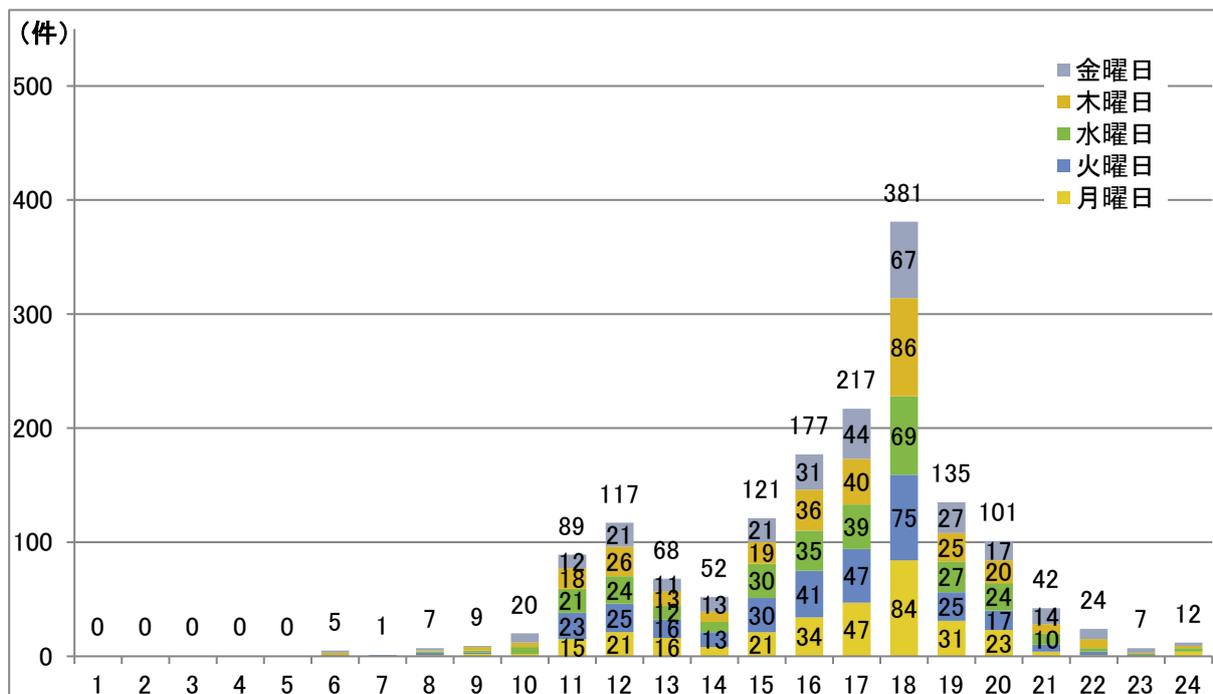


図 帰宅時間帯（平日）

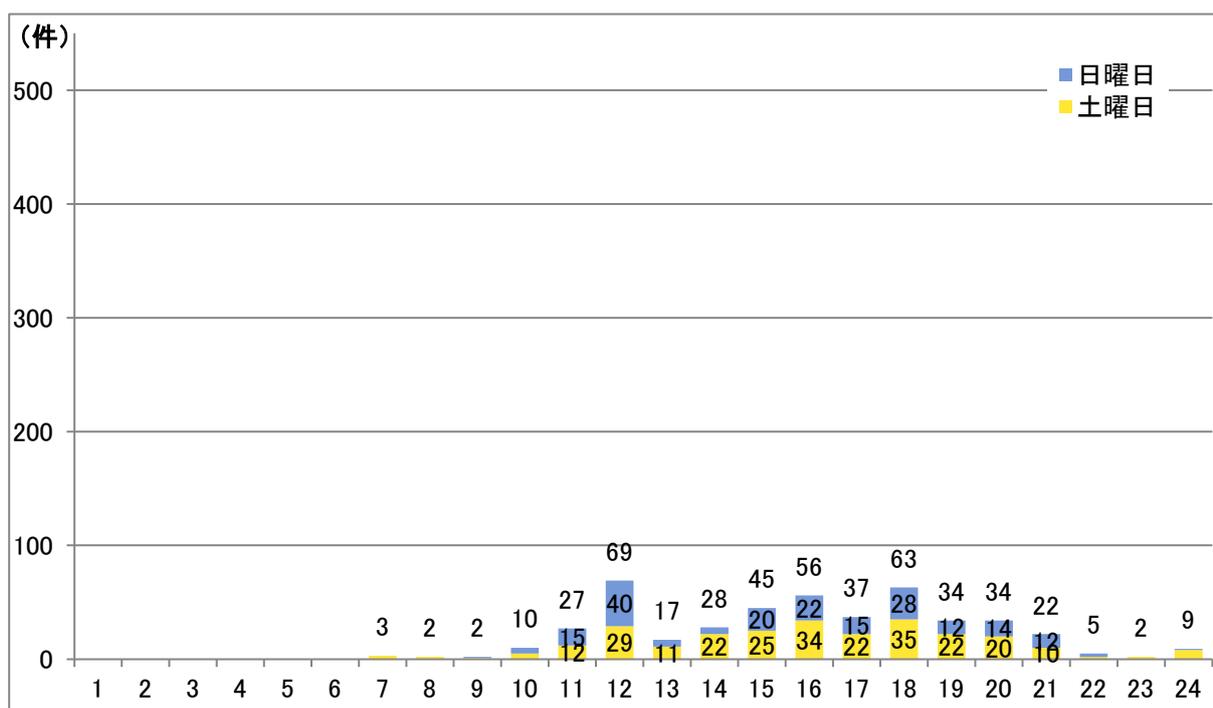


図 帰宅時間帯（土日）

○外出目的をお答えください。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

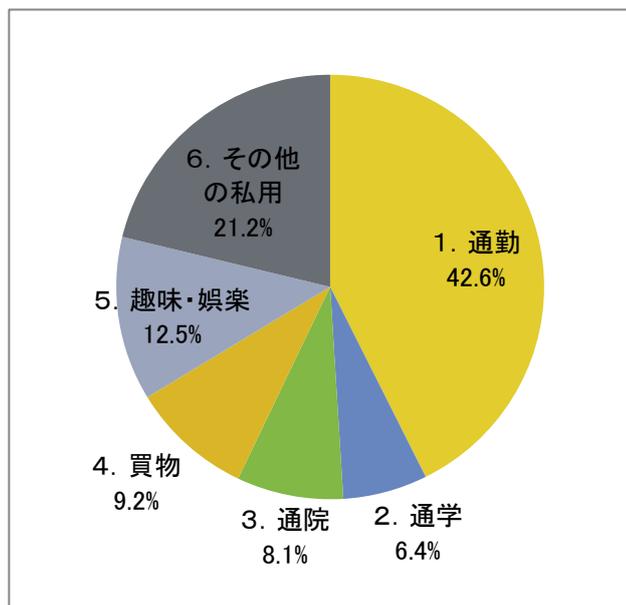
平日の外出目的は、「1. 通勤」が4割強と最も多く、続いて「6. その他の私用」が2割強、「5. 趣味・娯楽」が1割強の順となっています。

土日の外出目的は、「6. その他の私用」が3割強と最も多く、続いて「4. 買物」が3割、「5. 趣味・娯楽」と「1. 通勤」が2割弱の順となっています。

1週間平均を年齢階層別に見ると「1. 15～19歳」は「2. 通学」が8割強、「2. 20～29歳」から「5. 50～59歳」までは「1. 通勤」が5割以上と最も多くなっています。なお、「6. 60～69歳」から「8. 80歳以上」は他の年齢階層と比較し、「3. 通院」、「4. 買物」及び「5. 趣味・娯楽」の構成比が高い状況となっています。

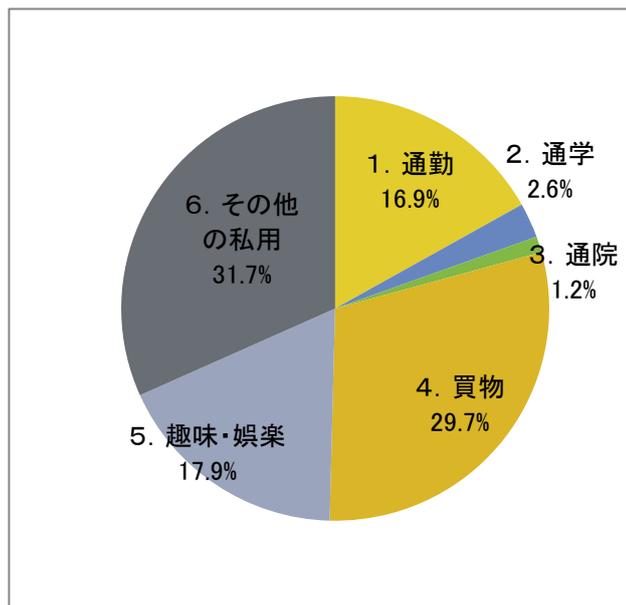
図表 外出目的（平日）

回答項目	回答数
1. 通勤	720
2. 通学	108
3. 通院	136
4. 買物	156
5. 趣味・娯楽	211
6. その他の私用	358
合計	1,689



図表 外出目的（土日）

回答項目	回答数
1. 通勤	83
2. 通学	13
3. 通院	6
4. 買物	146
5. 趣味・娯楽	88
6. その他の私用	156
合計	492



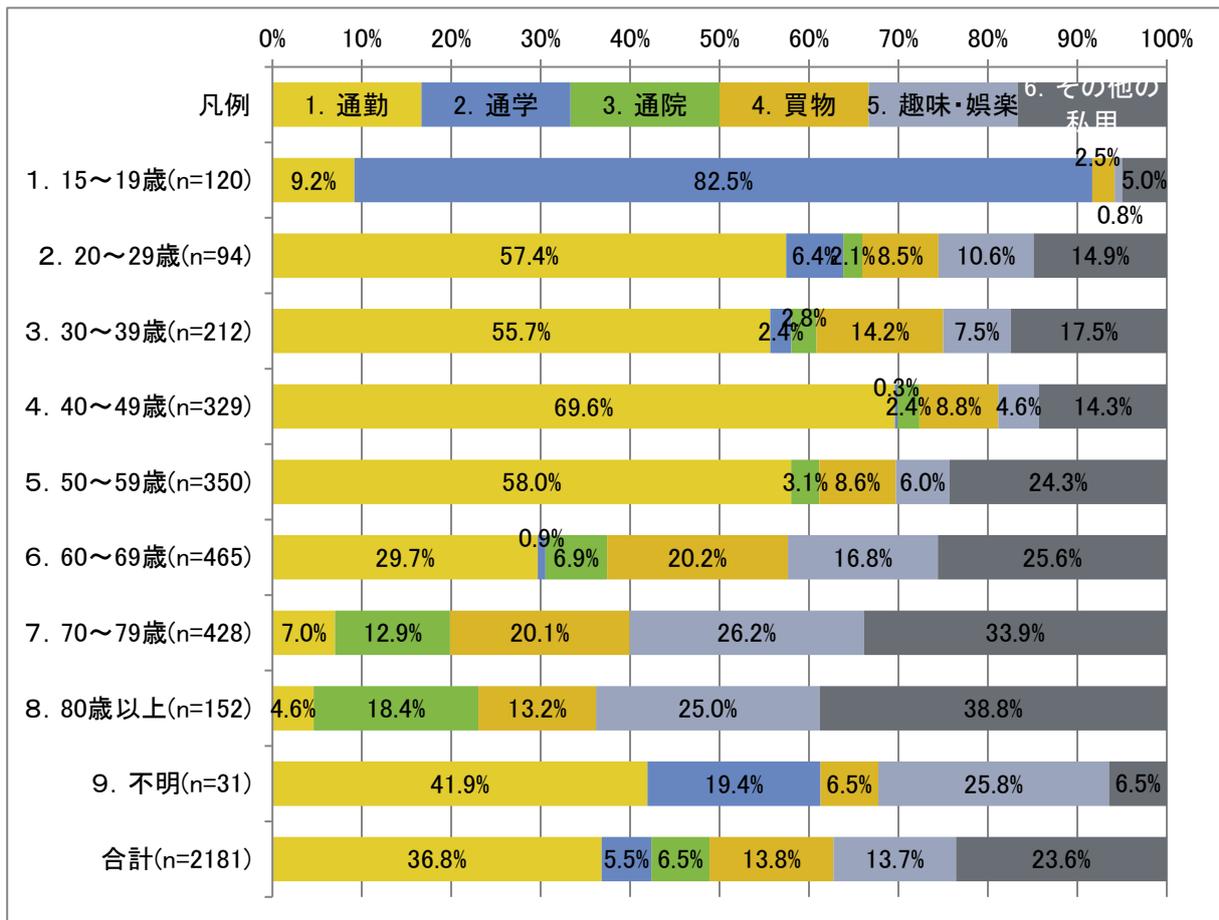


図 外出目的（平日・土日）（年齢階層別）

○交通手段をお答えください。(選択肢から番号を全て選んで記載)

交通手段は、「23. 自家用車 (自ら運転)」が1,600件と最も多く、続いて「1～14. 公共交通・送迎バス」が405件、「24. 自家用車 (同乗)」が325件の順となっています。

「1～14. 公共交通・送迎バス」の内訳は、「5. 中央バス滝川北竜線」が89件と最も多く、続いて「6. 空知中央バス (深川) 北竜線」が79件、「3. 中央バス高速るもい号 (滝川経由)」が45件の順となっています。

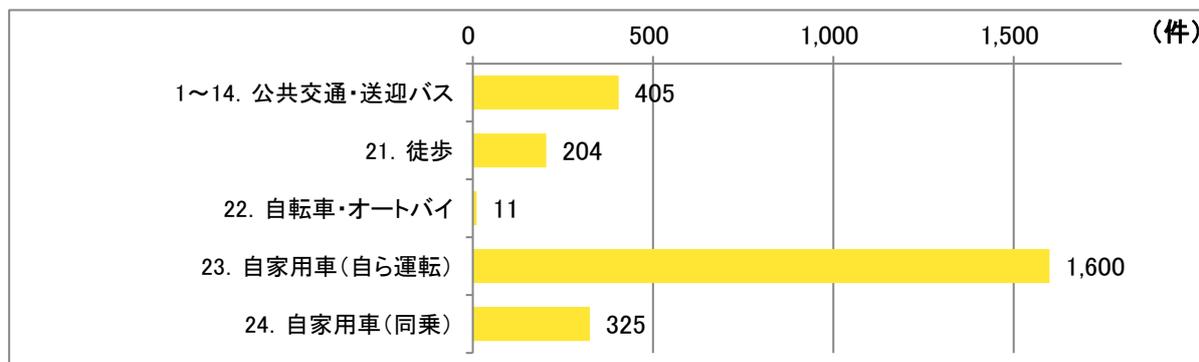


図 交通手段 (全体)

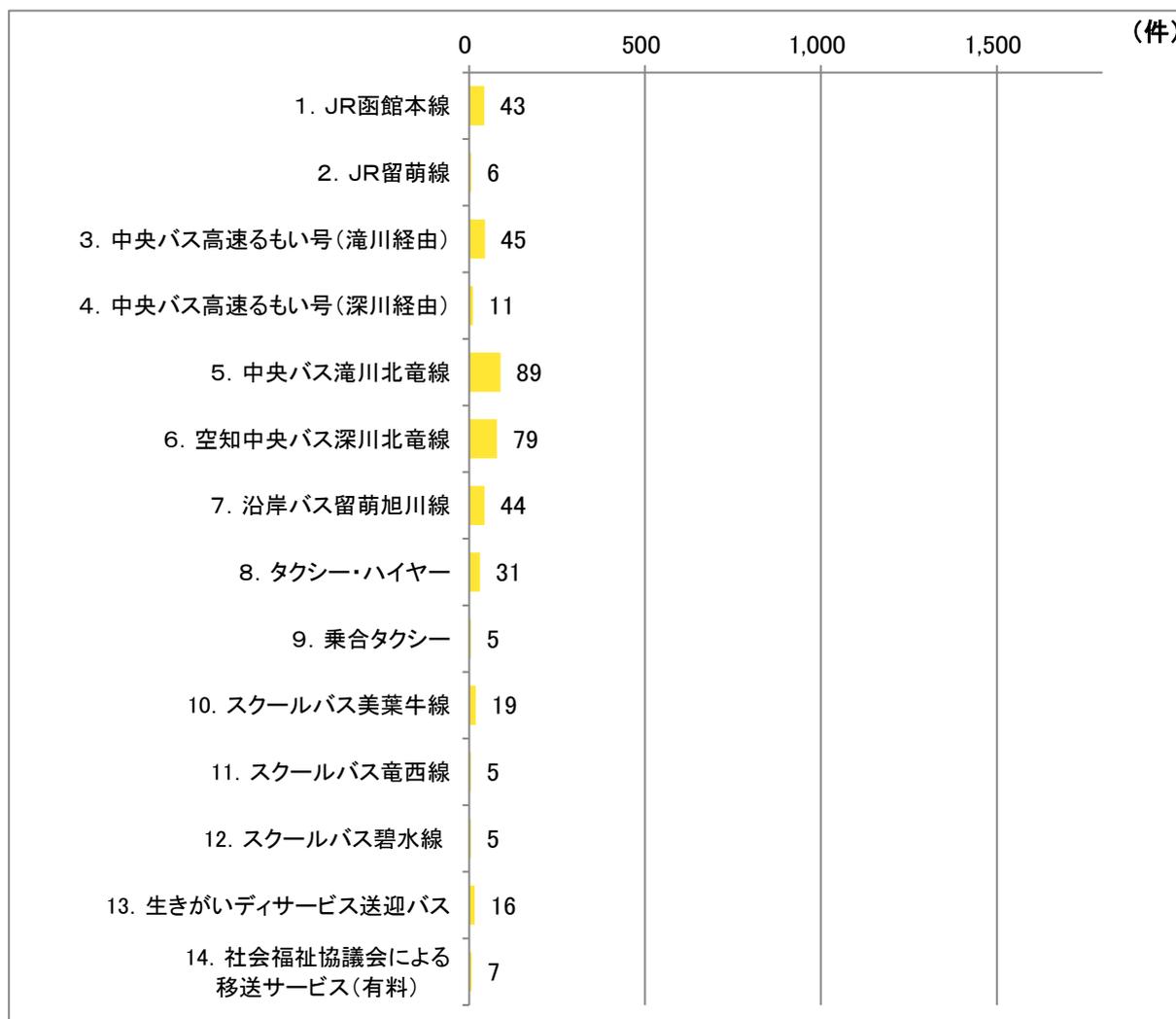


図 交通手段 (公共交通・送迎バス)

○外出先（市町村名）をお答えください。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

外出先は、「町外」が5割強で「北竜町内」は5割弱となっています。町外の内訳は、「3. 深川市」が586件と最も多く、続いて「2. 滝川市」が270件、「7. 旭川市」が102件となっています。

図表 外出先（市町村名）

項目	計
北竜町内	1,100
町外	1,241
合計	2,341

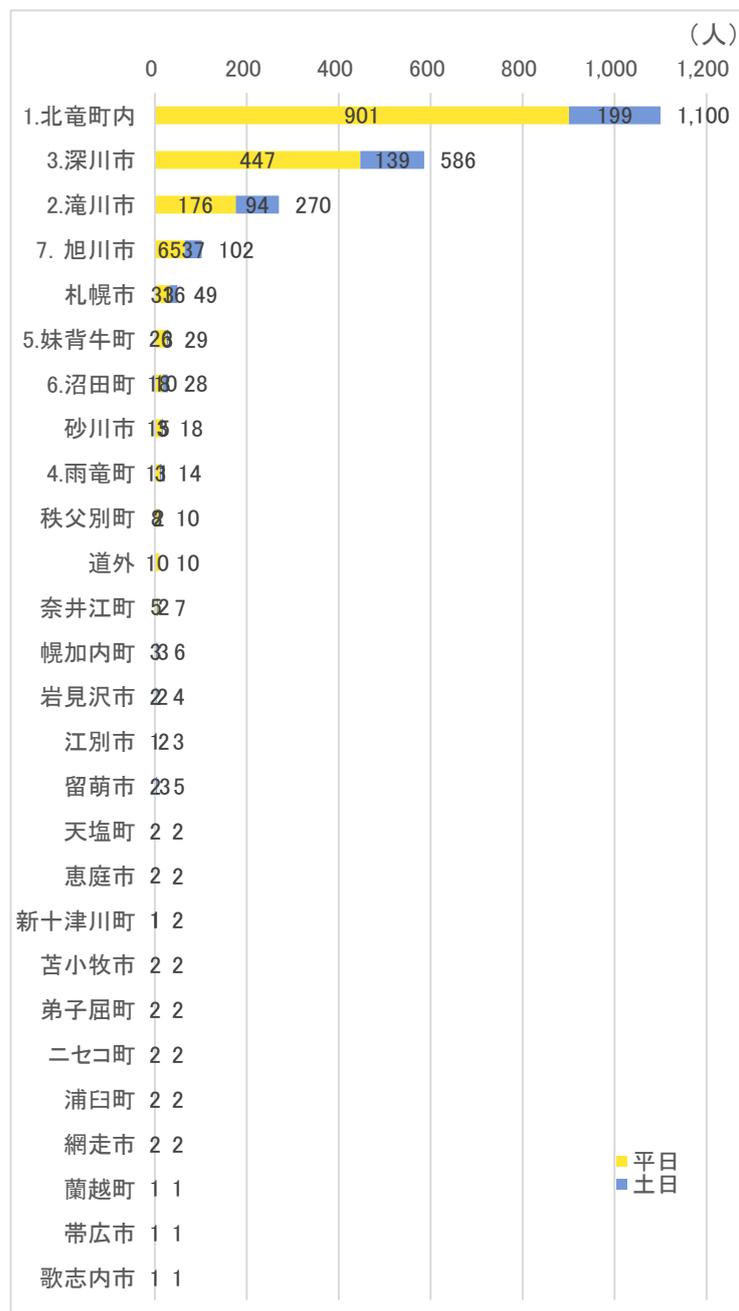
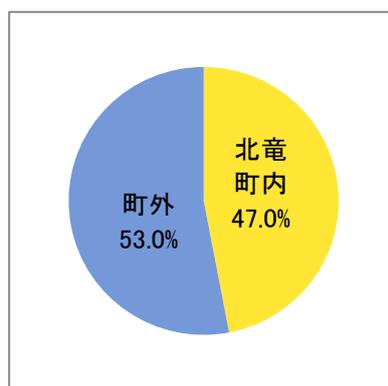


図 外出先（市町村名）

(参考) 交通分布

前述の(2)外出目的、(3)交通手段及び(4)外出先に回答者の居住地域を加え、交通量分布を以下のとおり整理します。

・平日

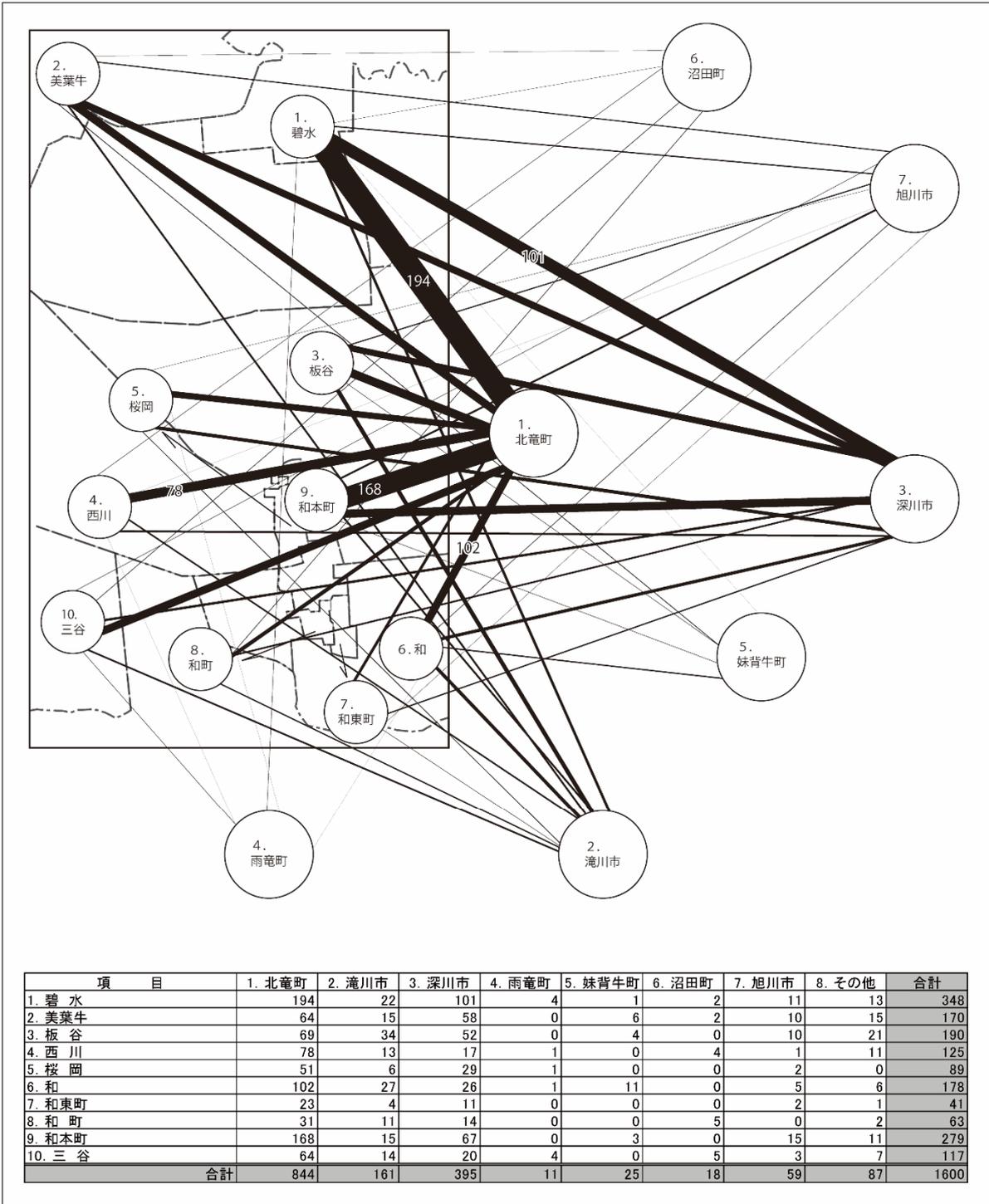
平日の町内移動では「1. 碧水」の194人、「9. 和本町」の168人、「6. 和」の102人及び「4. 西川」の78人が多い状況となっています。また町外移動では「1. 碧水」と「3. 深川市」との間の101人が多い状況となっています。

一方、公共交通での移動では、町内移動で「4. 西川」の22人、「1. 碧水」の15人、町外の移動では「1. 碧水」と「3. 深川」の14人、「3. 板谷」と「3. 深川」の13人、「6. 和」と「2. 滝川市」の10人が多い状況となっています。

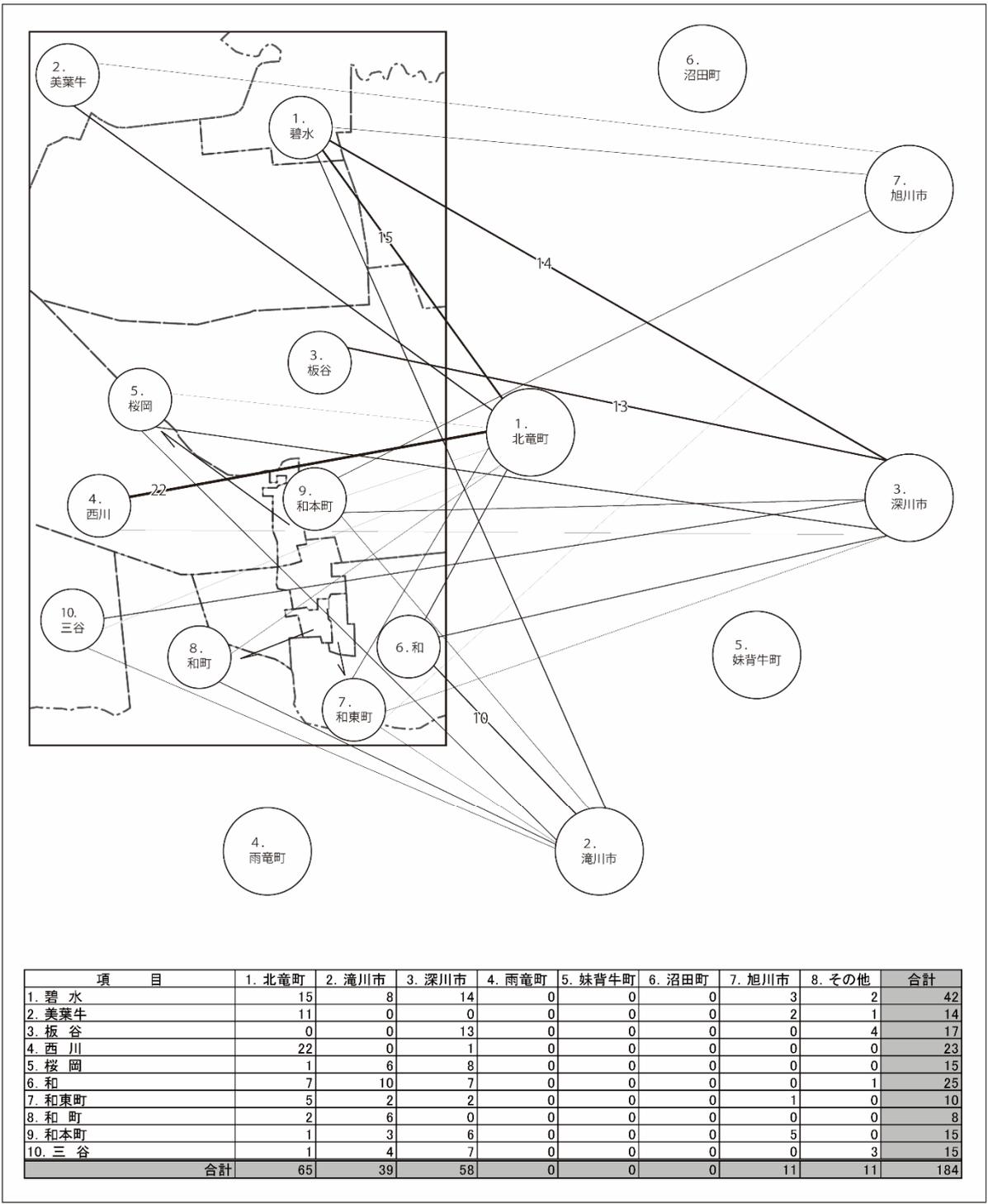
・土日

土日の町内移動では「1. 碧水」の44人、「4. 西川」の26人、「9. 和本町」の20人、町外の移動では「1. 碧水」と「3. 深川市」の23人、「9. 和本町」と「2. 滝川市」の22人、「3. 板谷」と「3. 深川市」の20人が多い状況となっています。

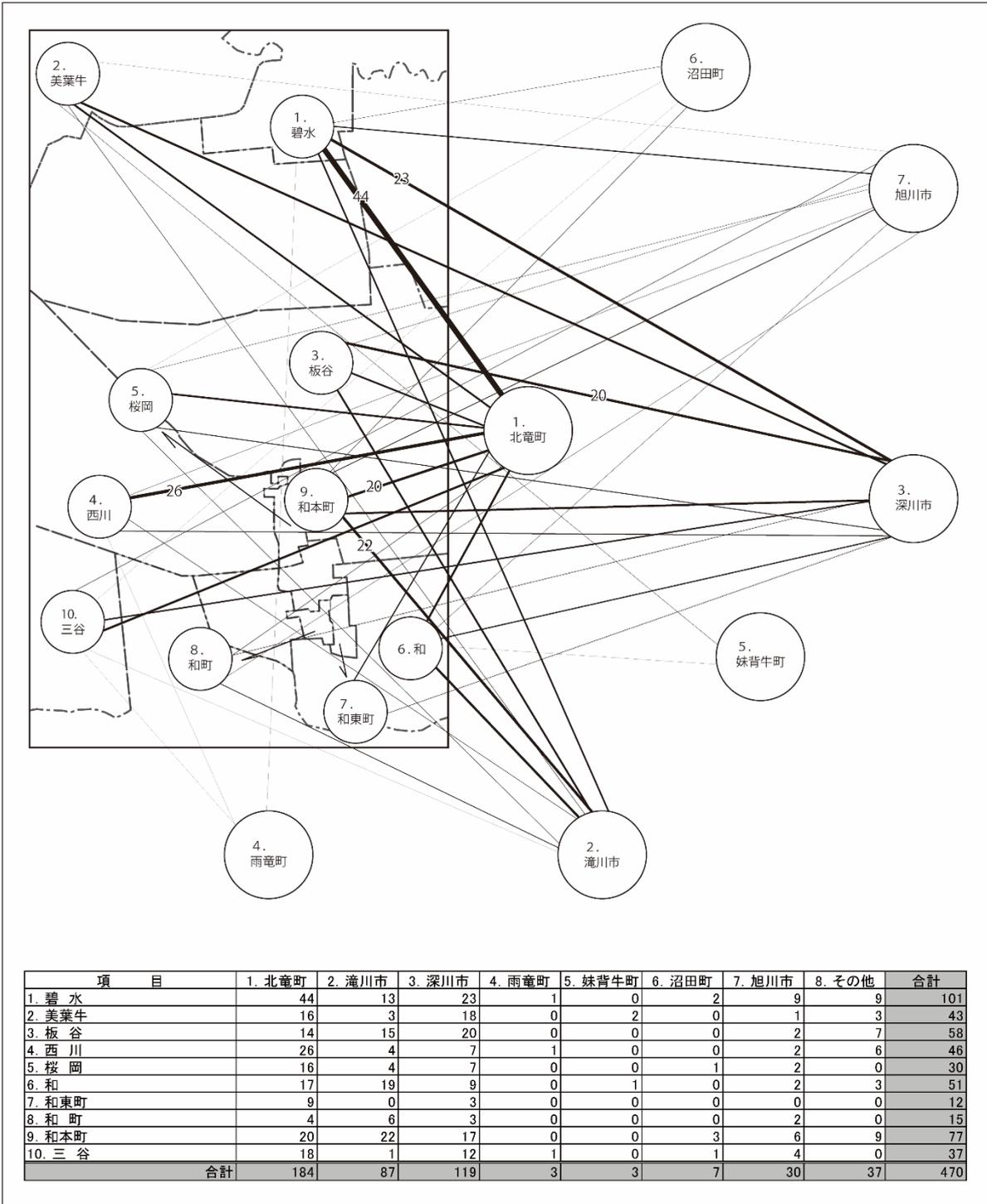
交通分布図 (平日) / (全体)



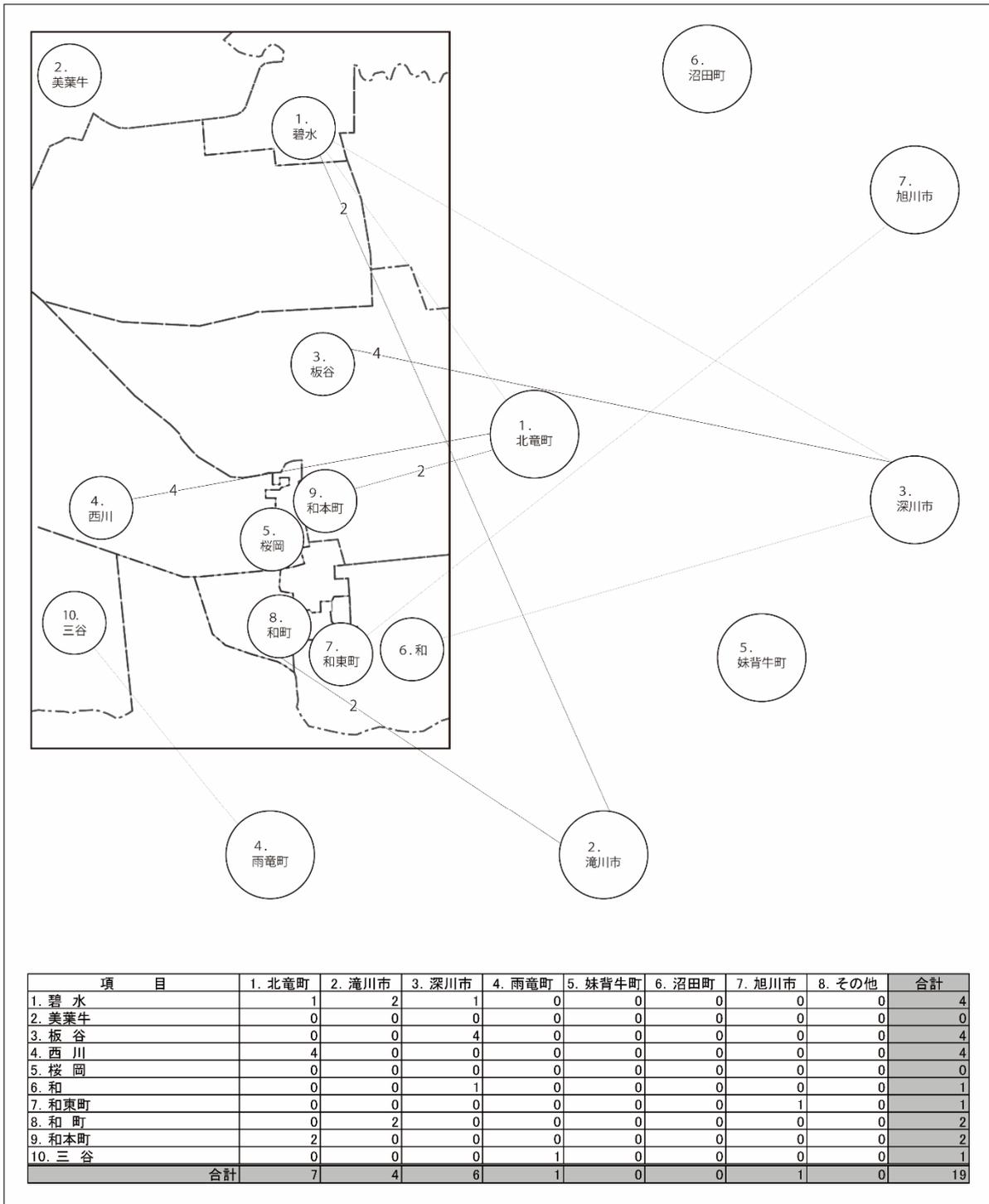
交通分布図 (平日) / (公共交通)



交通分布図 (土日) / (全体)



交通分布図 (土日) / (公共交通)



問5 代替交通手段の検討

Q17 路線バス利用者の減少に伴い、滝川北竜線と（深川）北竜線を維持するためには、北竜町がバス会社に年間1,300万円程度（人口一人当たり7,000円程度）を助成しなければなりません。滝川北竜線と（深川）北竜線とは別に新たなコストをできるだけ削減した輸送方法を検討していく必要があります。あなたは、この考えに賛同できますか。（一つに○、理由を記載）

コストを削減した輸送方法の検討に対しては、「1. 賛同できる」が8割弱となっており、「2. 賛同できない」の1割強を大きく上回っています。

これを年齢階層別にみた場合、全年齢階層とも同様の傾向を示しています。

図表 コストを削減した輸送方法の検討

回答項目	計
1. 賛同できる	283
2. 賛同できない	42
3. 不明	35
合計	360

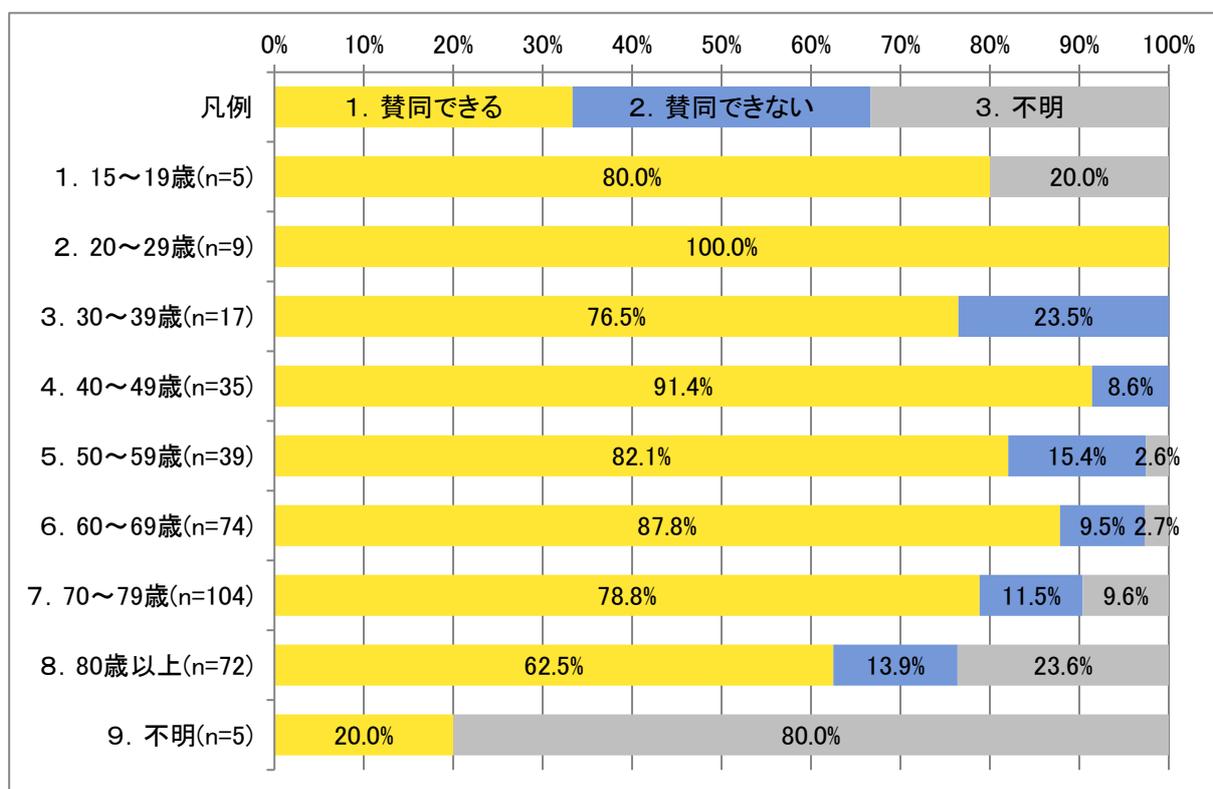
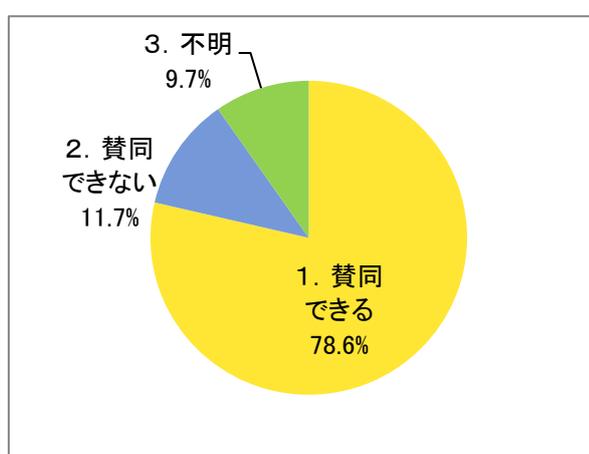


図 コストを削減した輸送方法の検討（年齢階層別）

○その他の意見

【深川・滝川直通便の維持】(38件)

- ・お金がかかっても深川や滝川への直通便を維持してほしい。
- ・家から深川や滝川と旭川への通院手段をぜひ考えてほしい。新十津川から砂川市立病院往復のワゴン車を見かけた。
- ・小型バスに転換する。
- ・深川や滝川直通の北竜町でデマンド型バスを運行してはどうでしょう。
- ・滝川北竜線と深川北竜線は、高齢者、高校生の大事な足なので、継続を希望。
- ・町外への通院も多いので、滝川北竜線と（深川）北竜線について広域的（近隣市町）に協議した方が良い。
- ・私は深川、滝川の病院に行っているのでバスがなければ困ります。ハイヤーばかりでは行けません。お願いします。
- ・交通手段がなくなる。 ・他の支出を見直してバスの助成に充てる。
- ・高校の通学のために必要。 ・子供が将来高校に行けなくなる。
- ・高校の通学や町の維持のために必要。
- ・深川まで行くのであれば、妹背牛や追分から乗り換えせずに直接行けたらいい。
- ・今は車運転出来るが、運転出来なくなったらこの町に住めるか心配になりました。私としては特に深川への足はどうしても確保してほしいと願っています。
- ・オンデマンドタクシーを運行する。 ・現状維持。
- ・滝川や深川に行ける手段を確保するのは、必ずしも負担増にはならない。町独自で運行する方が安上がりになる。
- ・国と道の支援を仰ぐべき。
- ・北竜町内停留所の効率化を検討し、北竜から深川・滝川へは直接運行を希望する。
- ・将来、子どもが大きくなると深川、滝川への公共交通手段が必要になります。もし多少の個人負担を伴ったとしても何とか確保していただきたい。
- ・バスを小型化して北空知圏での合同運用する。
- ・町外との交通手段が途絶えることは、高校生の通学に大きな支障を来すので、追分や妹背牛等の乗換えでなく、しっかり目的地迄の路線を確保してほしい。
- ・北竜町の担い手となるかも知れない学生の通学や通院の足は必要。必要なムダも我慢する必要があると思う。
- ・深川の病院までの送迎バスを運行してほしい。
- ・タクシーだと高いので、バスを維持してほしい。
- ・通学生はいないが高校への通学に必要な事であり、必要不可欠である。
- ・このままで行くと高校生通学、老人の通院が心配。 ・病院に行けなくなる。
- ・滝川北竜線と（深川）北竜線について全く利用する事はなかったが、これから自家用車の運連ができなくなり和市街に居住するような事になれば公共の交通手段は必要と考えます。乗り継ぎは大変と思うので直通便が必要。
- ・乗り継ぎは大変なので、町が小型バス、ドライバーはボランティアで直接深川や滝川まで運行。
- ・高齢化に伴い足腰が弱り、乗り換えや待ち時間が大変なので、維持してほしい。

<ul style="list-style-type: none"> ・不便になる。 ・本数を減らしても直接行ける方が良い。 ・国・道の支援が必要だ。 ・子供が高校生になるとバス利用は必要になるので、なくなるのは困ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの通学ができなくなる。 ・免許証返納した後、町外に出るのに困る。 ・通学に必要なので、現路線の維持を希望。
<p>【検討の必要なし】（8件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和線は無くても困らない。 ・利用者が少ない。 ・負担が大きすぎる。 ・乗る人がいない。 	
<p>【妹背牛、追分の両方へアクセスが必要】（6件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用しない。 ・助成する必要はない。 ・現状は車を使用するので、不自由を感じない。 ・人それぞれ目的地や行く理由が違う。 <p>・滝川北竜線と（深川）北竜線について、「追分」（滝川方面行）と「妹背牛」（深川方面行）を交互に走らせてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町が保有するバスで追分や妹背牛まで町民を輸送する。 ・深川方面は妹背牛、滝川方面は追分の両方を運行する。 ・深川方面は妹背牛町内の小藤から妹背牛の関係、滝川方面は雨竜町内の渭の津から追分の関係もあるので、各町との協力体制が必要。滝川方面については沼田町との関わりも出てくるかもしれない。 ・滝川北竜線と（深川）北竜線の問題について一番困るのは高校への通学であり、次いで車の少ない人の通院や買物なので、適切な対策が必要である。 ・学生の通学手段である路線バスが北竜まで来ないのは人口減少にもつながると考えます。朝の通学1本と夕方4～5時の時間帯の1本は妹背牛、もしくは追分までの輸送を町で運行してもらえると保護者は助かると思います。ですが、1回乗車するに当たり公共交通代ぐらいの負担をしてもらって良いと考えます。高齢者の通院などのバス利用者については朝1本、お昼頃、帰る時間帯1本、妹背牛もしくは追分までの輸送を予約制で行ってはどうかと思っています。町内施設までというのを妹背牛か追分まで延ばしてはどうでしょうか。 	
<p>【碧水から追分への運行】（2件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿岸バス留萌旭川線の「碧水市街」から深滝線「追分」まで輸送手段を確保して、滝川・深川に行けるようにして、便数も増やす。 ・北竜町は、ひまわりの里を観光資源としている以上、インバウンドや個人の旅行者を受け入れる必要があります。公共交通に求めるものは安心と便利さです。北竜町の発展のためにも沿岸バス追分区間のバス運行をしていただき、住民と旅行者の利便性を追求していただきたいと思っています。 	
<p>【その他】（5件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝川北竜線と（深川）北竜線の代替交通手段については、出来れば良い方法を検討して下さい。 ・小型のマイクロバスでの運行が大型バスより燃料がかからなく良いと思います。 ・高校生にとっては大変問題です。ぜひ、バスについて検討して下さい。部活も安心してできるようにしてもらいたいです。 ・深川・滝川への交通手段の確保は必要。通学、通院、買い物は保障してほしい。 ・町の負担が一人7,000円は高すぎ。自営で誰かにお願いできないか。 	

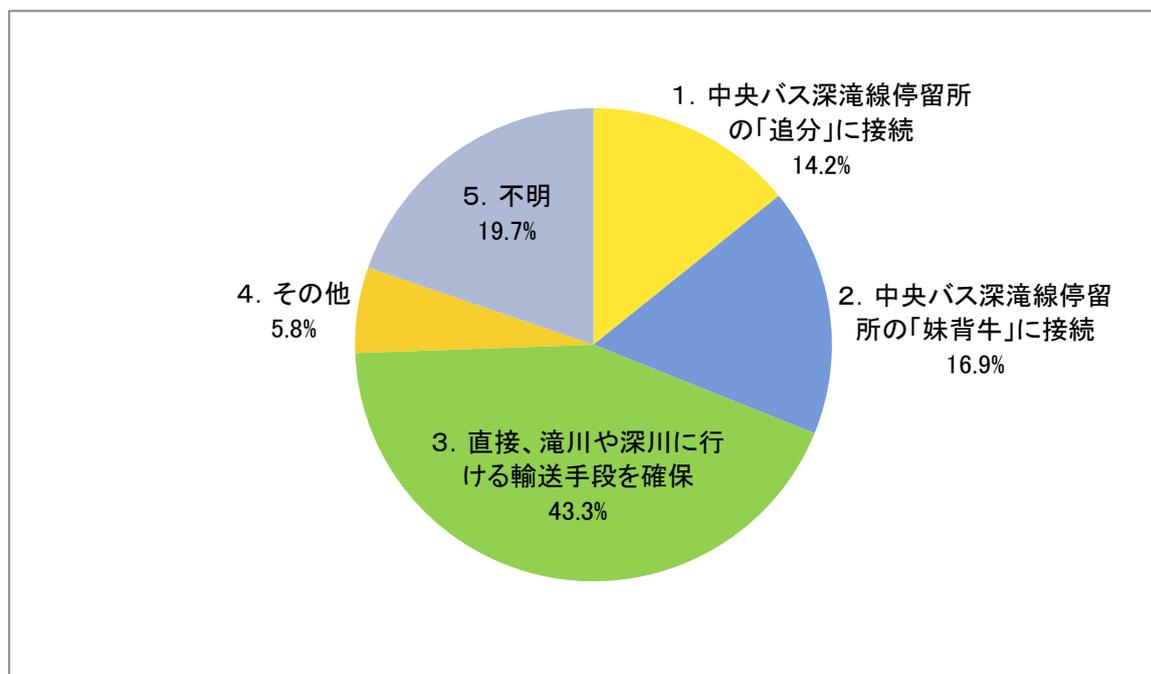
Q18 新たな輸送方法を検討するにあたって、滝川市方面と深川市方面への新たな輸送ルートについて、妥当と考えるものをお選びください。(一つに○、必要な事項を記載)

新たな輸送方法の検討にあたっては、「3. 直接、滝川や深川に行ける輸送手段を確保」が4割強と最も多く、続いて「2. 中央バス深滝線停留所の『妹背牛』に接続」が2割弱、「1. 中央バス深滝線停留所の『追分』に接続」が1割強の順となっています。

これを年齢階層別に見ると「1. 15～19歳」は「1. 中央バス深滝線停留所の『追分』に接続」、「2. 20～29歳」は「2. 中央バス深滝線停留所の『妹背牛』に接続」、「5. 50～59歳」以上の年齢階層は「3. 直接、滝川や深川に行ける輸送手段を確保」が多く、年齢階層で傾向が異なる状況となっています。

図表 新たな輸送方法の検討

回答項目	計
1. 中央バス深滝線の停留所「追分」までの輸送手段を確保して、深滝線で滝川や深川に行けるようにする	51
2. 中央バス深滝線の停留所「妹背牛」までの輸送手段を確保して、深滝線で滝川や深川に行けるようにする	61
3. 滝川北竜線と(深川)北竜線を維持するよりも町の負担が増加するが、直接、滝川や深川に行ける輸送手段を確保する	156
4. その他	21
5. 不明	71
合計	360



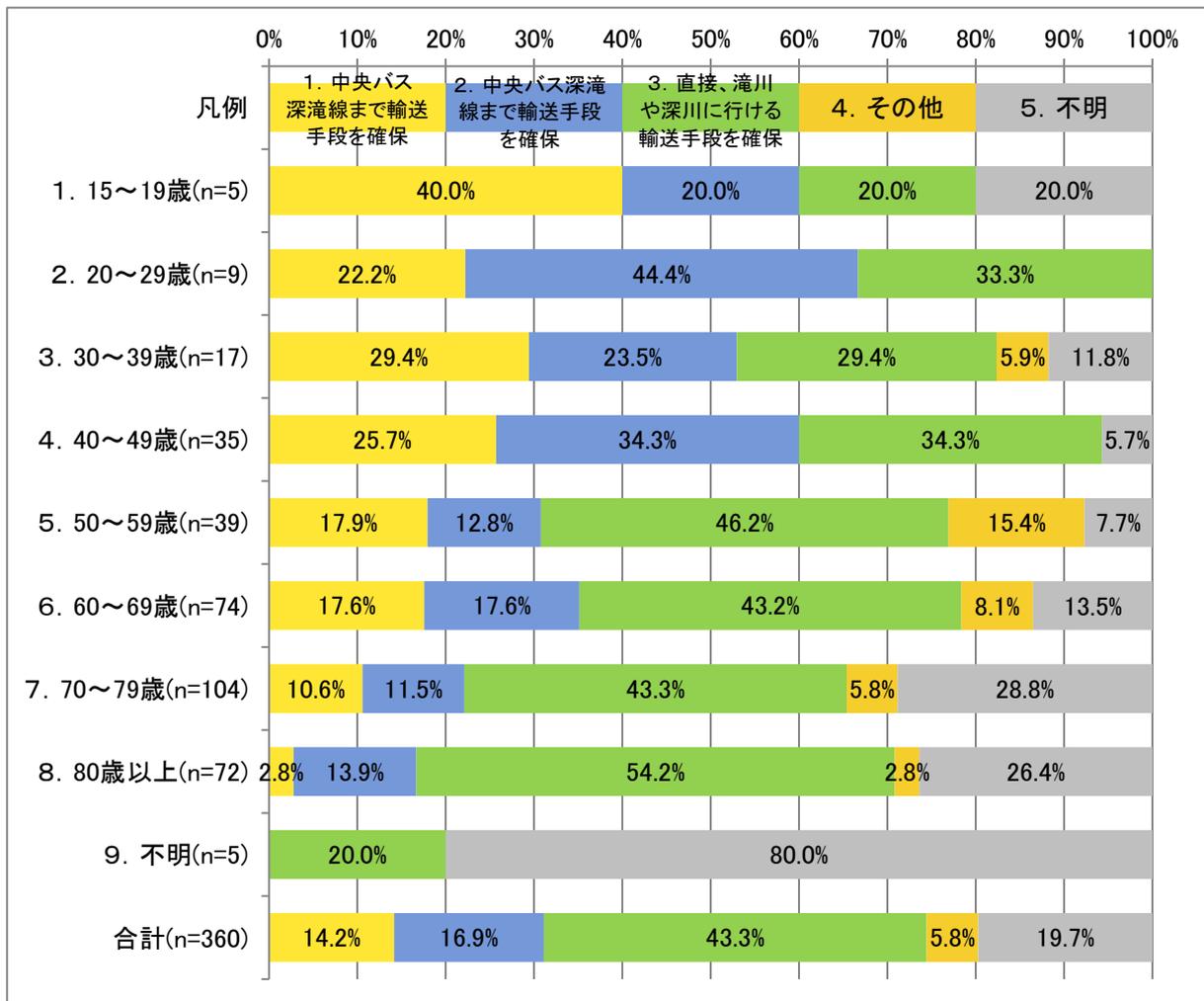


図 新たな輸送方法の検討（年齢階層別）

○その他の意見

【コミュニティバス】（10件）

- ・コミュニティバス（有料）があれば、その時間に合わせた生活ができる。
- ・コミュニティバスの運行を望む。
- ・ワゴン車を用いて今までのバス停を利用して決められた路線を定時で走る。予約が不要で利用しやすい。夏季の観光客も利用できるようにする。これを広く周知するとともに、利用少なければデマンド型を併用する。
- ・コミュニティバスについては停留所の数を多くするか、自宅前の人も載せるなどきめ細かなサービスで対応してほしい。
- ・コミュニティバスは中型バス～マイクロバスにする。
- ・コミュニティバスで、バス停→病院→アクロスプラザのように、まとめて買い物に行ける場所というように利用が一番多い所に行けるバスがあると便利だと思います。
- ・路線バスを小型化して維持費を削減する。
- ・現在の町内運行ワゴン車を増強しての運用する。
- ・使いやすさやコストを考えると、どれも難しい。人口減少の中で多くの利用があるとも思えない。デマンドは現状を見ると不便、面倒くさい。1日2～3往復のコミュニティバスが良

いのではないかと思います。町の負担がどれくらいになるのかが要・不要の分岐点だと思います。

- ・病院に行く際のコミュニティバスのようなものを日に何回か行きと帰りあった方が良いのではないのでしょうか。

【デマンド交通】（9件）

- ・乗合タクシーの運行をもう少し考えてほしい。
- ・乗合タクシーと町内の運転者グループを結成して、相互に補完するような仕組みが出来れば良いと思います。
- ・料金1,300円以下で乗合タクシーを新設。
- ・スクールバスより乗合タクシーの運行費用が安いのなら乗合タクシーの運賃を安くしてはどうか。
- ・オンデマンドタクシーの運行。
- ・乗合タクシーの回数を1～2回程度増やしたり、バス停や郵便局など連絡施設を増やしてほしい。
- ・歩く事が出来ないので、乗合タクシーをお願いしてるが、もう少し考えてほしいです。
- ・いずれは免許証の返納をしなければならない。乗合タクシーの利用が多くなる事と思う。特段の配慮を望む。
- ・車の運転ができなくなり家族も仕事をしていたり自由にもどこにも行けないお年寄りが多くなっています。コミュニティバスを前日までに予約をうけて自宅前まで送迎してもらえると助かります。
- ・乗合タクシーを利用したことなく実情が分からないが、年配者にとって自宅まで来てもらうことに良さがあるような気がする。

【スクールバス】（3件）

- ・和ハイヤーによるスクールバスを増し、必要に応じて運行する。
- ・スクールバスの活用。
- ・スクールバスを運行する。

【その他】（5件）

- ・通常運行の他に季節的な輸送手段の検討も必要。
- ・役場、農協、床屋、病院などに行けなくなったら困ります。買物も困ります。年寄りに不安のない様をお願い致します。
- ・高校通学者からの負担金により運行。
- ・美葉牛に住んでいる人がココワまでハイヤーで行かなければならないのはあまりに可哀そう。
- ・自家用車も無く、サンフラワーに行くにも、ココワ、信金に行くにも不便である。

Q19 ご自宅から町内の目的施設までの輸送手段について、妥当と考えるものをお選びください。(一つに○、必要事項を記載)

自宅から町内の目的施設までの輸送手段は、「1. 乗合タクシーなどのデマンド交通による輸送」及び「2. コミュニティバスによる輸送」とも4割の概ね同率の結果となりました。

これを年齢階層別に見ると、概ね「4. 40～49歳」までの年齢階層は「2. コミュニティバスによる輸送」が多いものの、「5. 50～59歳」以上の年齢階層は「1. 乗合タクシーなどのデマンド交通による輸送」が多い状況となっています。

図表 新たな輸送方法の検討

回答項目	計
1. 乗合タクシーなどのデマンド交通による輸送	144
2. コミュニティバスによる輸送	145
3. その他	17
4. 不明	54
合計	360

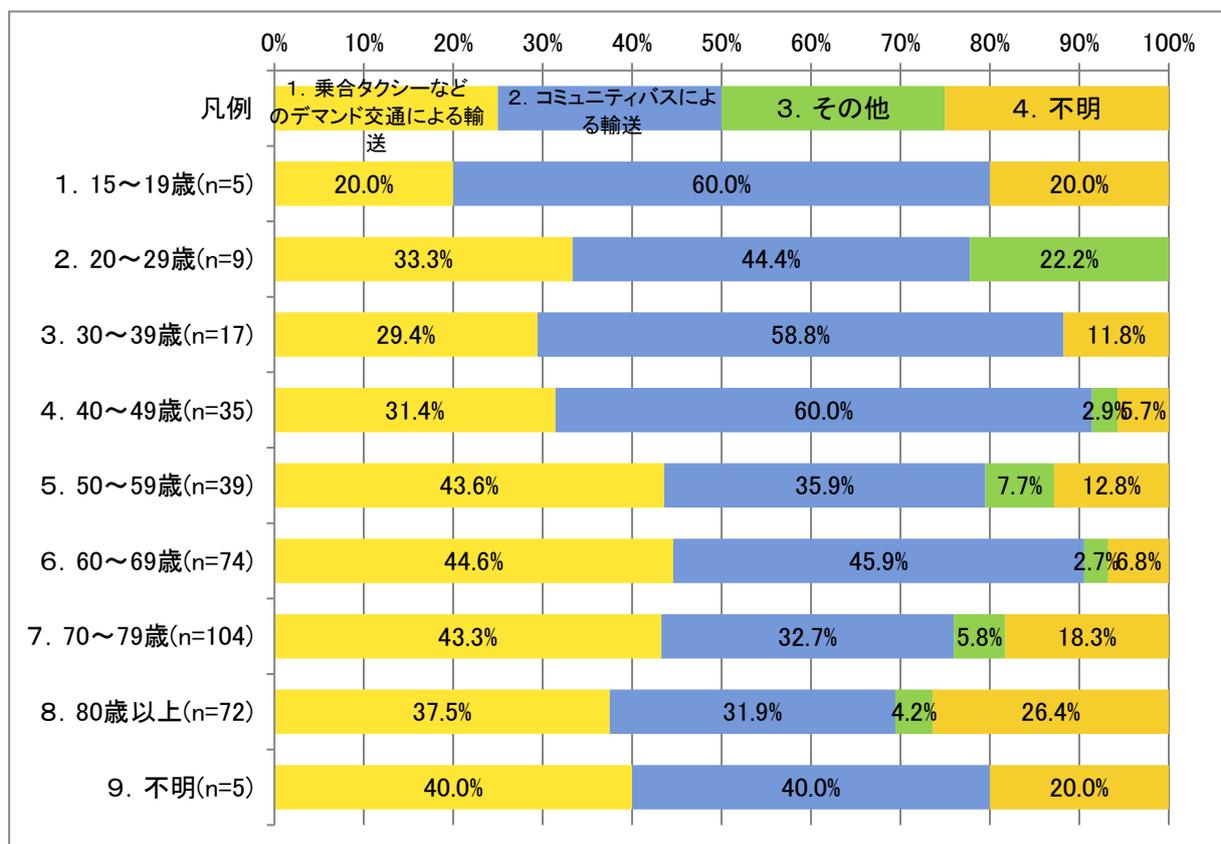
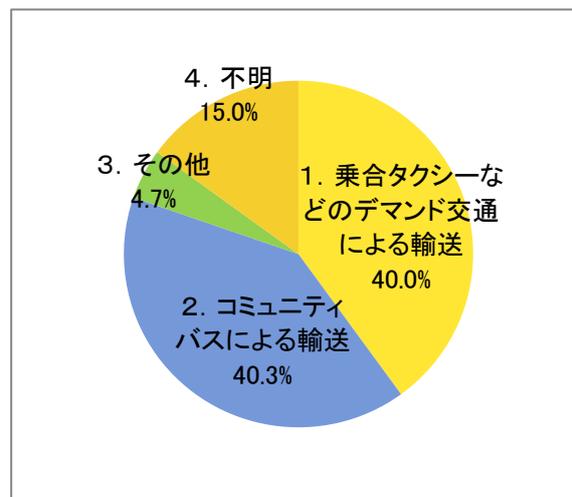


図 新たな輸送方法の検討（年齢階層別）

問6 その他、公共交通についてご意見等がありましたらお書きください。

【利用しやすい公共交通の確保】(10件)

- ・高齢者や高校生等のためには利用しやすい形で維持すべきと考えます。
- ・人口減少、マイカー利用率増でバスの使用は減っている。バスが廃止(予定・想定)となると困る利用者様もいると思います。免許を返納してしまい自家用車を保有しない高齢者にとって、都合の良い代替交通手段が用意されることを願います。
- ・91歳で免許返納を検討中です。深川までの通院や北竜温泉までの移動手段がほしい。
- ・免許を持っていない若人の通学のために、公共交通を確保してほしい。老人は移動に時間をかけられるが学生は時間が定まっている。学生の住めない所に未来は無い。
- ・町内、町外への交通手段が増えることは良いことと思う。JRがない分バス利用が出来る可能性が広がれば良いと思う。ご老人やお子さん達メインではなく、町民全員が利用出来なければ意味がない。
- ・バスは絶対必要です。
- ・他市町村の集合タクシーやコミュニティバスを、お互いに利用できる様になれば良いと思う。例えば、他町村の病院の帰りでも、その町の公共交通を利用できる様にした方が良いと思う。
- ・乗り降りできる場所と運行時間を早くからにしてほしいです。朝から7時からの時間帯もお願いしたいです。場所も増やしてほしいです。遅い時間の運行してほしいです。
- ・北竜町は他の町に比べて、老人の交通手段をまったく考えていない。免許をもっていない老人はどこにも行けないのが現状である。タクシーを町内一律で低料金で運行したり、バスも本数を増やして走らせる方が良い。街の内に住んでいる人が良いが、農家地域の人は和や碧水に行くための手段がない。
- ・学生が通学する時の交通手段がないのは厳しい。共働きが多い中で、子の送迎は難しい。

【公共交通の維持】(5件)

- ・陸の孤島にならないようにするためには、ある程度の支出は考慮しなければならぬと思う。
- ・現在、我が家は自家用車でほとんど用が足りているが、子供の通学、高齢者の病院や買い物足として必要な公共交通がなくなることは人口減少に直接つながることだと思う。将来に不安を持つ人も増えると思います。
- ・国と北海道の補助打切りはいつからですか。今の運行はいつまで続きますか。この辺りの情報発信をお願いします。
- ・私は一人暮らしをしております。車もなくつきに1~2回の通院をしていますので、バスを利用させて頂いております。バスが無くなると大変困ります。無くならないように宜しくお願いします。
- ・中央バスの運行を中止にしないで欲しい。鉄道が止まって以来、北竜町はどんどん人口が減って来た。さらにバスも通らなければ、一層、過疎になってしまい、そうなればもう住みたくない。

<p>【将来の利用を検討】（5件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の所は免許があるので自家用車で行動をしていますが、いずれは公共交通にお世話になると思います。 ・運転出来なくなった時は、タクシー利用を考えている。 ・今後、数年後には集合タクシーを利用することになるでしょう。 ・今の状況は、まだ公共交通を利用する事がほとんどありませんが、その時が来た時は利用させてもらう事と思います。 ・現在は夫婦2人共、自家用車で行動できていますが、今後は交通機関のお世話になっていきます。日常的な利用としては、通勤、通学、通院、買物があると思われます。私たちシニアの人々にとって買物については必要でもあり楽しみ、運動でもあるので「買い物ミニバス」のように考えてみてはいかがでしょうか。
<p>【将来への不安】（6件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今は若いので車を運転できるが、将来を考えると不安。 ・これ以上、不便とならないような手段を講じてほしい。 ・今は必要ないと思いますが、自分が運転をしなくなった時の交通手段には不安があります。 ・現在は運転していますが、あと2～3年後が心配です。 ・孫が大きくなった時に不安を感じています。 ・滝川北竜線と（深川）北竜線は、交通手段がなければ身動きできません。交通難民になります。
<p>【乗合タクシー】（3件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和タクシーはお年寄りの乗り降りに時間がかかるので怒られると聞きました。 ・乗合タクシー時間帯を増やして欲しい。 ・他の人から聞いたのですが、乗合タクシーは目的地から少しづれただけでも拒否されるらしいので、改善して下さい。
<p>【深滝線】（2件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少は明らかで、町の負担を極力減らすにはやむを得ないと思います。深滝線は運行本数も多く、追分まで輸送すればどちらの通学、通勤、通院にも距離的にも良いと思います。 ・中央バス深滝線も、いずれ減便していくと思われるので、今から対策を考えていくべきと考える。
<p>【免許返納制度】（2件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象年齢に達したら、秩父別町のように年間数十枚かタクシー券を発行してはどうか。 ・免許返納に対して毎年補助するなど、手厚い支援をお願いします。
<p>【シルバー人材の活用】（1件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス運営をシルバー人材にお願いしてみても。
<p>【バス運賃の値下げ】（1件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの運賃がとても高いので安くしてほしいです。安くするといっぱいの人に乗るでしょう。

<p>【バス停留所】（1件）</p> <ul style="list-style-type: none">・中央バスの碧水バス停は、知らない人がよく間違えるため一つに統合したほうが良いと思う。
<p>【(深川)北竜線】（1件）</p> <ul style="list-style-type: none">・空地中央バスの（深川）北竜線は JR 妹背牛駅に経由してほしい。
<p>【路線バス時刻表の配付】（1件）</p> <ul style="list-style-type: none">・バスの時刻表がなく、利用したいときに調べるのが大変だった。役場から転入した際に欲しかった。
<p>【留萌旭川線】（1件）</p> <ul style="list-style-type: none">・沿岸バス留萌旭川線は運行を続けていただきたいです。

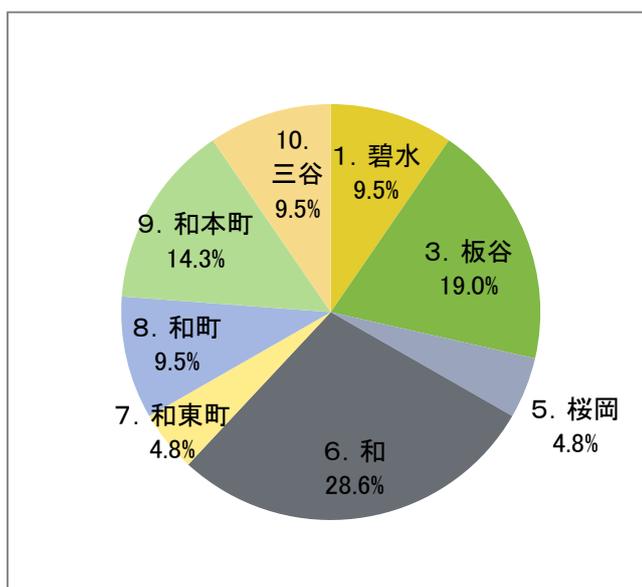
(8) 高校生アンケート調査

Q1 お住まいの「地域」をお答えください。(一つに○)

居住地域は、「6. 和」が3割弱と最も多く、続いて「3. 板谷」が2割弱、「9. 和本町」が1割強となっています。

図表 居住地域

回答項目	回答者数
1. 碧水	2
2. 美葉牛	0
3. 板谷	4
4. 西川	0
5. 桜岡	1
6. 和	6
7. 和東町	1
8. 和町	2
9. 和本町	3
10. 三谷	2
合計	21



Q2 高校生の「人数」をお答えください。(一つに○)

高校生の人数は、全世帯において「1. 1人」となっています。

図表 人数

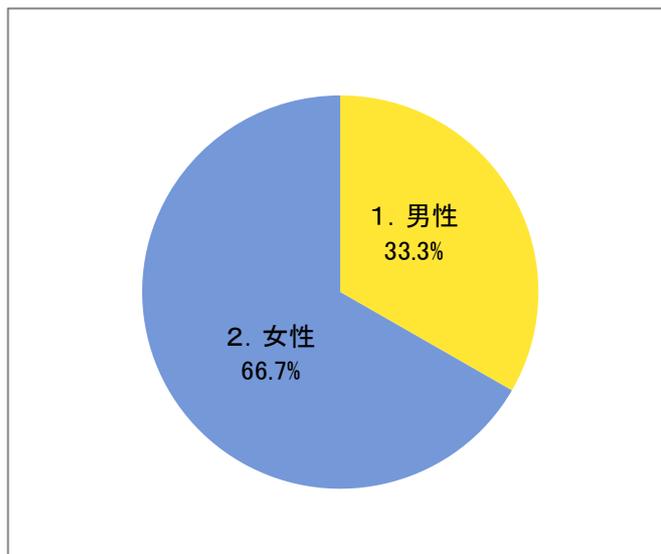
回答項目	回答数
1. 1人	21
2. 2人	0
3. 3人	0
合計	21

Q 3 性別をお答えください。(それぞれ一つに○)

性別は「2. 女性」が7割弱となっており、「1. 男性」の3割強を大きく輪回っています。

図表 性別

回答項目	回答者数
1. 男性	7
2. 女性	14
合計	21

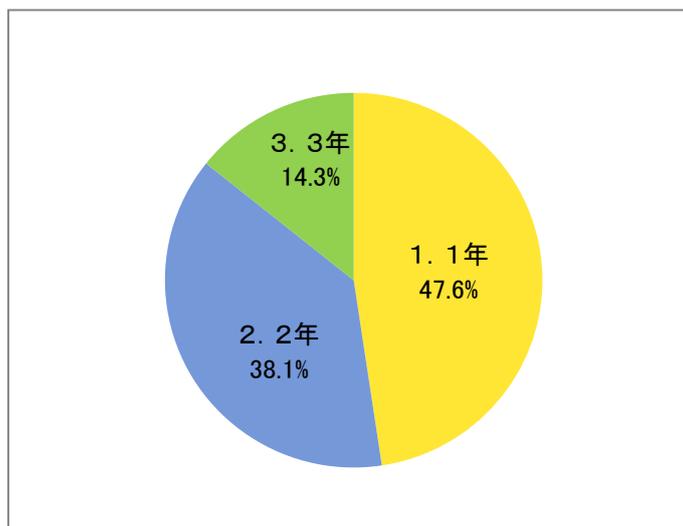


Q 4 学年をお答えください。(それぞれ一つに○)

学年は「1. 1年生」が5割弱と最も多く、続いて「2. 2年生」が4割弱、「3. 3年生」が1割強の順となっています。

図表 学年

回答項目	回答者数
1. 1年	10
2. 2年	8
3. 3年	3
合計	21

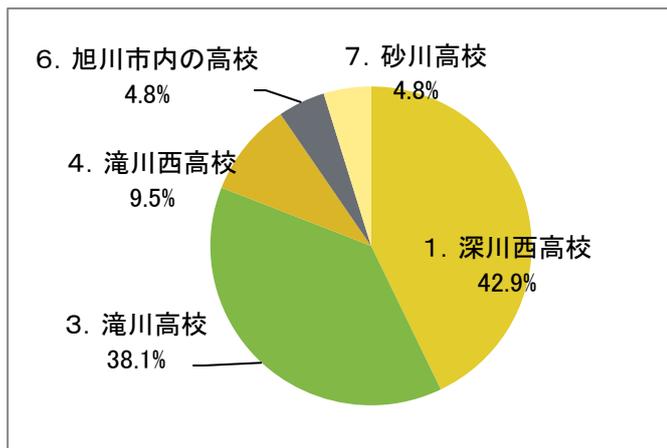


Q 5 学校名をお答えください。(選択肢から番号を一つ選んで記載)

通学している学校は「1. 深川西高校」が4割強と最も多く、続いて「3. 滝川高校」が4割弱、「4. 滝川西高校」が1割となっています。滝川市と深川市の通学数としては、滝川市が10人に対して深川市内が9人と概ね同数となっています。

図表 通学している高校

回答項目	回答者数
1. 深川西高校	9
2. 深川東高校	0
3. 滝川高校	8
4. 滝川西高校	2
5. 滝川工業高校	0
6. 旭川市内の高校	1
7. 砂川高校	1
合計	21

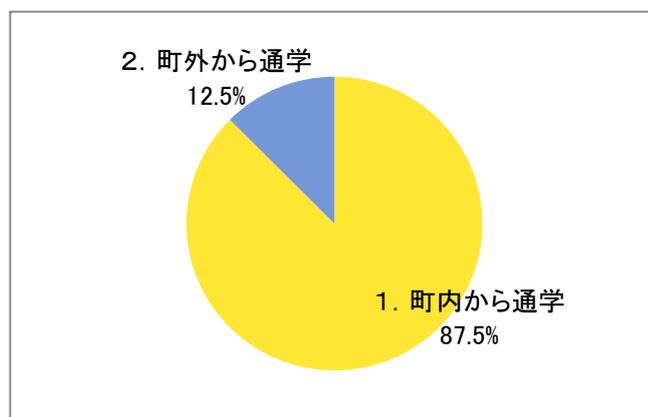


Q 6 北竜町内のご自宅から通学していますか。(それぞれ一つに○)

北竜町内からの通学の有無については、回答数 24 件の内「2. 町外からの通学」が3件となっているため、この3件を除いた数値により集計・分析を行います。

図表 北竜町内からの通学の有無

回答項目	回答者数
1. 町内から通学	21
2. 町外から通学	3
合計	24

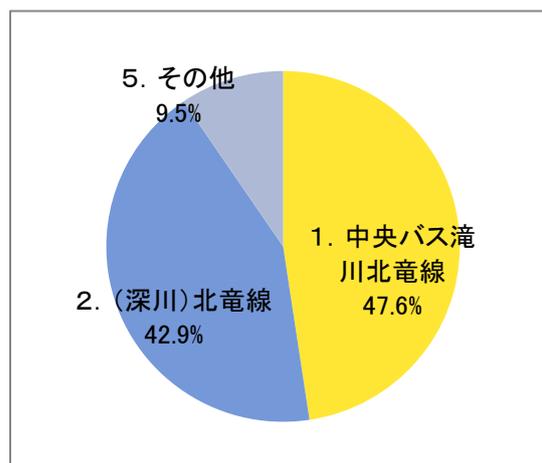


Q7 高校に通学するときの交通手段をお答えください。(選択肢から番号を一つ選んで記載)

通学の交通手段は「1. 中央バス滝川北竜線」が5割弱に対し、「2. 空知中央バス(深川)北竜線」が4割強となっています。なお「5. その他」としては、「JR妹背牛駅」までの送迎が1割(2件)となっています。

図表 高校に通学するときの交通手段

回答項目	回答者数
1. 中央バス滝川北竜線	10
2. 空知中央バス(深川)北竜線	9
3. 沿岸バス留萌旭川線	0
4. 家族の車で高校まで送迎	0
5. その他	2
合計	21



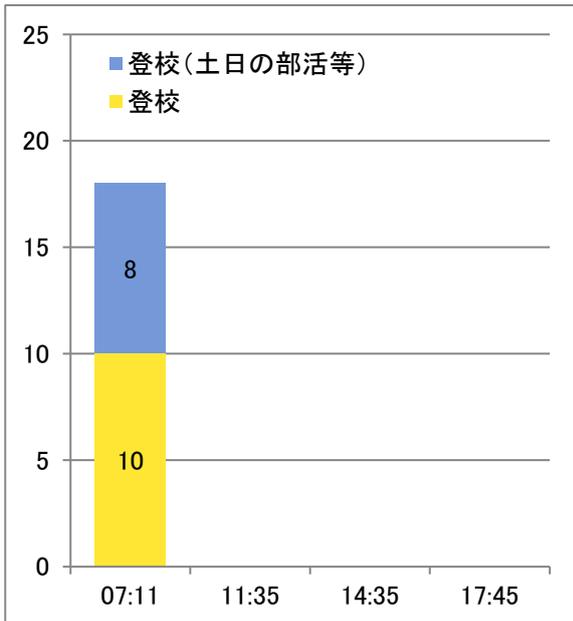
○その他の内容

・JR妹背牛駅まで送迎(2件)

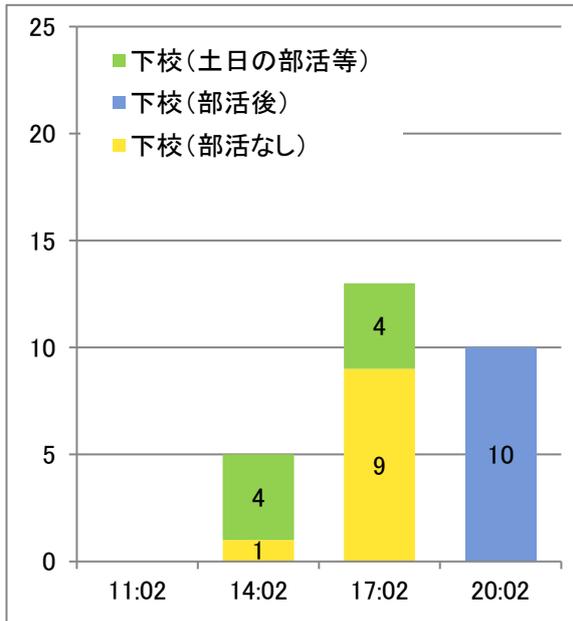
Q 8 利用している運行便をお答えください。登校、下校（部活なし・部活後）、土日の部活の登下校それぞれについてお答えください。（それぞれ選択肢から番号を一つ選んで記載）

滝川北竜線、（深川）北竜線とも土日の部活を含め登校便は、概ね7時台の便となっています。平日の下校（部活なし）は滝川北竜線が17時台、（深川）北竜線が16時台、部活後は両線とも20時前後となっています。下校（土日の部活等）は滝川北竜線が14時台と17時台、（深川）北竜線が13時台となっています。

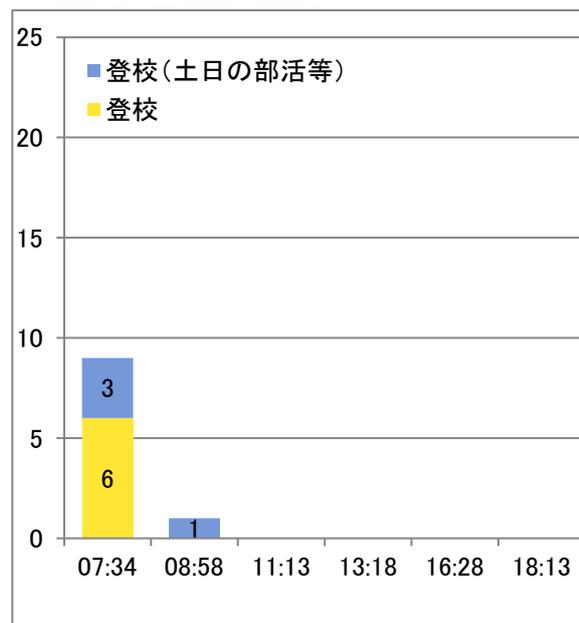
▼滝川北竜線／登校



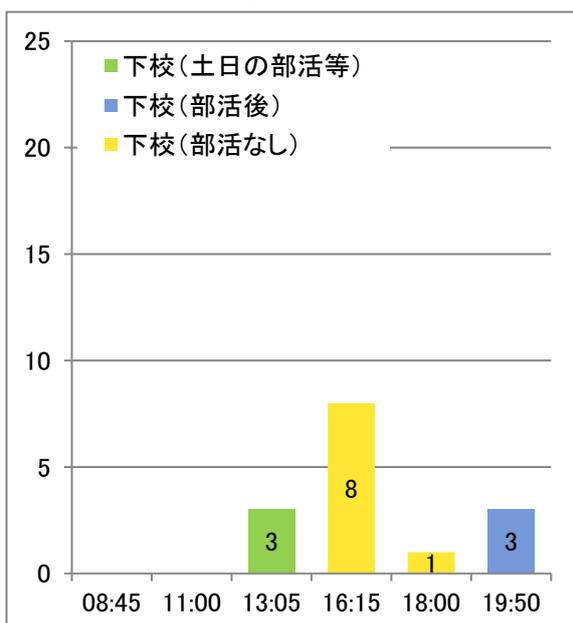
▼滝川北竜線／下校



▼（深川）北竜線／登校



▼（深川）北竜線／下校

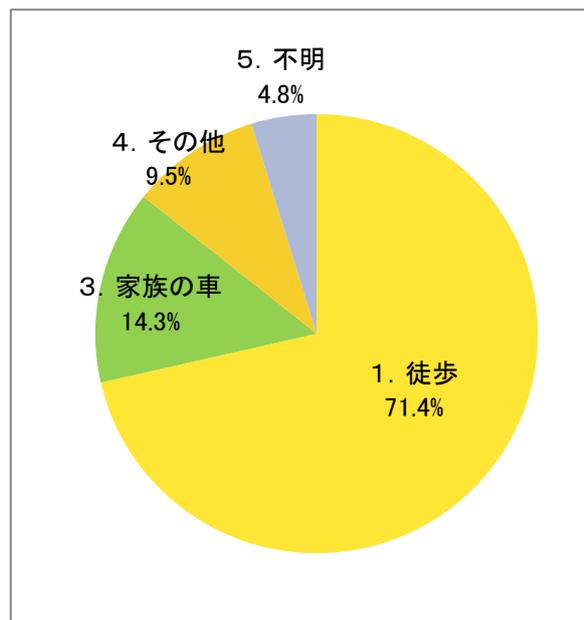


Q9 自宅と最寄りのバス停留所までの交通手段をお答えください。(選択肢から番号を一つ選んで記載)

自宅から最寄りのバス停留所までの交通手段は、「1. 徒歩」が7割強と「3. 家族の車」の1割強を大きく上回っています。

図表 最寄りのバス停留所までの交通手段

回答項目	回答者数
0. 家族の車で高校まで通学	0
1. 徒歩	15
2. 自転車	0
3. 家族の車	3
4. その他	2
5. 不明	1
合計	21

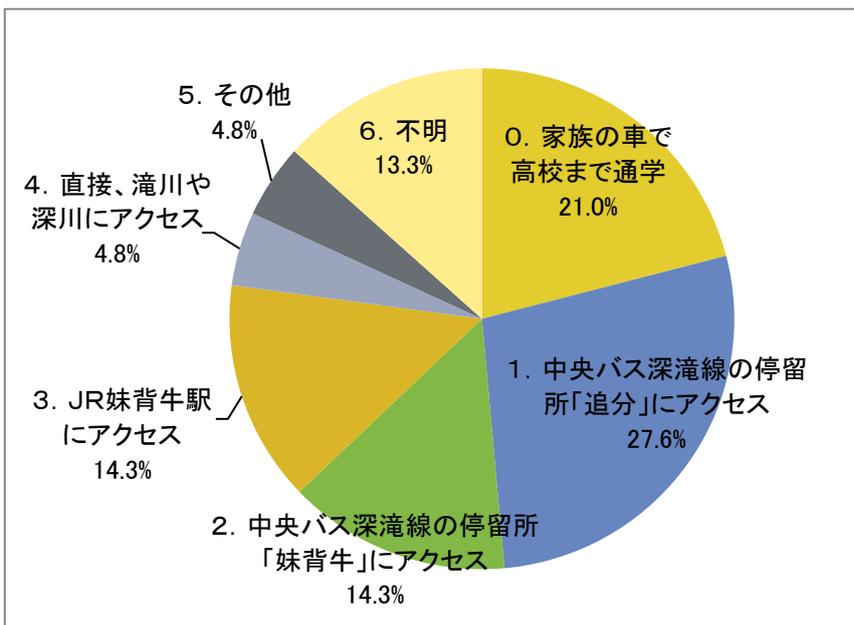


Q10 中央バス滝川北竜線と空知中央バス（深川）北竜線が長期間運休すると仮定した場合、どの交通手段を選択しますか。登校、下校（部活なし・部活後）、土日の部活の登下校それぞれについてお答えください。（それぞれ選択肢から番号を一つ選んで記載）

仮に滝川北竜線と（深川）北竜線が運休する場合の代替輸送手段は、「1. 中央バス深滝線の停留所「追分」にアクセス」が3割弱と最も多く、続いて「0. 家族の車で高校まで通学」が2割強、「2. 中央バス深滝線の停留所「妹背牛」にアクセス」と「3. JR妹背牛駅にアクセス」が1割強となっています。

図表 滝川北竜線と（深川）北竜線の代替輸送手段

回答項目	回答
0. 家族の車で高校まで通学	22
1. 中央バス深滝線の停留所「追分」までの輸送手段を確保して、深滝線で滝川や深川に行けるようにする	29
2. 中央バス深滝線の停留所「妹背牛」までの輸送手段を確保して、深滝線で滝川や深川に行けるようにする	15
3. JR妹背牛駅まで輸送手段を確保して、JR函館本線で滝川や深川に行けるようにする	15
4. 滝川北竜線と（深川）北竜線を維持するよりも町の負担が増加するが、直接、滝川や深川に行くことができる輸送手段を確保する	5
5. その他	5
6. 不明	14
合計	105



3-2. バス乗降調査

バス乗降調査は、北海道中央バス(株)による調査結果を使用し、次のとおり集計・分析を行った。

(1) 滝川北竜線

乗降調査期間及び調査日は、令和元年4月から令和2年3月（平日は4月）において、月に1日それぞれ平日、土曜、日曜の調査を行い、1日当り、あるいは便あたりの集計を行った。

①平日

- ・乗車人数0人の便が往復96便中22便（23%）
- ・追分市街まで最大乗車人数15人（滝川までは35人）
- ・雨竜町における国道275号以外の停留所にも乗降客が見られる

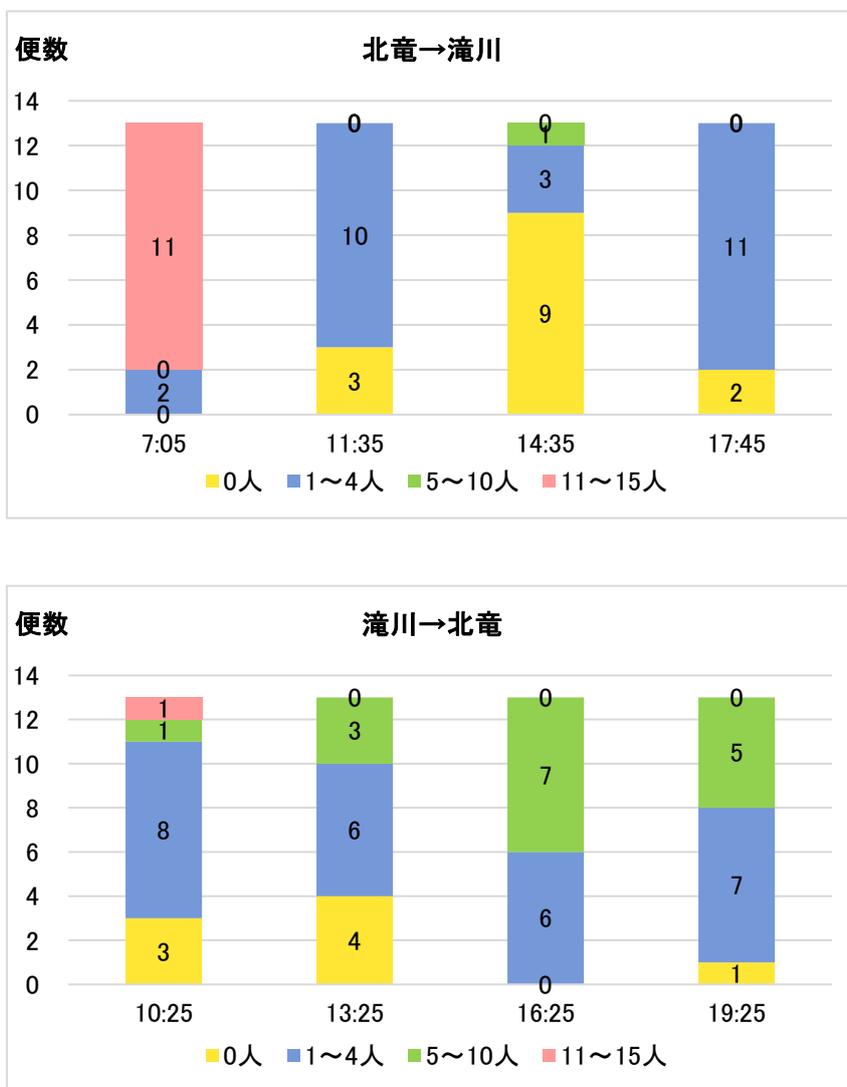


図 滝川北竜線の便別乗車人数ランク（平日）

2019.4~2020.4 までの月1日の調査結果
資料：北海道中央バス（株）



図 滝川北竜線乗降調査結果（金曜日）

2019.4~2020.4 までの月 1 日の調査結果
資料：北海道中央バス（株）

②土曜

- ・乗車人数0人の便が往復 96 便中 21 便（22%）
- ・追分市街まで最大乗車人数 15 人（滝川までは 15 人）
- ・雨竜町における国道 275 号以外の停留所にも乗降客が見られる

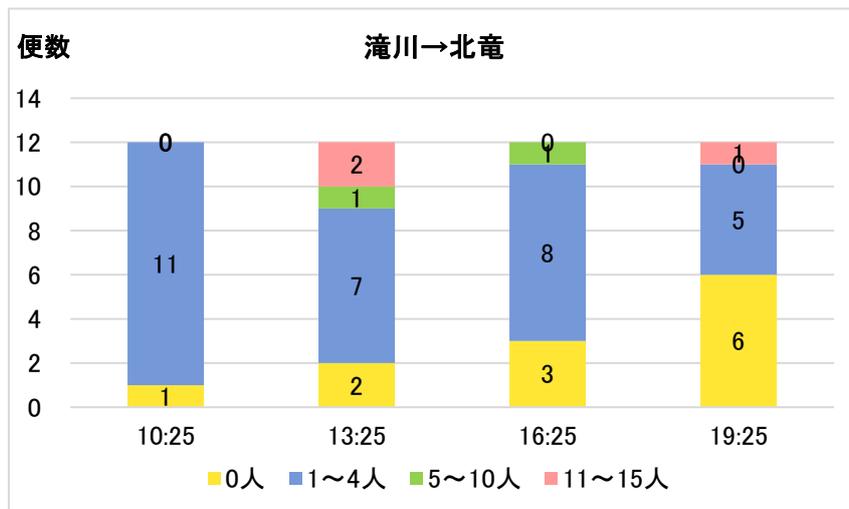
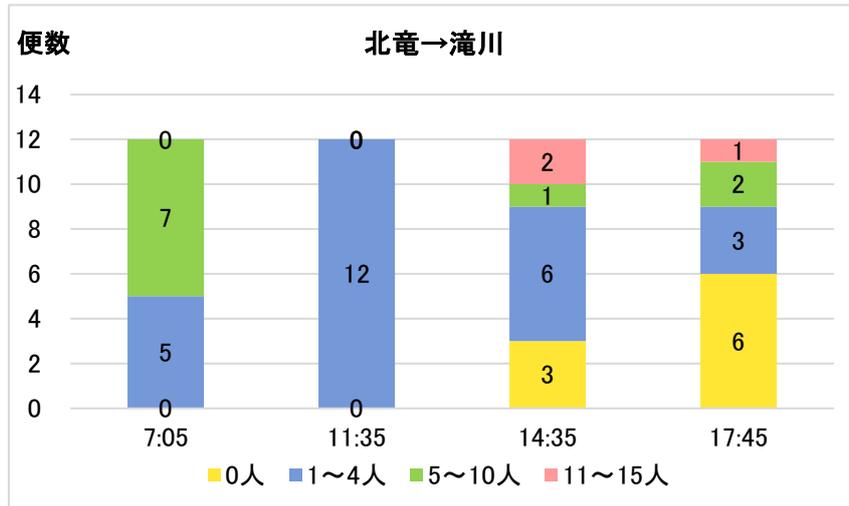


図 滝川北竜線の便別乗車人数ランク（土曜日）

2019.4~2020.4 までの月 1 日の調査結果
資料：北海道中央バス（株）



図 滝川北竜線乗降調査結果 (土曜日)

2019.4~2020.4 までの月 1 日の調査結果
 資料：北海道中央バス (株)

③日曜

- ・乗車人数0人の便が往復 96 便中 28 便（29%）
- ・追分市街まで最大乗車人数 12 人（滝川までは 14 人）
- ・雨竜町における国道 275 号以外の停留所にも乗降客が見られる

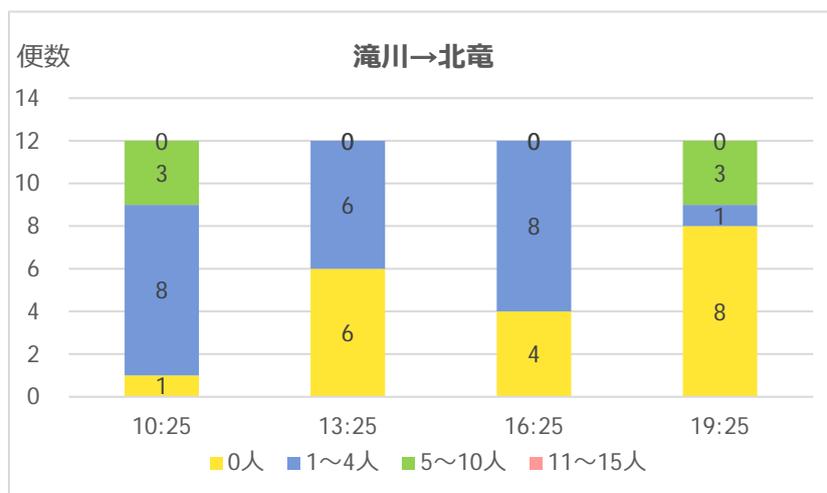
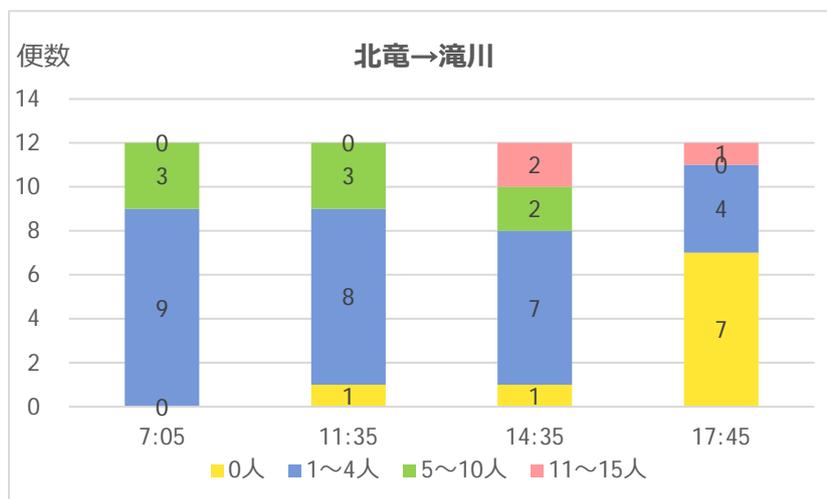


図 滝川北竜線の便別乗車人数ランク（日曜日）

2019.4~2020.4 までの月 1 日の調査結果
資料：北海道中央バス（株）



図 滝川北竜線乗降調査結果（日曜日）

2019.4~2020.4 までの月 1 日の調査結果
資料：北海道中央バス（株）

(2) (深川) 北竜線

乗降調査期間は、令和2年9月16日(水)から9月20日(日)までの5日間で、平日及び土曜日・日曜日における1日当たり、あるいは便あたりの集計を行った。

①平日

- ・乗車人数0人の便が往復32便中15便(47%)
- ・妹背牛まで最大乗車人数13人(深川までは23人)

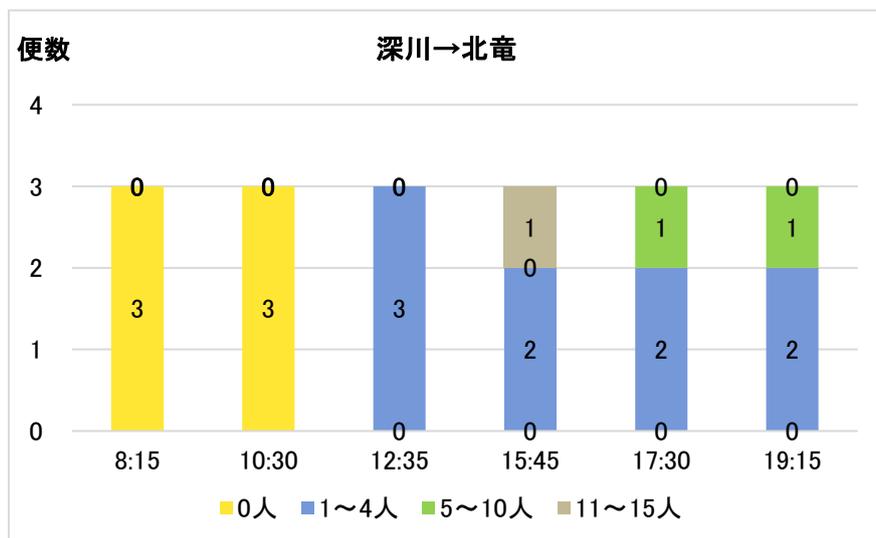
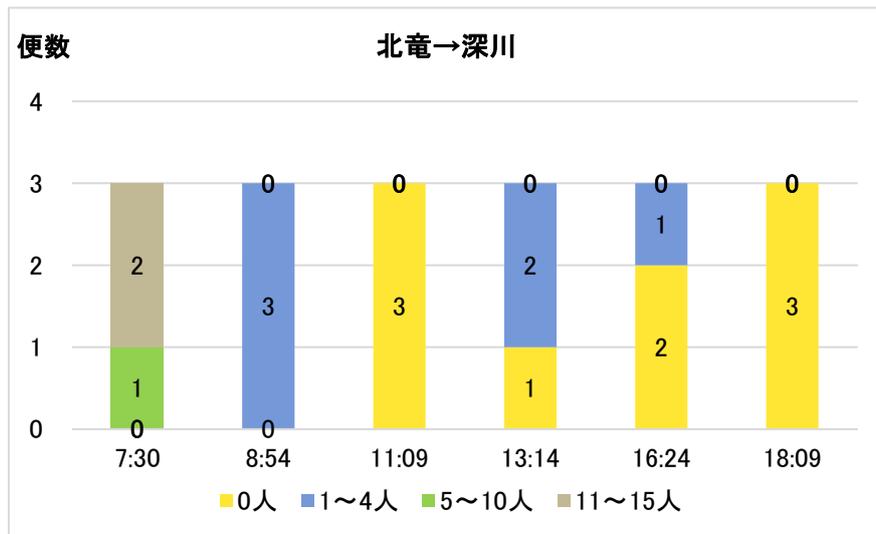


図 (深川) 北竜線の便別乗車人数ランク (平日)

2020.9.16~2020.9.18 の3日間の調査結果

資料：北海道中央バス(株)

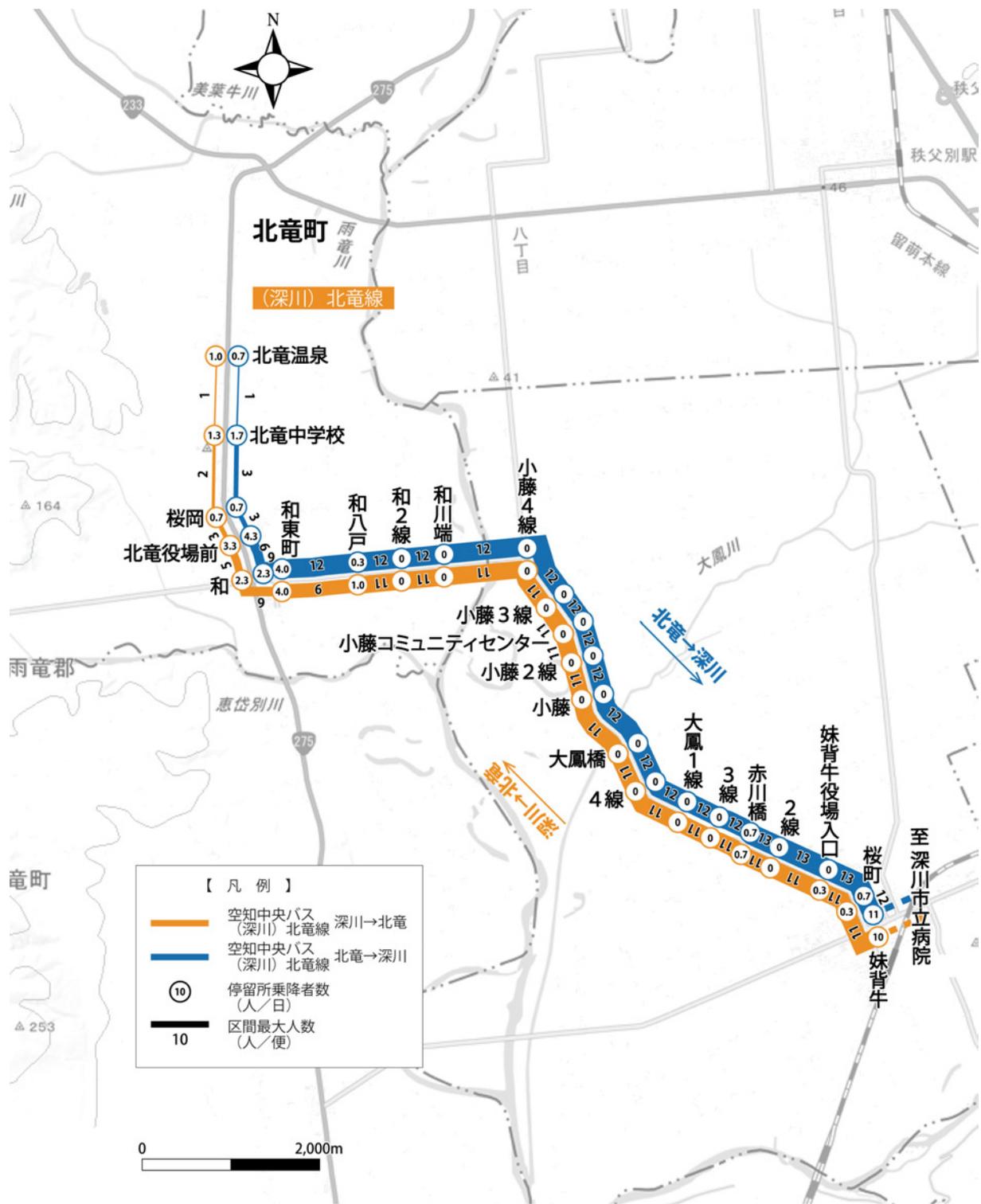


図 (深川) 北竜線乗降調査結果 (平日)

2020.9.16~2020.9.18 の3日間の調査結果
資料：北海道中央バス (株)

②土曜・日曜

- ・乗車人数0人の便が往復 20 便中 8 便（40%）
- ・妹背牛まで最大乗車人数3人（深川までは7人）
- ・乗車人数が少ない（ジャンボタクシー程度で輸送可能）

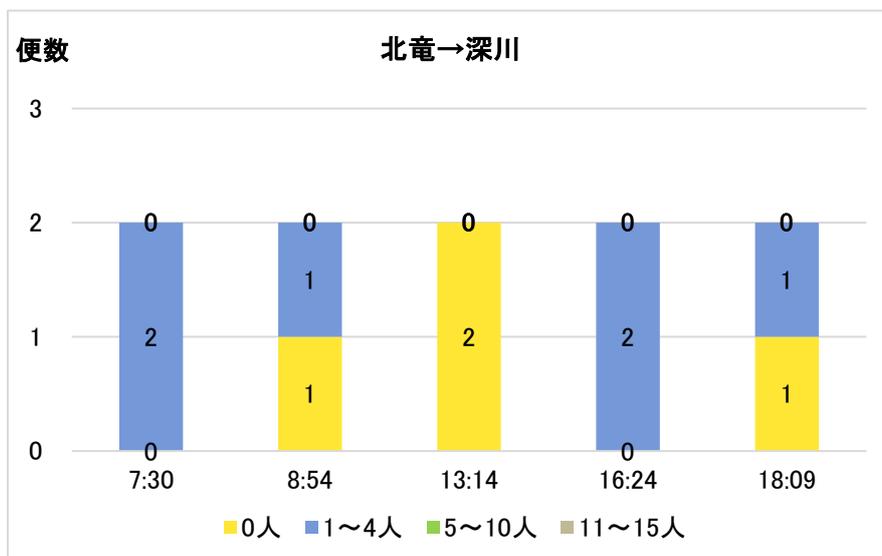
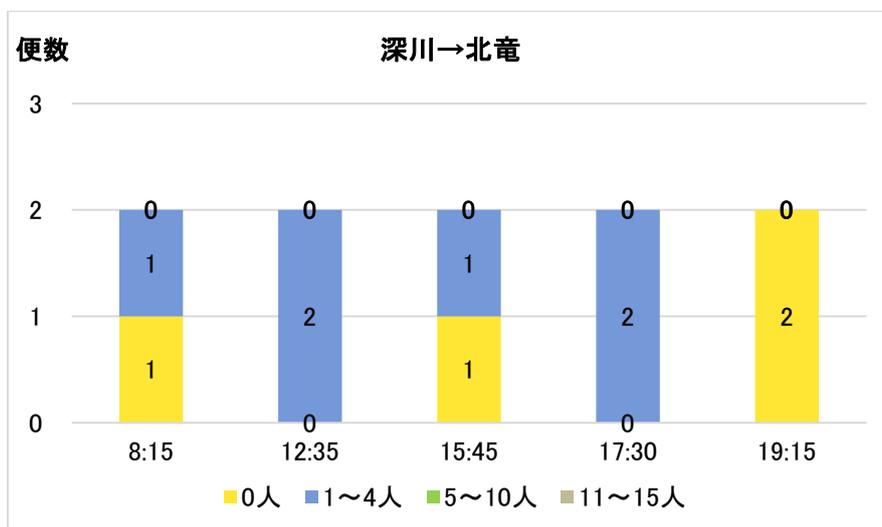


図 （深川）北竜線の便別乗車人数ランク（土曜日・日曜日）

2020.9.19~2020.9.20 の2日間の調査結果

資料：北海道中央バス（株）

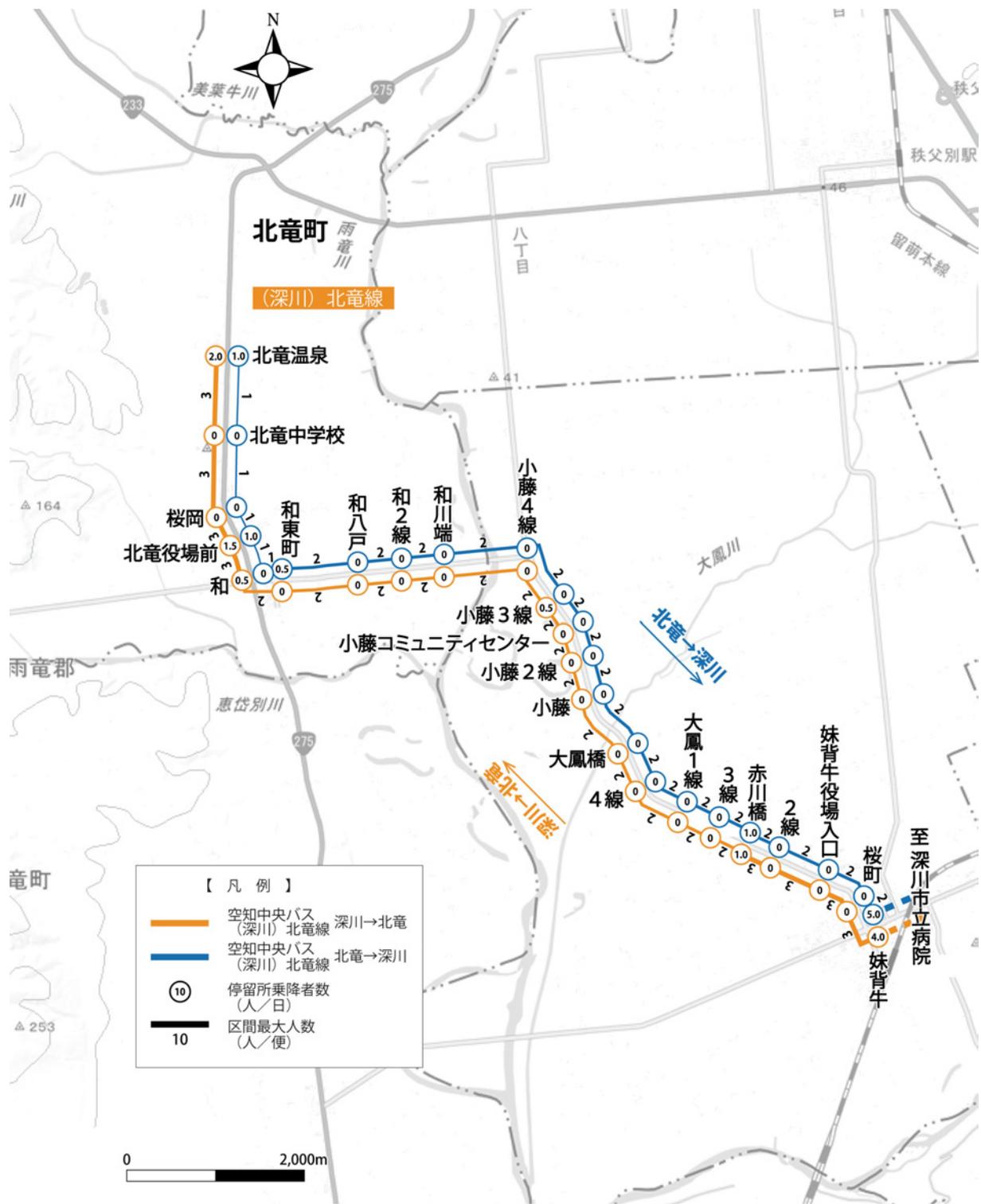


図 (深川) 北竜線乗降調査結果 (土曜日・平日)

2020.9.19~2020.9.20 の2日間の調査結果
資料：北海道中央バス (株)

3-3. 関係町ヒアリング結果

電話連絡により滝川北竜線沿線の雨竜町と新十津川町へ代替交通手段に関するヒアリングを行った。

結果は、各町内で公共交通確保を検討しているため、滝川北竜線全路線の代替路線を北竜町が確保する場合、維持費用が大きく増大することが考えられる。

町名	意向（令和2年10月23日現在のヒアリング結果）
雨竜町	・スクールバスへの一般混乗や、タクシーチケットの配布といった雨竜町内で完結する輸送手段により、対応することを検討中
新十津川町	・スクールバスへの一般混乗や、デマンド交通といった新十津川町内で完結する輸送手段により、対応することを検討中。

※滝川市については、滝川北竜線と併行する滝新線等が運行するため、滝川北竜線の廃止（予定）による影響は少ないと考えられる。

第4章 地域公共交通の課題整理

4-1. 主要な課題の整理

「第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要」と「第3章 地域公共交通実態調査」から、主要な課題を以下のとおり整理する。

(1) 中央バス滝川北竜線の代替公共交通の確保

住民アンケート調査結果からは「北竜町と滝川市の間の直接アクセス」が求められているものの、一般の方の利用頻度は低い状況となっている。一方、利用頻度が高い高校生からは「北竜町と雨竜町の追分市街との間のアクセス」が多い。

このため、直接滝川市にアクセスする場合と雨竜町追分市街地にて深滝線と乗継ぐ形態について、以下のとおり検討して課題を整理する。

①北竜町と滝川市の間を直接アクセスする場合

滝川北竜線の沿線町では、それぞれ滝川北竜線の代替交通を検討しているため、北竜町が単独で滝川市に直接アクセスする場合、大幅なコスト増加^{*}が懸念される。また、滝川までの輸送の場合、35人以上の大きな車両と新たな運転手の確保が必要となる。

※900万円/年→1,950万円/年：公共交通の収支状況より算定

②北竜町と雨竜町の追分市街との間をアクセスする場合

雨竜町の追分市街地までアクセス交通を確保する場合、滝川市とのアクセスよりも運行距離が大幅に短縮されるため、運行費用の縮減が期待できる。また運行車両については、小型の車両（15人程度）、あるいはジャンボタクシー2台と、新たな運転手の確保が必要となる。

(2) スクールバス路線の統合

スクールバスは美葉牛線、竜西線及び碧水線の3路線を運行しているが、スクールバスの車両に対し、輸送する児童生徒数が定員の20から40%程度と低く、バス路線の統合の検討が必要である。なお、路線の統合が可能な場合、新たな公共交通を運行するための運転手を確保することも可能となる。

(3) 乗合タクシーの収益性改善が必要

乗合タクシーは美葉牛碧水方面と竜西和方面の2エリアで1日5、6便（平日）を運行しているが、スクールバスの一般利用よりも少なく、収益率が8%となっている。

このため、乗合タクシーの賃上げや、スクールバス一般利用者と乗合タクシー利用者の集約を検討して持続可能な運行内容へと見直しする必要がある。

(4) 将来的な空知中央バス（深川）北竜線の検討

（深川）北竜線は、輸送人数の減少により市町村単独補助路線になるとしており、運行を維持するためには、地域公共交通とのネットワーク形成と、沿線市町との協力が必要となる。存続が困難となった場合、代替交通手段として以下の検討が必要となる。

- ・北竜町と雨竜町の追分市街との間のアクセス交通の活用
- ・沿岸バス留萌旭川線の活用（登下校時に深川西高校へのアクセスが必要）
- ・北竜町と妹背牛町の妹背牛（停留所）との間のアクセス交通の検討 など

4-2. 計画策定の方向性

(1) 中央バス滝川北竜線の代替公共交通の確保

住民アンケートにおける利便性、妥当な運行コストにおける持続性の確保、車両の適正配置といった観点から、現在の滝川北竜線と同等以上の利便性を考えた、北竜町と雨竜町の追分市街との間のアクセス交通を検討していくことが妥当と考える。

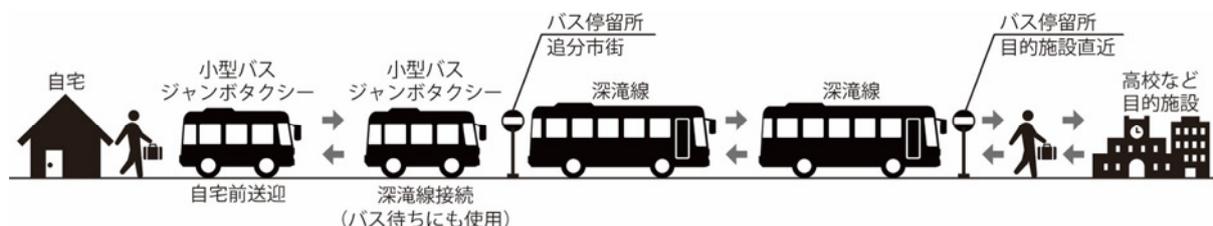


図 滝川北竜線と同等以上の利便性を考えたアクセス交通のイメージ

(2) スクールバス路線の統合

仮にスクールバス路線の統合が可能な場合、以下の路線設定が考えられる。

- ・ 現 在 (3 路線) : 美葉牛線、碧水線、竜西線
- ・ 統合の例 (2 路線) : 美葉牛・碧水線、竜西・和線

なお路線統合により、新たな公共交通の運行を担うことができる運転手の確保が可能となる。

(3) 乗合タクシーの収益性改善が必要

乗合タクシーなど自宅前送迎を行うデマンド交通の維持にあたっては、以下の検討による集積の向上等が必要である。

- ・ 乗合タクシー運賃の値上げ (例えば 200 円→300 円)
- ・ スクールバス一般混乗の廃止検討 → 乗合タクシーへの一般利用の集約化

(4) 将来的な空知中央バス (深川) 北竜線の検討

(深川) 北竜線については、今後の動向に対応した検討が必要である。

第5章 地域公共交通計画計画の策定

5-1. 計画の基本的な方針

公共交通の現況やアンケート調査、乗降調査などの実態調査による課題及び公共交通の方向性と、総合計画など上位・関連計画から、地域公共交通計画のコンセプトや基本目標等を以下のとおり定める。

なお、北竜町地域公共交通は、空知中央バス深滝線、(深川)北竜線及び沿岸バス留萌旭川線を地域間幹線として広域公共交通とのネットワークを形成するものとする。

(1) コンセプト

近隣市町と連携を図りながら

交通弱者にやさしい北竜町地域公共交通の維持確保を図る

(2) 基本目標

コンセプトを具現化するために以下の3つを基本方針として設定する。

- 目標1：行政区域を跨いだ広域的な視点に立った公共交通ネットワークの構築を目指す。
- 目標2：自宅前送迎等により交通弱者にもやさしい地域公共交通の実現を目指す。
- 目標3：町ぐるみで地域の生活交通を守り育てていくことにより、持続可能な地域公共交通の実現を目指す。

(3) 計画の区域

本計画の区域は北竜町行政区域とする。

(4) 計画の期間

本計画の期間は、2021年度(令和3年度)から2025年度(令和7年度)までの5年間とする。

5-2. 計画に位置づける取組み及び実施主体

(1) 北竜町運営自家用有償運行【新規】

①運行概要

- ・令和4年3月で廃止が予定されている中央バス滝川北竜線の代替路線として、碧水から雨竜町追分市街までを結ぶアクセス交通の内、乗車人数から乗合タクシーでは輸送できない場合は「北竜町運営自家用有償運行」、輸送できる場合は「乗合タクシー」として運行する。
- ・ここでは「北竜町運営自家用有償運行」について記載し、「乗合タクシー」は後述とする。
- ・北竜町運営自家用有償運行は、最終的には全便において自宅前送迎を目指す。運転手確保の課題があるため当初段階では、高校生の登下校に利用されている便（滝川北竜線 2020年冬時刻便）を路線運行とし、他を自宅前送迎とする。

表 アクセス交通の種類（令和4年4月～）

ケース	交通事業者	輸送方法
・現滝川北竜線の運行時間帯 （高校生の登下校に利用）	北竜町運営有償運送	路線運行
・他の時間帯で、利用人数が乗合タクシーの定員 （4人）を上回る場合		自宅前送迎 （デマンド運行）
・他の時間帯で、利用人数が乗合タクシーの定員 （4人）に収まる場合	乗合タクシー	

表 アクセス交通の種類（目標：令和6年10月～）

ケース	交通事業者	輸送方法
・現滝川北竜線の運行時間帯 （高校生の登下校に利用）	北竜町運営有償運送	自宅前送迎 （デマンド運行）
・他の時間帯で、利用人数が乗合タクシーの定員 （4人）を上回る場合		
・他の時間帯で、利用人数が乗合タクシーの定員 （4人）に収まる場合	乗合タクシー	

- ・路線運行の内容は、現在の中央バス滝川北竜線の内、碧水から雨竜町追分市街までの区間を引き継ぐものとするが、将来的には自宅前送迎に移行する。
- ・自宅前送迎の内容は現在の乗合タクシーと同様の内容とするが、深滝線との乗継ぎのために「追分市街」を連絡施設として加える。
- ・路線運行、自宅前送迎とも雨竜町民の乗車を可能とし、雨竜町民の自宅前送迎は利用登録及び事前予約により、現在のバス停留所位置で乗降できるものとして運行する。



図 追加する連絡施設「追分市街（北竜方面）」

公衆トイレ付きの施設が整備済み

※「追分市街（滝川方面）」は雨竜町により
令和3年に整備予定



図 雨竜町内のバス停留所
(概ね待合施設が整備されている)



図 アクセス交通（路線運行）運行路線図

②運賃

- 乗車料金については、乗合タクシーの収益率が低く、かつ平成 27 年度の乗合タクシー利用登録者アンケートでは、賃上げした場合でも「利用回数は変わらない」との回答が多いため、現行料金の改定を行う。
- 追分市街までは、1 乗車当たり料金に加えて通学定期料金を設定する。料金は中央バス運賃を参考とするが、関係者等の意見を踏まえ最終的に決定していくものとする。

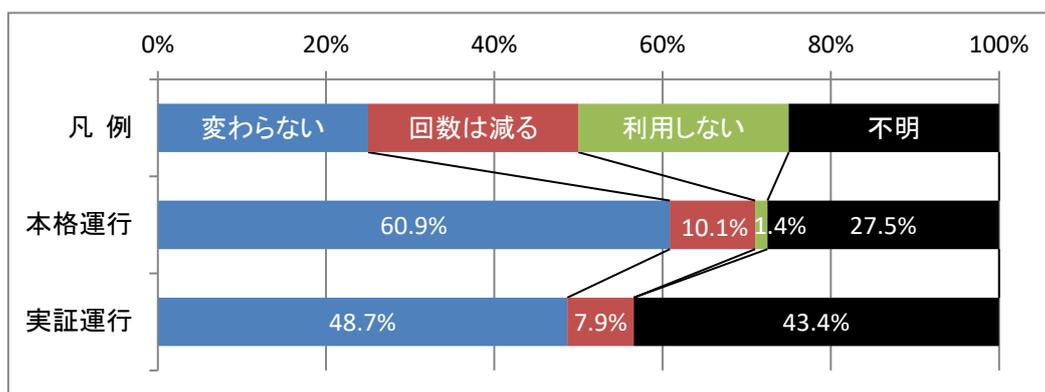


図 乗合タクシー料金を 200 円から 300 円にした場合の利用回数

出典：平成 27 年度利用登録者へのアンケート調査（実証運行は H26 に実施したもの）

表 北竜町運営有償運送の料金（町内のみの利用）

項目	現行	改定案	備考
路線運行（1 乗車）	100 円※	150 円	※スクールバス乗車料金
自宅前送迎（1 乗車）	200 円※	300 円	※乗合タクシー乗車料金

表 北竜町運営有償運送料金の目安（北竜町⇄雨竜町）

項目	現行	想定
○ 1 乗車当たり 路線運行 自宅前送迎	390 円	<ul style="list-style-type: none"> 北竜町と雨竜町間は、路線運行料金を考慮して、北竜町内自宅前送迎よりも高い 400 円とすることが考えられる 雨竜町内は北竜町内と同額の 300 円が考えられる
○ 1 カ月通学定期 路線運行 自宅前送迎	滝川北竜線（北竜役場前⇄滝川駅前） 22,680 円 深滝線（追分市街⇄滝川駅前） 18,000 円 差し引き（北竜役場前⇄追分市街） 4,680 円	<ul style="list-style-type: none"> 差し引き額から 4,500 円程度が考えられる。

※障がいをお持ちの方、介護認定を受けている方等については、別途減免措置を検討

③財政的な支援

- ・運行費用から料金収入を差し引いた赤字額については、国（フィーダー系統補助、特別交付税）、北竜町及び雨竜町による財政的な支援を検討する。
- ・雨竜町の負担については、例えば雨竜町内の町道を運行することによる走行距離の増加に伴う費用等を考慮して設定することが考えられる。

④運行車両

- ・運行車両はフィーダー系統補助により、登下校時の高校生の送迎が可能なマイクロバス（20～30人乗り）を確保する。また予備車は、サンフラワーパークホテルの送迎に使用している車両を想定する。



図 新たに確保する車両イメージ（トヨタコースター）



図 予備車（サンフラワーパークホテル送迎車両：北竜町所有）

④事業者

- ・事業者は北竜町とするが、町内交通事業者等の協力を得ながら運行するものとする。

表 町内交通事業者等

和ハイヤー(有)*、(株)北竜町振興公社、NPO法人ひまわり等

※北竜町運営有償運送は乗合タクシーと調整を行いながら運行していく必要があるため、和ハイヤー(有)を中心に運行体制を構築する必要がある。

(2) 乗合タクシー運行【継続】

①概要

- ・ここではアクセス交通の自宅前送迎の内、「乗合タクシー」について記載するものとするが、予約人数によって「乗合タクシー（セダン型車両）」と「北竜町運営自家用有償運行（マイクロバス）」のいずれかを選択するなど、「北竜町運営自家用有償運行」と調整を図りながら運行するものとする。
- ・乗合タクシーは現行と同じ運行方法とし、利用登録者宅と連絡施設間を直接輸送するものとする。

表 連絡施設リスト（北竜町運営有償運送（自宅前送迎）・乗合タクシー）

○全 20 箇所				
01)福祉センター	02)町立診療所	03)老人憩いの家	04)ココア	05)町立歯科診療所
06)公民館	07)役場	08)サンフラワーパーク北竜温泉		
09) J Aきたそらち北竜支所		10)セイコーマートへきすい店		
11) B & G 海洋センター（プール）		12)北竜ひまわり整骨院		
13)ひまわりパークゴルフ場		14)碧水支え合いセンター		
15)禅林寺	16)弘徳寺	17)竜泉寺	18)法光寺	19)清雲寺
20)追分市街（新規）				

- ・乗合タクシーと北竜町運営有償運送と合わせた運行時間帯については、中央バス深滝線との乗継ぎを考えた最大限の便数を設定するが、運行後に利用状況に応じて運行便数の再検討を行う。

表 アクセス交通の運行時間帯のイメージ（北竜町運営有償運送・乗合タクシー）

行き							帰り						
往路 便名	アクセス交通			乗継ぎ	深滝線		深滝線	乗継ぎ	アクセス交通			復路 便名	
	碧水市街	北竜役場前	追分市街		追分市街	滝川駅前			追分市街	北竜役場前	碧水市街		
①	7:05	7:11	7:21	→	7:24	8:05	6:30	7:03					
②	7:40 ~ 8:10			→	8:14	8:55	7:15	7:48					
					9:24	10:05	7:30	8:03	→	8:10 ~ 8:40		①	
③	9:30 ~ 10:00			→	10:09	10:50	8:40	9:13					
					11:09	11:50	10:00	10:33		10:40 ~ 11:00		②	
④	11:30 ~ 12:00			→	12:09	12:50	11:00	11:33					
					14:09	14:50	12:00	12:33	→	12:40 ~ 13:10		③	
⑤	14:30 ~ 15:00			→	15:09	15:50	13:00	13:33					
					16:24	17:05	14:45	15:18	→	15:20 ~ 15:50		④	
⑥	16:30 ~ 17:00			→	17:24	18:05	15:45	16:18					
					18:24	19:05	16:30	17:03	→	17:05	17:15	17:24	⑤
⑦	19:00 ~ 19:30			→	19:34	20:15	17:40	18:13					
							19:20	19:53	→	19:55	20:05	20:14	⑥

10:00 日曜運休

路線運行（北竜町運営有償運送）（記載の停留所は主要なもの）

デマンド運行（北竜町運営有償運送、乗合タクシー）

※北竜町運営有償運送：マイクロバス

※乗合タクシー：和ハイヤー(有)車両

②運賃

- ・前述の北竜町運営有償運送の内、自宅前送迎と同額とする。

③財政的支援

- ・北竜町運営有償運送と同様に、国（フィーダー系統補助、特別交付税）、北竜町及び雨竜町による財政的な支援を検討する。

④運行車両

- ・現行と同様に和ハイヤーが保有する車両を用いてハイヤー事業と併用するものとする。

⑤事業者

- ・運行事業者は和ハイヤー(有)とする。

⑥自宅前送迎の事前予約の受付

- ・乗合タクシーの事業者は、北竜町運営有償運送の自宅前送迎と乗合タクシーの事前乗車の予約受けを合わせて行い、予約人数から輸送車両の選択を行うとともに、後述のデマンド交通支援プログラムにより輸送計画を立案するものとする。

(3) 連絡施設間運行便【継続】

①概要

- ・連絡施設間の輸送（連絡施設間運行便）については、現行の運行を継続する。
- ・対象とする連絡施設は、アクセス交通との重複を避けるために北竜町内の施設のみとする。
- ・運行便数及び時間帯については、アクセス交通の運行時間帯を考慮して、以下のとおり再設定するが、今後の利用状況に応じて再検討を行う。

表 連絡施設間運行便の運行時間帯のイメージ

便名	運行時間帯	備考
①	9:00 ~ 9:30	日曜運休
②	11:00 ~ 11:30	
③	13:10 ~ 13:40	
④	14:00 ~ 14:30	
⑤	16:00 ~ 16:30	

②事業者

- ・運行事業者は和ハイヤー(有)とする。

(4) スクールバス一般利用（北竜町運営自家用有償運行）【廃止検討】

①概要

- ・スクールバスへの一般利用は平成 27 年度から有償により行ってきたが、アクセス交通の運転手を確保することを目的に、スクールバスの合理化を図るため、路線数の変更を検討するとともに、児童生徒の輸送に必要な時間が長くなるため、一般利用の取りやめを検討する。
- ・乗合タクシーの輸送人数は平成 30 年度をピークに減少しているため、一般利用の取りやめはアクセス交通運行開始と同時期に行うが、スクールバス路線の 2 路線化は児童生徒保護者への説明に要する期間等を考慮して実施時期を設定する。
- ・スクールバス一般利用を取りやめることを受け、一般利用はアクセス交通（北竜町運営有償運送と乗合タクシー）に集約化することとなる。このことによりアクセス交通の輸送人数の確保を図り、事業の収益率を高めるものとする。

表 スクールバス 2 路線化と一般利用の取りやめ時期（目標）

スクールバスの一般利用の取りやめ時期：令和 4 年 3 月末
スクールバス路線の 2 路線化：令和 6 年 10 月～（案）

②事業者

- ・事業者は北竜町とするが、町内交通事業者等の協力を得ながら運行するものとする。

表 町内交通事業者等

(株)ひまわり観光、NPO 法人ひまわり等

(5) 空知中央バス(株) (深川) 北竜線【継続】

①概要

- ・空知中央バス(深川)北竜線は、輸送人数の減少により市町村単独補助路線となる見込みであるが、沿線市町での負担について協議を行い、単独補助路線化以降も運行を維持する方向で調整を進めるものとする。
- ・交通事業者の意向等によって存続が危ぶまれる場合は本公共交通計画を見直し、アクセス交通を改めて検討する必要があるが、その場合以下の案について検討することが考えられる。
 - 1) 本計画で位置づけるアクセス交通(追分市街での乗継ぎ)により、滝川市や深川市への生活動線を確保する
 - 2) 本計画で位置づけるアクセス交通を見直し、別途JR駅を有する妹背牛駅を結ぶアクセス交通を新たに位置づけることにより、滝川市や深川市への生活動線を確保する
 - 3) 1)と2)を併せて確保する
 - 4) 1)により滝川市、沿岸バス(株)留萌旭川線により深川市への生活動線を確保する
この場合、留萌旭川線については深川西高校へのアクセスについて協議することが必要である

②事業者

- ・空知中央バス(株)とする。

③財政的支援

- ・市町村単独補助路線化以降は、深川市、妹背牛町及び北竜町により協議を行う。

(6) モビリティ・マネジメント

令和2年10月1日現在、乗合タクシーの利用登録者数は191人となっているが、登録のみで利用されていない方が多数存在する。登録のみの方は自家用車を利用されているため、こういった方々へモビリティ・マネジメントを推進し、アクセス交通をはじめとした公共交通の利用を促進する必要がある。

モビリティ・マネジメントにつながる施策等を以下のとおり位置づける。

①高齢者運転免許証自主返納サポート事業【継続】

- ・近年の高齢ドライバー等の交通事故をできるだけ抑えていくために、自家用車から公共交通への転換として、タクシーチケットを支給する「高齢者運転免許証自主返納サポート事業」を推進する。

ご存知ですか？
『高齢者運転免許証自主返納サポート事業』

今年4月から65歳以上の町民が運転免許証を自主返納した場合に3年間有効の50,000円分(500円券×100枚)のタクシーチケットを支給するサポート事業を開始しました。

- 対象者 65歳以上の町民
- 申請書類 「運転経歴証明書」と「運転経歴証明書交付手数料の領収書」と「印鑑」
- 申請先・問い合わせ先 役場住民課町民生活係 TEL34-2111

申請を希望される方は住民課町民生活係にお越しください。

図 「高齢者運転免許証自主返納サポート事業」の周知 出典：2015 広報10月号

②新規利用登録者の募集【継続】

- ・中央バス滝川北竜線の廃止（予定）と併せ、代替交通としてのアクセス交通の利用について、北竜町の広報誌や地域住民への懇談会を通じて呼びかけ、新規登録者を確保する。

10月1日から
運行内容が変更します

北竜町地域公共交通会議では乗り合いタクシーとスクールバスについて、5月に利用者に対してアンケート調査を実施しました。皆さまのご意見と利用状況を踏まえ次のとおり運行内容を変更します。

- スクールバス竜西線の減便・竜西方面の乗り合いタクシーの増便
 - ・利用者の減少に伴い第2便（9時台）を減便とします。
 - ・スクールバス減便に伴い、竜西方面の9時台に乗り合いタクシーを運行します。
- 連絡施設の一部廃止（全便共通）
 - ・利用状況により連絡施設から「碧水生きがいセンター」と「町営スキー場」の2カ所を廃止します。

連絡施設
①老人福祉センター ②町立診療所 ③老人憩の家 ④Aコープ北竜店 ⑤町立歯科診療所 ⑥公民館
⑦役場 ⑧サンフラワーパーク北竜温泉 ⑨J Aきたそらち北竜支所 ⑩セイコーマートへきすい店
⑪B & G海洋センター(プール) ⑫北竜ひまわり整骨院

乗り合いタクシーを使ってみたいけど、利用の仕方がわからない方へ

- ①事前に役場に登録をお願いします。企画振興課企画係に電話（TEL34-2111）してください。利用するかどうか未定でも、まずは登録をオススメします。
- ②利用したい日と便が決まったら、和ハイヤーに電話（TEL34-2659）して、「乗合タクシーの予約」とお伝えしてください。
「利用日」と「利用便名」と「連絡施設」、「行き」か「帰り」のいずれかをお伝えしてください。また、「介助者」がいる場合はその事もお伝えください。
- ③運賃の支払い方法は、現金または回数券でお支払いください。

広報10月号と一緒に利用案内のチラシが入っています。
わからない所がありましたらお気軽にお問い合わせください。 ■企画振興課企画係 TEL34-2111
■和ハイヤー TEL34-2659

図 乗合タクシー運行内容の変更及び利用登録の呼びかけ 出典：2015 広報10月号

③利用案内パンフレットの作成【継続】

- ・アクセス交通の運行に合わせ利用案内パンフを作成し、既存の利用登録者へ配付する。

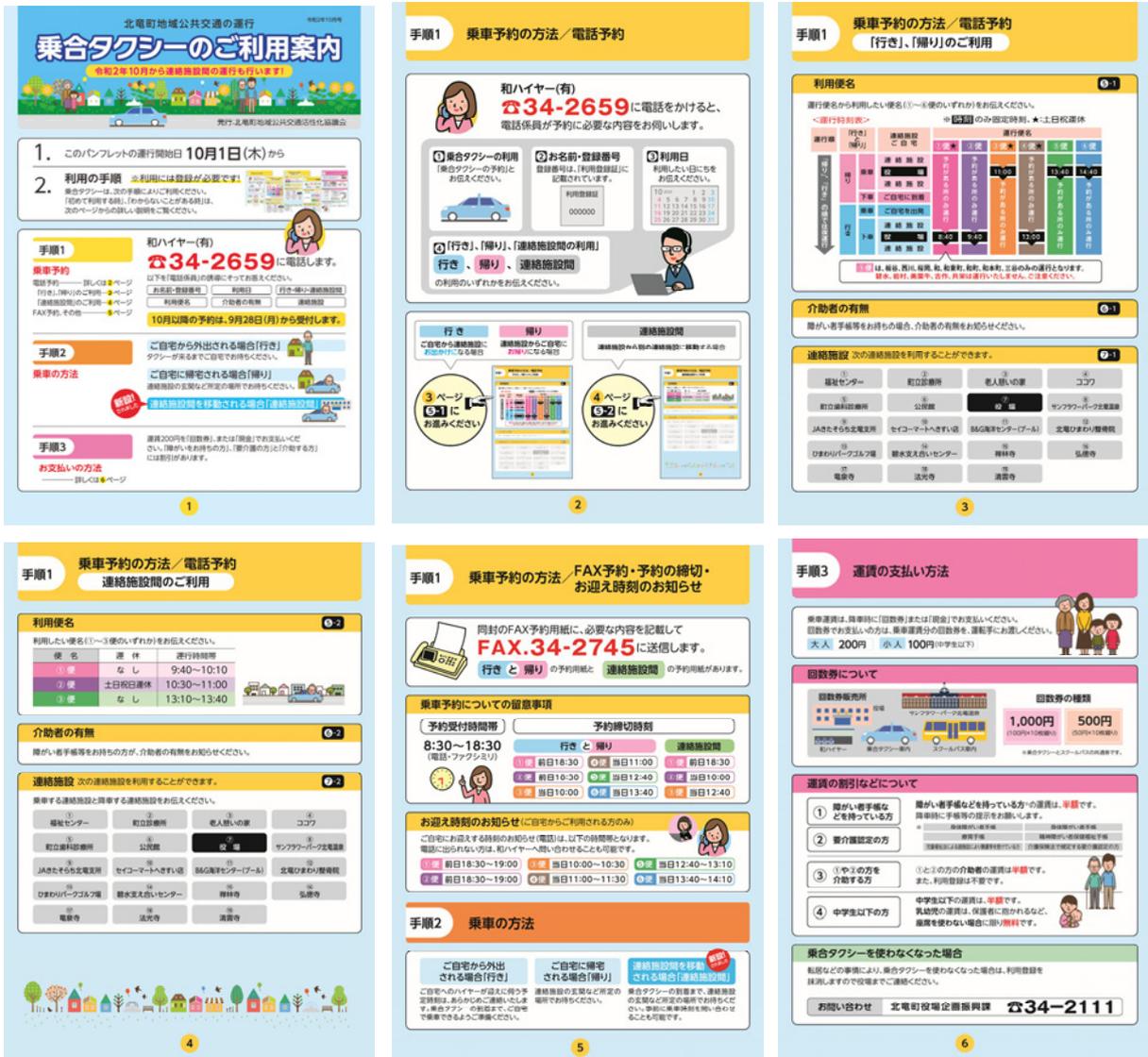


図 乗合タクシー利用案内パンフレット (2020年10月号)

④愛称の募集・設定【新規】

- ・新たに運行するアクセス交通 (マイクロバスと乗合タクシー) について町民から愛称を募集し、町民に親しまれる公共交通となることを目指す。

⑤利用者への意向調査の実施【継続】

- ・利用登録者の意向を把握し、運行内容を改善していくために、定期的にアンケート調査などの意向調査を実施する。現在まで実施した意向調査は次のとおりである。

表 アンケートなど意向調査の経過

<p>①住民アンケート調査（平成 25 年度）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 849 世帯配布、316 世帯回収の回収率 37.2%、回収票数は 614 票
<p>②スクールバス利用者アンケート調査（平成 25 年度）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 50 票配布、41 票回収の回収率 82.0%
<p>③ひまわりクラブ・いきいきクラブ参加者アンケート調査（平成 25 年度）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 90 票配布、58 票回収の回収率 64.4%
<p>④第 1 回実証運行（平成 25 年度）</p> <p>【自宅前送迎車利用登録者アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 65 票配布、35 票回収の回収率 53.8% <p>【スクールバスアンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 50 票配布、20 票回収の回収率 40.0% <p>【ひまわりクラブ・いきいきクラブ参加者アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 83 票配布、56 票回収の回収率 67.5%
<p>⑤第 2 回実証運行（平成 26 年度）</p> <p>【乗合タクシー利用登録者アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 126 票配布、76 票回収の回収率 60.3% <p>【スクールバスアンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 18 票回収
<p>⑥本格運行後（平成 26 年度）</p> <p>【乗合タクシー利用登録者アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 164 票配布、96 票回収の回収率 58.5% <p>【スクールバスアンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 16 票回収
<p>⑦本格運行後（平成 27 年度）</p> <p>【乗合タクシー利用登録者アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 210 票配布、100 票回収の回収率 47.6% <p>【高校生世帯アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 39 票配布、19 票回収の回収率 48.7%
<p>⑧本格運行後（平成 30 年度）</p> <p>【乗合タクシー利用登録のご案内】（町内 75 歳以上の方 251 人を対象に利用登録を案内）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 新規利用登録 23 人 <p>【乗合タクシーアンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 乗合タクシーを 1 回も利用していない 71 人の利用登録者を対象に、自家用車から公共交通の利用転換を促すアンケート調査を実施・ 71 票配布、40 票回収の回収率 43.7%

(7) デマンド交通支援プログラム

①プログラムの保守点検【継続】

- ・アクセス交通の自宅前送迎の運行に合わせ、マイクロバスにおいても情報処理が可能なプログラムに修正する。
- ・プログラムによって情報処理を行う内容は以下のとおりである。
- ・予約状況の集計（日にち別便別方面別）
- ・運行便の利用者リストの作成
- ・利用者リストの乗車、あるいは降車順の並べ替えと予定到着時刻の設定

②運行効率化のための活用【継続】

- ・プログラムに入力したデータを用いて以下の項目で集計を行い、運行の効率化を検討する基礎的なデータとして活用する。
- ・方面別便別利用者数、平均乗車人数及び運行・運休率
- ・連絡施設の乗降人数
- ・利用登録者毎の年間利用回数 など

5-3. 計画の進行管理

(1) 計画の目標

以下に取組みごとの評価指標と目標、あるいは目標値を設定する。

取組み	評価指標	目標、あるいは目標値	備考
(1)北竜町運営有償運行【新規】 (2)乗合タクシー運行【継続】	輸送人数	13,000人/年	注1
(3)連絡施設間運行便【継続】	輸送人数	300人/年	注2
(4)スクールバス一般利用 【廃止検討】	利用形態 路線数	一般利用のとりやめ 2路線化	
(5)(深川)北竜線【継続】	運行の存続	運行維持	
(6)モビリティ・マネジメント			
①高齢者運転免許証自主返納サ ポート事業【継続】	返納者数	65名/5ヵ年	注3
②新規利用登録者の募集【継続】	新規利用登録者数	11人/5ヵ年	注4
③利用案内パンフレットの作成 【継続】	分かりやすさ	分かりやすいが50%以上	
④愛称の募集【新規】	愛称の設定年次	2021年度中	
⑤利用者への意向調査の実施 【継続】	調査実施の頻度	計画期間中に 1回以上の実施	
(7)デマンド交通支援プログラム			
①プログラムの修正【継続】	修正作業の実施	アクセス交通の改変に合 わせた実施	
②運行効率化のための活用 【継続】	集計分析頻度	計画期間中に 1回以上の活用	

注1 令和元年度乗車人数 乗合タクシー 1,884人
 スクールバス一般利用 2,674人
 中央バス滝川北竜線乗降調査結果(日数:R4.10~R5.9)
 平日平均 32人/日×247日= 7,904人
 土曜平均 24人/日×50日= 1,200人
 日曜平均 19人/日×68日= 1,292人 計 10,396人
 合計 14,954人

直近5年間の人口減少率 $1,759人(R2.9) \div 2,046人(H26.9) = 0.86$

目標値 $14,954人 \times 0.86 = 12,860 \approx 13,000人/年$

注2 北竜町地域内フィーダー系統確保維持改善計画(補助対象期間 R2.10.1~R3.9.30)から設定

注3 近年の実績値により設定(H27:15名、H28:8名、H29:12名、H30:15名、R1:13名)5ヵ年で63名≒65名

注4 北竜町総合計画(地域公共交通登録者数 2018年度末229人→2023年度末240人 5ヵ年で11人増)

(2) 取組みの期間

本計画における個々の取組みの期間は、以下に示すとおりである。

取組み	2021 年度 R 3	2022 年度 R 4	2023 年度 R 5	2024 年度 R 6	2025 年度 R 7
(1)北竜町運営有償運行【新規】	準備	一部路線運行		全面自宅前送迎	
(2)乗合タクシー運行【継続】	現行 の運行	本計画の運行			
(3)連絡施設間運行便【継続】	現行 の運行	本計画の運行			
(4)スクールバス一般利用 【廃止検討】	現行 の運行	一般利用とりやめ	2路線化		
(5)（深川）北竜線【継続】	維持				
(6)モビリティ・マネジメント					
①高齢者運転免許証自主返納サ ポート事業【継続】	維持				
②新規利用登録者の募集【継続】	募集				
③利用案内パンフレットの作成 【継続】	—	改定 (一部路線運行)		改定 (全面自宅前送迎)	
④愛称の募集【新規】	募集	—			
⑤利用者への意向調査の実施 【継続】	—		実施	—	
(7)デマンド交通支援プログラム					
①プログラムの修正【継続】	修正				
②運行効率化のための活用 【継続】	—		活用	—	

(3) 計画の達成状況の評価

基本的な方針に基づき計画に位置づける取組みを進めていくにあたって、取組みの実施スケジュールに関するPDCAサイクルや、各取組みについてのPDCAサイクルを確実に実施し、北竜町地域公共交通活性化協議会において取組みの検証結果を共有化する。

具体的には、1年から2年の短期で実施状況の確認・評価を行い、必要に応じて事業や取組みの内容を見直す。また本計画で設定した「計画の目標」についての評価を5年後に実施し、計画全体の妥当性の確認と見直しの必要性について明確化する。

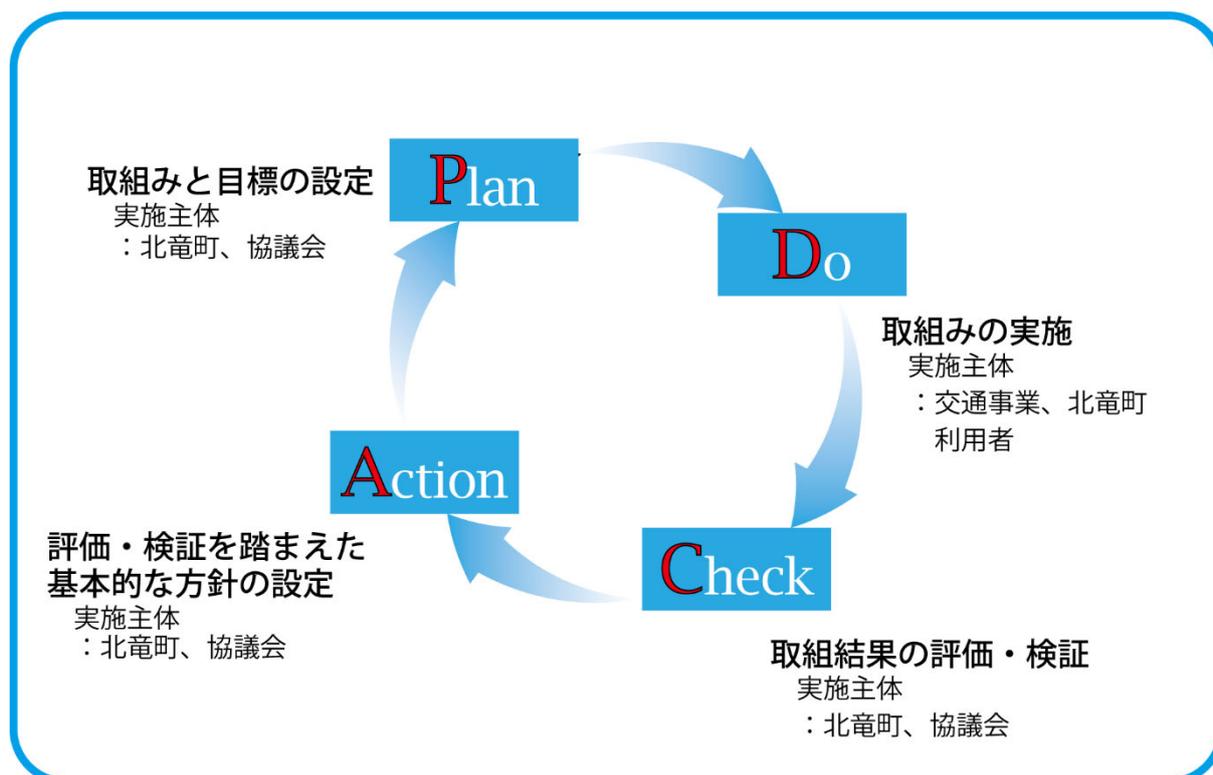


図 北竜町地域公共交通活性化協議会におけるPDCA

(4) その他計画の実施に関し余市町が必要と認める事項

この計画に定める各種取組み実施については、北竜町地域公共交通活性化協議会において連絡調整を行うものとする。